

飯 能 市 郷 土 館 館 報

# 郷土館のプロフィール

*Profile 2005-2007*

活動報告書

第5号

平成17年度

平成19年度



飯能市郷土館



## あいさつ

飯能市郷土館館報（活動報告）第5号をお届けします。

この館報は、郷土館の活動をその内容だけでなく、事業評価を盛り込みながら記録としてまとめたもので、自発的な情報公開を目的として発行するものです。

今回収録したのは平成17年度から19年度にかけての事業です。この3年間は、地域に根ざした調査や展示などの諸事業、さらに市民学芸員や定点撮影プロジェクトに代表されるような市民との交流事業が定着し、実を結んだ時期と言えましょう。

平成17年度は、この年1月の名栗村との合併を受け、名栗庁舎改装オープン記念の「内田晃展」、定点撮影プロジェクト写真展「名栗を撮る」などの合併にちなんだ事業を展開しました。特にこの年の特別展「飯能の水力発電」では吾野地域、名栗地域の埋もれた歴史遺産を掘り起こし、それを多くの方々に伝えることができました。

平成18年度には当館が所蔵する西川材関係用具448点が埼玉県有形民俗文化財に指定されました。「森林文化都市」を宣言した本市にとって、このコレクションは「森林文化の遺産」として格別な意味を持つ文化財と言えます。しかもこれを市民学芸員の協力を得ながら自前の調査・整理を経て指定文化財へと結実させたことは大変意義深いものとなりました。

平成19年度は、年度当初に開館以来50万人目の入館者を迎え、幸先の良いスタートをきりました。この年には特別展として「西川林業の道具」を開催したほか、市民のコレクションを展示する「マイ・コレ。」（マイ・コレクション展）の開催、第4期市民学芸員の養成など、市民参加の活動に力を入れた年でもありました。

今後とも郷土館は、地域情報が集まる場、市民が交流する場、あるいは飯能ならではのものを発信していく場になるよう努力して参ります。より多くの市民の皆さまのご参加、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成21年3月

飯能市郷土館  
館長 新井 孝治

# 目 次

---

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

---

## 第1章 施設

建物平面図	6
面積表	7
常設展示の概要	8

---

## 第2章 事業

各年度の事業概要	10
年度別事業一覧	11
展 示	
（各年度の特別展・収蔵品展）	14
（その他の展示）	26
講座・学習会	34
交流	40
博学連携	50
資料・施設の利用	56
レファレンスの対応	65
講師派遣	67
収集	68
整理・保存	72
調査・研究	76
刊行物	78
ホームページ	79
名栗村史編さん事業	80
郷土館協議会	83
博物館実習	85

---

## 第3章 各種データ

入館者数	88
歳出予算	89
図書資料寄贈機関	90
職員	93
飯能市郷土館条例・施行規則	94

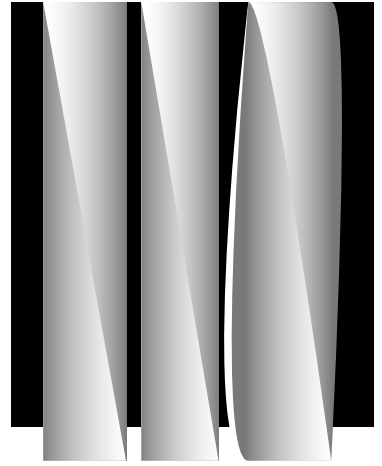
---

表紙：「飯能市郷土館」ペン・水彩 1990年 小島喜八郎画

## 沿 革

昭和46年 3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
昭和50年 4月	飯能市総合振興計画の基本構想に郷土館建設がうたわれる。
昭和61年 3月	(株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61年 6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62年 3月	飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
昭和62年 7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63年 6月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元年 4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1、係員1)が配置される。
平成元年 6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着工する。
平成元年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2年 4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2年 4月	<b>飯能市郷土館が開館する。</b> (常勤職員は館長1、学芸員1、主事補1)
平成2年 4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」「わたしの宝物―思い出に残る品々―」開催。
平成2年 8月	特別展「戦時中の暮らし」開催。
平成2年 8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年開催)
平成2年10月	特別展「飯能文化萌ゆ」開催。
平成2年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され自主活動を続ける。
平成3年 2月	特別展「ひなまつり」開催。
平成3年 4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。
平成3年 7月	友の会主催の郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成3年10月	特別展「絹は語る」開催。
平成4年 4月	特別展「写真にみる幕末・明治」開催。
平成4年 8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ! 古代からのメッセージ。」を開催。(生涯学習課と共催。平成6年までは毎年開催、その後は隔年で開催)
平成4年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。
平成5年 1月	友の会主催による「まゆ玉づくり」開催。以後、毎年開催する。
平成5年 4月	特別展「商―飯能の広告展―」開催。
平成5年 6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成5年10月	特別展「碑―連帯のエネルギー―」開催。
平成6年 3月	『飯能の昭和史年表』発行。
平成6年 4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で、初めて特別展の図録をつくる。
平成6年10月	特別展「ジャパンマイセン―瀬戸の磁器人形―」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展は除く)
平成7年 4月	特別展「いろどりとにぎわいのとき―飯能の民俗芸能・屋台囃子と獅子舞―」開催。
平成7年 7月	常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成7年10月	特別展「飯能の村医者―幕末・明治の医療―」開催。
平成8年 4月	特別展「猫・ねずみ―絵ぞうし展―」開催。
平成8年 5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。

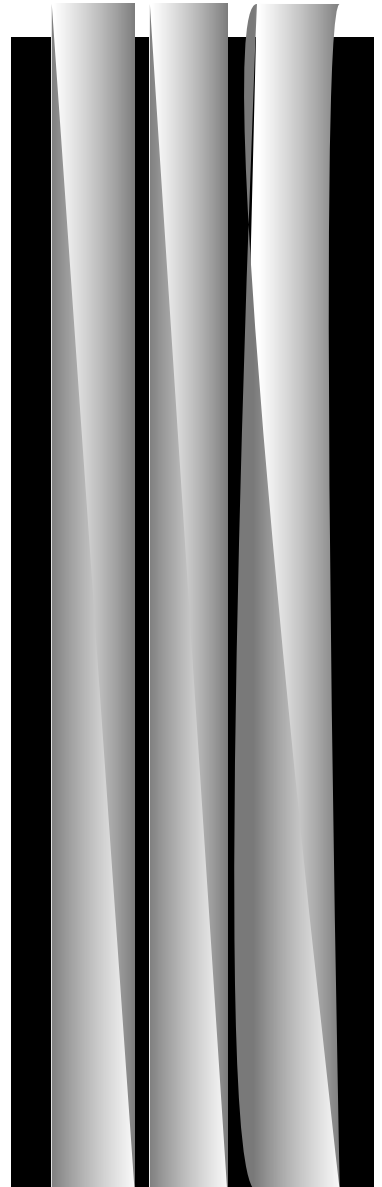
平成8年8月 常設展示等企画委員会発足。(任期は平成10年3月まで)  
 平成8年10月 特別展「飯能の刀匠—小沢正壽を中心として—」開催。会期中に展示図録が完売する。  
 平成9年3月 『飯能市郷土館館報』第1号発行。  
 平成9年3月 特別展「明治のハイカラ美人—手彩色絵葉書—」開催。  
 平成9年10月 特別展「祈りのメッセージ—飯能の絵馬—」開催。  
 平成10年4月 特別展「高麗の里の独楽展—昔遊びのすすめ—」開催。  
 平成10年4月 「やさしい古文書講座」開催。この講座の受講生を中心に「古文書勉強会」が結成され自主活動  
 を続ける。  
 平成10年8月 恒例の「夏休み子ども歴史教室」を「夏休み親子歴史教室」と改称して実施。  
 平成10年9月 「中学生社会科研究展」開催。(以後毎年開催)  
 平成10年10月 特別展「時の記憶—飯能の写真展—」開催。  
 平成10年11月 市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。  
 平成10年12月 開館以来の入館者数が30万人を突破。  
 平成11年3月 収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展を開催することとする)  
 平成11年10月 開館10周年記念特別展「わたしの宝物展」開催。  
 平成12年1月 第1期市民学芸員養成講座開始。  
 平成12年2月 特別展「飯能のスポーツ史」開催。  
 平成12年3月 **博物館法に基づく登録博物館となる。**  
 平成12年10月 特別展「飯能、戦後の暮らし」開催。  
 平成13年2月 第2期市民学芸員養成講座開始。  
 平成13年3月 『研究紀要』第1号発行。  
 平成13年5月 「郷土館だより」創刊号発行。  
 平成13年9月 これまでの「中学生社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学生社会科研究展」として  
 開催。  
 平成13年10月 特別展「黎明のとき—飯能焼・原窯からの発信—」開催。この特別展より夜間開館を実施する。  
 平成14年10月 特別展「うちおり—織物に込められた想い—」開催。  
 平成14年10月 郷土館ホームページをインターネット上に公開開始する。  
 平成15年3月 『収蔵資料目録』I 発行。  
 平成15年7月 市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。  
 平成15年8月 開館以来の入館者数が40万人を突破。  
 平成15年10月 特別展「中山氏と飯能・高萩—時と街を結んだ武士の系譜—」開催。  
 平成16年2月 第3期市民学芸員養成講座開始。  
 平成16年10月 入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川—その流域の今昔—」開催。  
 平成17年1月 名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を郷土館が引き継ぐ。  
 平成17年1月 常勤職員が5人(館長、学芸員2、主査2)となる。  
 平成17年10月 特別展「飯能の水力発電—吾野名栗に電気がひけた日—」開催。  
 平成19年3月 郷土館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。  
 平成19年4月 常勤職員5人のうち館長以外の職員が全て学芸員となる。  
 平成19年4月 開館以来の入館者が50万人を突破する。  
 平成19年4月 郷土館ホームページを全面的に更新する。  
 平成19年4月 第4期市民学芸員養成講座開始。  
 平成19年6月 市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。  
 (以後、毎年2回開催)  
 平成19年10月 特別展「西川林業の道具—森林文化の遺産—」開催。  
 平成20年3月 『名栗の民俗』(下巻)、『名栗の歴史』(上巻)刊行。



# 第 1 章

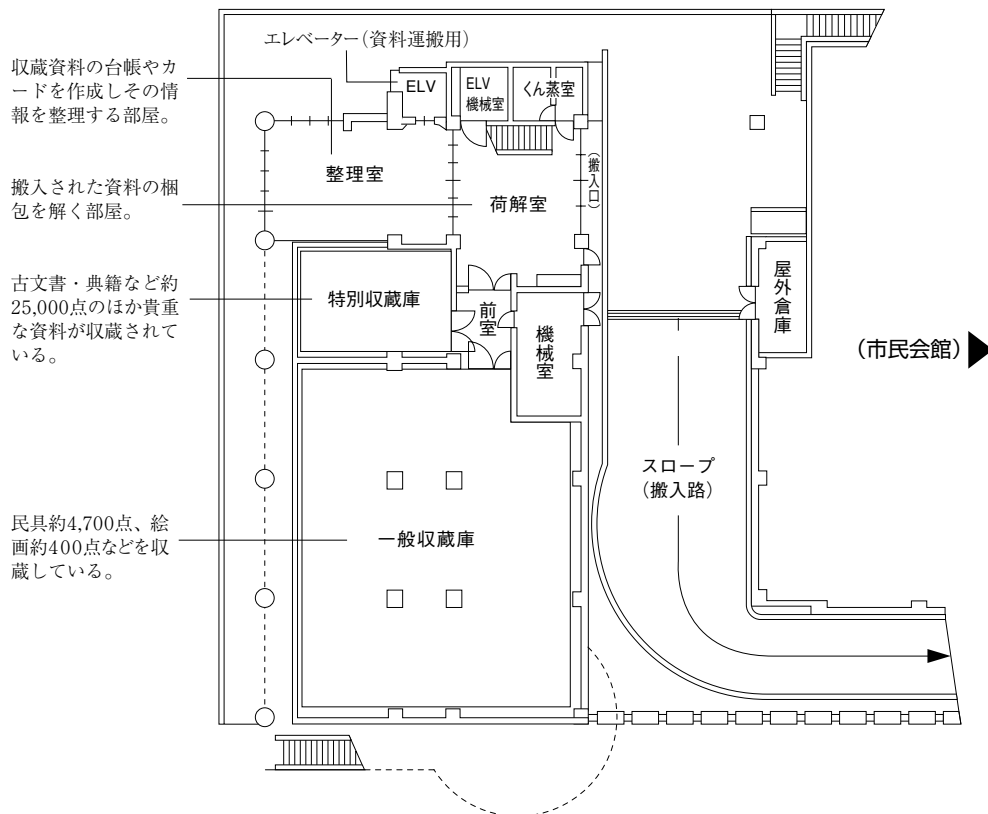
..... Chapter 1 .....

## 【 施 設 】



# 建物平面図

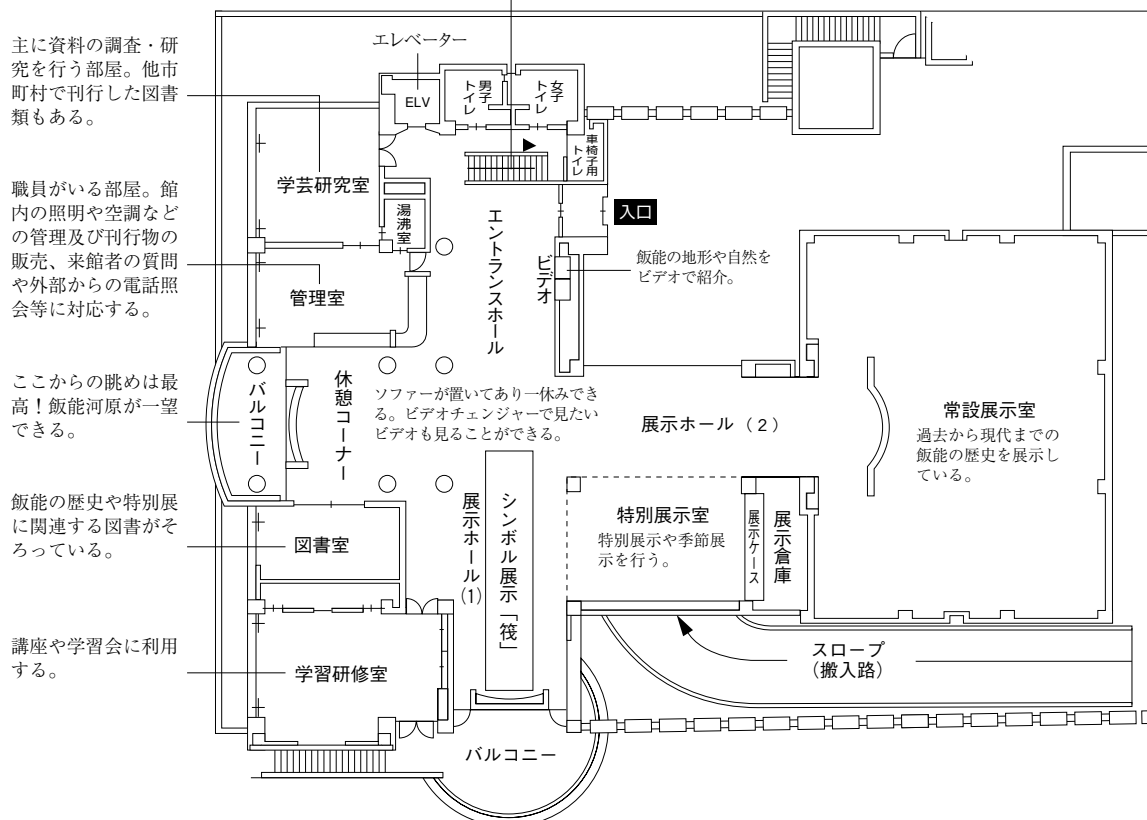
## < 1 階 >



## < 2 階 >

※ < R 階 > 階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

(駐車場)



(市民会館)



## 面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
1階	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	車椅子用トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
2階	959.774	エレベーター	7.500
常設展示室	273.965	R階	40.040
特別展示室	59.850	階段	15.846
展示倉庫	20.675	階段ホール	15.944
展示ホール(1)	139.750	エレベーター	8.250
展示ホール(2)	88.128		
エントランスホール	103.131	合計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内訳	面積(㎡)	割合(%)
教育普及	展示(常設・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他(学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管理	(管理室)	38.558	2.6
その他		377.72	25.2

敷地面積 3,626.12㎡ 建築面積 1,165.999㎡

## 施設修繕の経緯

### 平成17年度

- 貯水槽の揚水ポンプ・水位センサー・制御リレー 取り替え。
- 浄化槽プロアーの部品修繕。

### 平成18年度

- 冷暖房温度自動制御装置取り替え。
- 休憩コーナーの雨漏り修繕(銅板屋根～壁取合いシーリング打替え)。

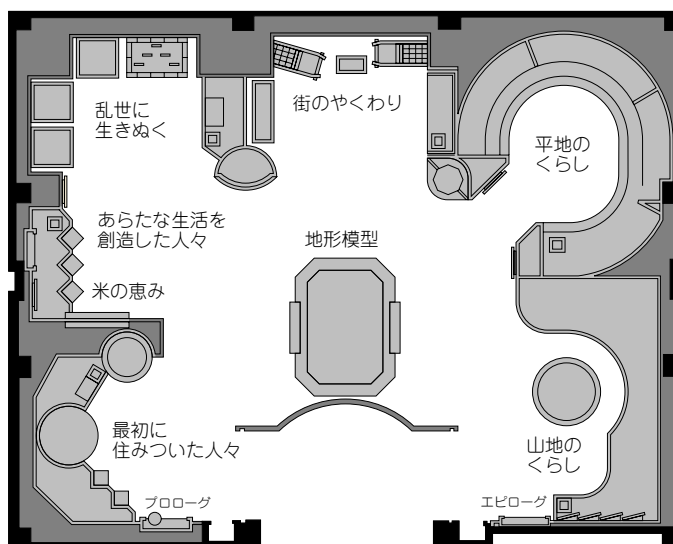
- 自動火災報知設備(感知器)取り替え。
- 風除室の自動扉(外扉)開閉装置取り替え。

### 平成19年度

- 貯留槽内の配水ポンプに接続している配水管取り替え。
- 空調設備(ホール用)の圧縮機取り替え。
- 屋上キュービクルの屋根塗装。
- 空調機受水槽の漏水修繕。
- 空調設備(ホール用)のVベルト取り替え。

## 常設展示の概要

常設展示には、展示ホール（1）のシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。  
常設展示室は下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。



### ○展示資料の変更

#### ① 常設展示室「山地の暮らし」のコーナー

展示してある樹木標本のキャプションを改め、クイズ形式で樹種名を回答してもらう内容のものとした。また、飯能周辺の林業とは直接関係のない樹種が混ざっていて誤解を生じる恐れがあったため、一部の樹種標本を休憩コーナーに移動した。  
(平成18年7月)

〔移動した樹種標本〕 梅・桜・桐・胡桃・樺

〔残した樹種標本〕 杉・檜・赤松・榎・小檜

#### ② 常設展示室「街のやくわり」(近世、近現代)のコーナー

このコーナーのケース内には武州一揆、飯能戦争、太平洋戦争の3種類の資料が展示してあったが、まとまりがつかみにくいこと、さらに長期間展示すると資料劣化の恐れがあることから、定期的に展示資料を交換することとした。今回は太平洋戦争関係の資料を撤収し、飯能戦争関係の資料を展示した。  
(平成18年7月)

〔撤収した資料〕 4点

大政翼賛会実践要綱の基本解説、軍隊手帳、加治愛国婦人会会員名簿、鉄かぶと

〔新たに展示した資料〕 1点

大砲玉箱

#### ③ 常設展示室「山地の暮らし」のコーナー、シンボル展示「筏」

県指定文化財となった資料の劣化や破損、盗難を防ぐため、指定されていない同種の資料と交換した。

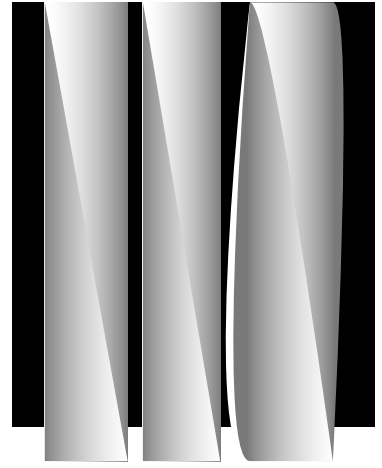
(平成19年7月)

〔撤収した資料〕 3点

ササミノ (No.782)、テビキノコ (No.659)、ヨキ (No.676)

〔新たに展示した資料〕 3点

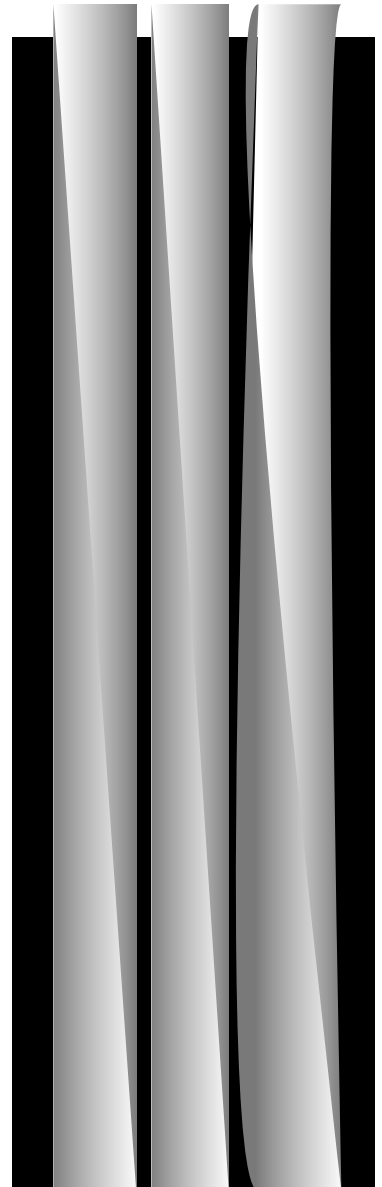
ササミノ (No.4923)、テビキノコ (No.4698)、ヨキ (No.1353)



## 第 2 章

…… Chapter 2 ……

# 【 事 業 】



## 各年度の事業概要

### 平成17年度

平成17年1月1日、飯能市は名栗村と合併した。合併に伴い、当館の業務に新たに名栗村史編さん事業が加わり、常勤職員が1人増員され、5人（館長1、学芸員2、主査2）となった。

名栗村との合併という歴史的な出来事を経験し、当館でも合併にちなんだ事業をいくつか展開した。飯能市・名栗村合併記念特別事業として実施したものと、7月9日から8月7日に名栗庁舎改装オープン記念として開催した「内田晃展」、7月17日から8月31日まで開催した定点撮影プロジェクト写真展「名栗を撮る」があげられる。また、特別展「飯能の水力発電」では吾野地域とともに名栗地域にあった水力発電を取り上げ、名栗地域の歴史遺産を多くの方に伝えることができた。

そのほか、平成15年度から進めてきた林業に関する道具の調査も、17年度から本格的に調査・整理をすすめた。

### 平成18年度

平成18年度は予算の関係から、開館以来初めて特別展を開催できない年となってしまった。このため、春には年度収藏品展「新収藏品資料・小島喜八郎氏絵画展」を、秋には収藏品展「郷土館は玉手箱―消防用具を中心に―」を開催した。

当年度の最大の出来事は、当館が所蔵する西川材関係用具448点が、平成19年3月16日付けで埼玉県の有形民俗文化財に指定されたことである。森林文化都市である飯能市にとって、当コレクションは「森林文化の遺産」として格別な意味を持つ文化財であり、これを市民学芸員の協力を得ながら自前の調査・整理を経て指定文化財へと結実させたことは、大いに意義深いものとなった。

### 平成19年度

平成19年4月8日、開館以来の入館者が50万人を達成した。平成2年4月20日の開館以来、開館日数で5,056日目にあたる。記念すべき50万人目の入館者は双柳小学校の4年生で、沢辺滯壺市長、佐野春雄市議会議員、西沢榮一教育長臨席のもとで記念式典がおこなわれ、認定証と記念品、花束が贈呈された。

平成19年度は館長以外の職員4人がすべて学芸員となったため、事業内容の充実を図ることができた。市民のコレクションを展示する「マイ・コレ。」(マイコレクション展)を開始したほか、第4期市民学芸員の新規養成、ホームページの全面更新などを行った。特別展は、前年度末に県の有形民俗文化財に指定された西川材関係用具を展示した「西川林業の道具」を開催した。これは森林文化都市宣言推進事業に位置付け、多彩な関連事業、関連グッズの販売、館周辺での展示開催を示す幟旗設置などを行った。

事業内容の充実にともない、平成14年度以来、減少傾向にあった入館者数が増加に転じた。



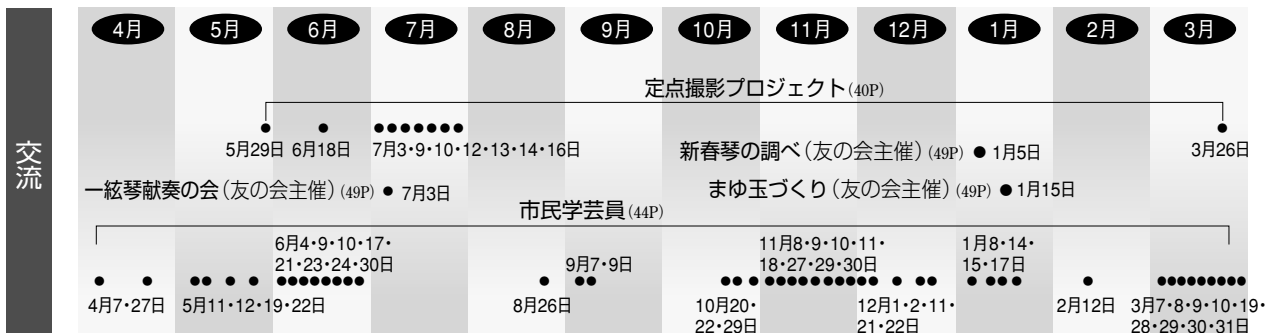
「飯能の西川材関係用具」文化財指定書交付式



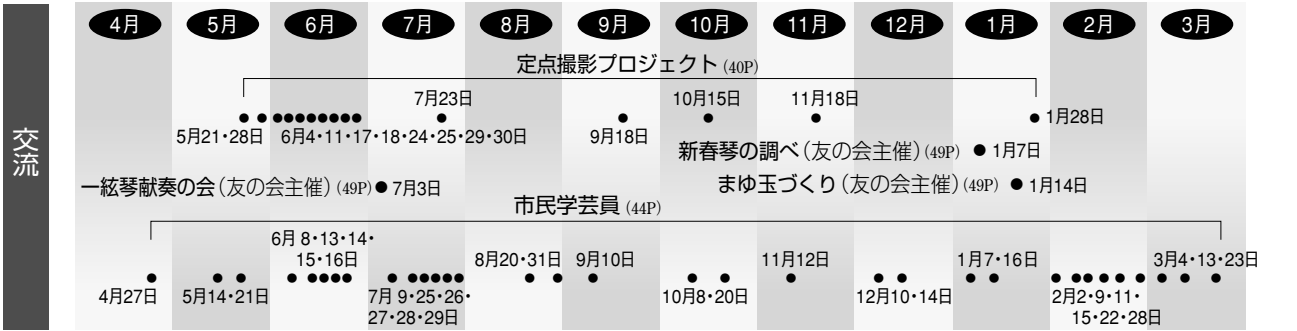
入館者50万人目瞬間

# 年度別事業一覧

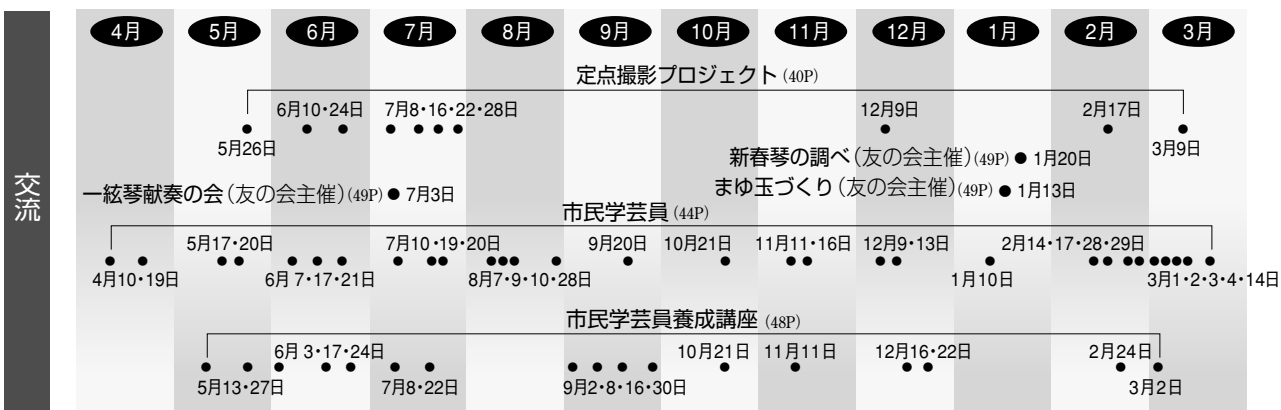
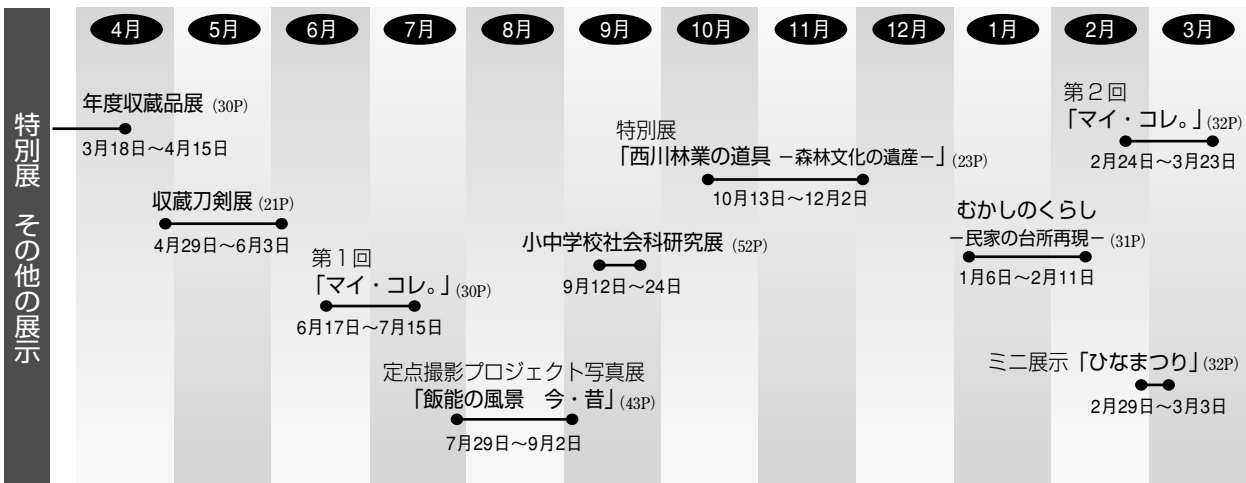
## 平成17年度



# 平成18年度



平成19年度



平成17年度

収藏品展

## 郷土館は玉手箱 4 一度量衡の民具を中心にー

期 間 平成17年4月24日(日)～5月29日(日)  
開館日数 29日間  
入館者数 2,438人(1日平均84.1人)  
展示点数 71点  
総 経 費 127,692円(入館者1人あたり52.4円)  
(内 訳) 賃金 68,880 消耗品費 39,792 事務通信費 19,020

### 1. 趣 旨

当館では開館以来、市民の方々を中心に多数の資料を寄贈していただき、それらを普段は収蔵庫に保存している。これらの資料を積極的に展示、公開し資料の有効活用を図ると共に、収蔵庫の棚卸しによる資料の点検及び収蔵庫内の清掃等も目的として収藏品展「郷土館は玉手箱」を平成14年より実施している。第4回目となる今回は、度量衡に関する民具を中心に展示した。

展示では、単位や度量衡の歴史を紹介するとともに、クイズや体験コーナーを設けることで、正確に計測するための知恵をわかりやすく実感できるように配慮した。これらを通して、人類が「はかる」という行為とどのように向き合い工夫を重ねてきたかを学べる展示構成とする。

### 2. 展示の構成

主に、一般収蔵庫積層棚2階K-5及びL-5に収蔵されている資料を展示対象とした。

#### (1) 単位の歴史

導入部として、パネル展示を中心にはかりの重要性や単位の歴史について紹介した。

#### (2) 度量衡の歴史

度量衡に関する民具を計測対象ごとに「度」、「量」、「衡」、「算」、「時」の5つのコーナーに分けて展示し、それぞれの器具の歴史を解説した。

#### (3) 体験コーナー

竿秤や枰などを実際に使ってみることで、様々な工夫を凝らして度量衡と向き合ってきた人々の工夫と知恵を体感してもらった。

なお、同時に平成16年度に新たに収蔵した資料を紹介する「年度収藏品展」を併設した。

### 3. 印刷物

ポスター (A3判白黒) …………… 30枚  
チラシ (A4判白黒2ページ) …………… 300枚  
パンフレット(A4判白黒4ページ) …………… 200部

### 4. 評 価

この展示では、なかなか展示する機会がない資料を広く公開することができた。来館者には当館の収蔵資料の多様性を感じていただけたのではないかと思う。

展示の中にクイズや体験コーナーなどを取り入れることで、度量衡という硬いテーマをより分かりやすく、そして身近に感じてもらうよう工夫した。子どもたちが積極的に参加している姿が多々見受けられた。

一方、資料に関する情報が十分でないものも多かったため、個々の資料の解説が深められなかったことが反省点として挙げられる。参加型の仕掛けが好評であっただけに、個々の資料の面白さを伝えるという点で課題が残った。



展示風景



## ◆展示資料

(敬称略)

No.	名称	寄贈者	収蔵番号
度～長さをはかる～			
1	尺棒	中里 吉平	1915
2	尺棒	中村 源一	1097
3	杉皮の寸法を測る棒	沢田 森吉	2037
4	1ボを測る道具	渋谷 マキ	
5	物差し (もんぎ尺)	宿谷 義友	27
6	物差し	宿谷 義友	33
7	物差し	宿谷 義友	34
8	物差し	宿谷 義友	35
9	物差し		677
10	物差し受け	宿谷 義友	28
11	巻尺	原市場公民館	2789
12	レベル	小川 近	2944
13	水準器		3036
14	測量用具の脚	小川 近	214
量～かさをはかる～			
15	梩	加藤 一	2740
16	五合梩		2447
17	梩	神崎 太一	2263
18	一升梩 (液用)	小川 郁次郎	563
19	一升梩 (穀用)	新井 一太	4422
20	一升梩	神崎 太一	2261
21	斗桶	田島 豊	4154
22	斗桶		
衡～重さをはかる～			
23	棹秤	宿谷 義友	26
24	棹秤	吉澤 律子	2190
25	棹秤	大河原 平三	1288
26	棹秤	植竹 芳雄	1697
27	棹秤		2974
28	棹秤	木崎 良弘	1773
29	棹秤	大河原 長吉	2936
30	棹秤	小川 郁次郎	571
31	棹秤	関根 伊之助	2290
32	棹秤	佐野 照子	3046
33	絹秤	飯能織物協同組合	3518
34	台秤	森下 栄次郎	2935
35	上皿棹秤	横田 春雄	3544
36	台秤	神崎 太一	1595
37	パネ秤	佐野 照子	3045
算～計算する～			
38	そろばん	内沼 源三	4173
39	そろばん	尾島 武平	2219
40	そろばん	石井 源三	1518
41	そろばん	小川 郁次郎	380
42	そろばん	佐藤 久米吉	1477-3

No.	名称	寄贈者	収蔵番号
43	そろばん	小林 聡	2014
44	そろばん	吉澤 律子	2189
45	そろばん	小島 幸次郎	4210
46	そろばん	中村 好男	3387
47	そろばん	宿谷 義友	57
48	そろばん入れ	小林 聡	2013
49	手廻し式計算機	飯能市立図書館	2828
50	手廻し式計算機	飯能市役所	3031-1
51	電子式卓上計算機	小久保 守秩	3912
52	電子式卓上計算機	石森 光三	2257
53	電子式卓上計算機	小南 和子	4087
時～時をはかる～			
54	香時計	清水 廣	2149
55	柱時計		911
56	柱時計	山崎 武夫	1206
57	柱時計	石森 光三	1433
58	柱時計	片原 倉治	2164
59	柱時計		2963
60	柱時計		3005
61	柱時計	横田 春雄	3532
62	時計	飯能高等学校	3462
63	時計	飯能高等学校	3463
64	電波時計	原市場公民館	
体験コーナー			
65	台秤	小林 聡	1964
66	そろばん	小川 久雄	4102
67	手廻し式計算器	飯能市教育委員会	3075
68	棹秤	大河原 長吉	2372
69	一合梩	尾島 武平	2220
70	五合梩	尾島 武平	2221
入口展示			
71	空盒気圧計	飯能第一小学校	2241



体験コーナー

特別展

# 飯能の水力発電 —吾野・名栗に電気がひけた日—

期 間	平成17年10月9日（日）～12月4日（日）				
開館日数	48日間				
入館者数	4,796人（1日平均99.9人）				
展示点数	192点（実物資料105点、写真等87点）				
総 経 費	1,770,156円（入館者1人あたり369.1円）				
（内 訳）	印刷費 997,500	賃 金 193,135	写真関係費 68,439	消耗品費 172,842	
	報償費 60,000	展示委託料 195,550	事務通信費 82,690		

## 1. 趣 旨

飯能市域の山間部にあたる吾野地域、名栗地域には大正時代に造られた水力発電所があった。これらの発電所は、村人たちが自分たちの村に電気を供給するために設立した会社（吾野水力電気株式会社、名栗水電株式会社）によるものである。

開業後は渇水による発電不足に悩まされたり、建設時の借入金返済に苦慮するなど、経営は順調ではなかったが、山間部に電気を供給し続け、地域の近代化に大きな役割を果たした。また、発電所の取水堰や水路の跡は現在でも良好な状態で残されており、往時を偲ぶことができる。

今回の特別展では、残された資料や古写真、現地調査などから復元した、発電所の設備の様子や会社の経営状況などを中心に紹介する。これらを通して、飯能の水力発電が果たした役割や発電所の開業に携わった人々の意気込みを伝え、地域の歴史を見直す契機となることを目的とする。

## 2. 展示の構成

### I 電気の歴史

日本の電気供給事業の歴史の概要をパネル等で紹介した。

### II 飯能に電気がひけた頃

埼玉県内の電気供給区域のひろがりを示す図、入間川電気鉄道計画に関する資料、大正2年(1913)に飯能町に初めて電気がひけた頃の図面や写真などを展示した。

### III 吾野水力電気株式会社

大正9年(1920)6月に設立され、昭和4年(1929)3月に武蔵野鉄道(株)へ譲渡されるまでの会社経営の

状況や発電所設備の様子などを紹介した。建設時の設計図や開業後の日誌などの資料のほか、取水堰と発電所の模型を展示した。

### IV 名栗水電株式会社

大正9年(1920)8月に設立され、昭和14年(1939)12月に東京電灯(株)へ譲渡されるまでの会社経営の状況や発電所設備の様子などを紹介した。経営に関する資料のほか、全長約3,480mに及ぶ水路の実測図や写真、発電所周辺の模型などを展示した。

### V 吾野・名栗の水力発電が果たした役割

水力発電により電気を供給していた西多摩地区のいくつかの会社との比較や、電気利用状況の変遷などから、吾野・名栗の水力発電の意義を探った。さらに、環境への負荷が少ないことから最近各地で取り込まれるようになった小水力発電の試みについても紹介した。

## 3. 印刷物

ポスター	(B2判カラー) ……………	300部
チラシ	(A4判カラー2ページ) ……………	4,000部
展示図録	(A4判カラー46ページ) ……………	700部



展示風景

#### 4. 関連事業

##### ◎歴史講座「飯能の水力発電とその意義」

###### ①「飯能周辺の電気事業の歴史」

日時 10月15日(土) 午後1時30分～  
 講師 天野宏司氏(駿河台大学講師)  
 会場 郷土館学習研修室  
 参加者 23人

###### ②「埼玉の電力事情」

日時 10月29日(土) 午後1時30分～  
 講師 石田光男氏(東京電力株式会社)  
 会場 郷土館学習研修室  
 参加者 13人

###### ③吾野水力発電所跡現地見学

日時 11月12日(土) 午後1時30分～  
 講師 柳戸信吾(当館学芸員)  
 場所 吾野水力発電所跡(バスにて移動後現地見学)  
 参加者 24人

緯や経営状況を明らかにした。

これらの調査成果をもとに、経営状態がわかりやすいようにグラフ等を多用して視覚的な展示に心がけるとともに、現地の様子が伝わるように写真・地図・地形模型等を展示した。この結果、変化のある展示に仕上がった。

見学者からは、飯能に水力発電があった事や経営の苦労に対する驚き、詳細でわかりやすい展示への評価などが寄せられた。見学者の滞在時間も比較的長く、パネルを丹念に読んでいる姿が目立った。飯能の水力発電が果たした役割や発電所の開業に携わった人々の意気込みを伝え、地域の歴史を見直す契機を与えるという当初の趣旨は達成できたと思われる。



吾野発電所跡現地見学

#### 5. 評価

今回の特別展では、地域の水力発電に関する詳細な調査に基づき展示を構成することに留意した。このため、現地に残る水力発電遺構を踏査・測量したり、郷土館等で所蔵している関連資料から設立までの経

#### ◆展示資料

★印は写真資料。

No.	資料名	点数	年代	所蔵者	備考
<b>I 電気の歴史</b>					
1	「東京第一電燈局の発電機」★	1	明治19		『東京電灯株式会社開業五十年史』より
2	「浅草火力発電所」★	1	大正		『東京電灯株式会社開業五十年史』より
3	「駒橋発電所の発電機」★	1	明治40		『東京電灯株式会社開業五十年史』より
4	「猪苗代第一発電所」★	1	大正4		『東京電灯株式会社開業五十年史』より
<b>II 飯能に電気がひけたころ</b>					
5	入間川電気鉄道発電所堰設置に付き公有水面使用願	1	明治30.2	飯能市郷土館	飯能町役場文書5-841 『明治30～32年度土木部雑事』内
6	入間川電気鉄道発電所堰設置に付き請願	1	明治29.11	飯能市郷土館	飯能町役場文書5-837 『明治25～29年度土木部雑事』内
7	飯能町地内官有道路敷を電柱建設の為め帝国瓦斯力電灯(株)使用の件許可指令飯能町電線路略図(複製)	1	大正1.11	埼玉県立文書館	埼玉県行政文書 大119-9
8	帝国電灯(株)電柱道路及道路付属物占用継続願	1	大正9.12	飯能市郷土館	飯能町役場文書5-1097
9	「飯能町大通り」★	1	明治44.12	飯能市郷土館	館蔵写真No6
10	「飯能町大通り」★	1	大正初期	飯能市郷土館	館蔵写真No7
<b>III 吾野水力電気株式会社</b>					
11	電気事業経営許可申請書	1	大正8.2	飯能市郷土館	史料番号5-1587
12	高麗川水利使用許可申請書	1	大正8.2	飯能市郷土館	史料番号5-1586
13	株主名簿	3	大正9	飯能市郷土館	大野勝男氏寄贈
14	株券	1	大正9.6	大野勝男氏	
15	水力発電工事实施許可申請書	2	大正9.6	飯能市郷土館	史料番号5-1585、5-1591
16	吾野水力電気諸書類綴込 第一号	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1589
17	水路予測平面図(複製)	1	大正8.2	飯能市郷土館	史料番号5-1290
18	「大野謙三銅像除幕式」★	1	大正8.10	町田成夫氏	篠原写真館撮影
19	青年団へ集金委託に付き契約書(複製)	1	大正11.1	飯能市郷土館	『吾野水力電気諸書類綴込 第三号』5-1590内
20	吾野村青年団10月分電灯料納付書	1	大正10	飯能市郷土館	史料番号5-1320
21	電灯取付数明細表	1	大正10.10	飯能市郷土館	史料番号5-1319

No.	資料名	点数	年代	所蔵者	備考
22	電灯実地調査簿 東吾野区内	1	大正12.9	飯能市郷土館	史料番号5-1583
23	電灯実地調査簿 吾野区内	1	大正12.9	飯能市郷土館	史料番号5-1584
24	吾野神社電灯配給平面図	1		飯能市郷土館	史料番号5-1311
25	吾野水力電気日誌	7	大正10~昭和4	大野勝男氏	
26	堰堤及取水口構造図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1612
27	水路実測縦断面図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1594
28	水路構造図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1602
29	沈砂池構造図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1620
30	水槽構造図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1603
31	発電所水圧管路縦断面図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1605
32	水圧管構造図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1618
33	水車及吐出管構造図(複製)	1	大正9	飯能市郷土館	史料番号5-1606
34	取水堰模型	1		吾野小学校	縮尺1/50 浅見博助氏作成
35	発電所模型	1		飯能市郷土館	縮尺1/100 製作協力 道楽ぼーず
36	「発電所(吾野名所絵葉書)」★	1	大正	飯能市郷土館	館蔵写真No428
37	事業譲渡の覚書	1	昭和3.8	飯能市郷土館	史料番号5-1592
38	臨時株主総会開催通知	1	昭和3.8	飯能市郷土館	史料番号5-1592
39	臨時株主総会決議録	1	昭和3.9	飯能市郷土館	史料番号5-1592
40	事業譲渡許可命令書	1	昭和4.2	飯能市郷土館	史料番号5-1592
41	事業譲渡費領収書	1	昭和4.3	飯能市郷土館	史料番号5-1592
42	「武蔵野鉄道吾野変電所新築落成記念」★	1	昭和4.9	佐野敏夫氏	金子写真館撮影
<b>IV 名栗水電株式会社</b>					
43	「取水堰」★	1	昭和5	佐野国太郎氏	名栗水電創立十周年絵葉書
44	「取入口」★	1	昭和30代	島田稔氏	
45	「水路」★	1	大正	加藤衛祐氏	篠原写真館撮影
46	「沈砂池」★	1	大正	加藤衛祐氏	篠原写真館撮影
47	「第九号隧道出口」★	1	大正	加藤衛祐氏	篠原写真館撮影
48	「有間川と水路」★	1	大正	加藤衛祐氏	篠原写真館撮影
49	「有間ダム建設前の有間川風景」★	2	昭和51	矢島英一氏	
50	「有間ダム建設風景」★	2	昭和54	矢島英一氏	
51	「水圧鉄管」★	1	大正	加藤衛祐氏	篠原写真館撮影
52	「水圧鉄管と発電所」★	1	昭和5	佐野国太郎氏	名栗水電創立十周年絵葉書
53	「発電所建物外観」★	1	昭和30代	島田稔氏	
54	「発電所への小学生見学」★	2	昭和30代?	東京電力(株)川越支社	
55	「発電所の内部にて記念」★	2	昭和30代?	東京電力(株)川越支社	
56	発電所付近模型	1		飯能市郷土館	縮尺1/400 製作協力 道楽ぼーず
57	「飯能火力発電所外観」★	1		豊住三芳氏	「名栗水電譲渡記念史」より
58	「飯能火力発電所内部」★	1	昭和5	佐野国太郎氏	名栗水電創立十周年絵葉書
59	名栗川電気生産組合設立許可申請書	1	大正6.5	加藤衛祐氏	
60	名栗川電気生産組合定款	1	大正6.5	飯能市郷土館	史料番号5-1523
61	配電区域離脱並に変更願書	1	大正8.7	飯能市郷土館	史料番号5-1266
62	白谷沢発電計画設計図(複製)	2		加藤衛祐氏	
63	発電水路起業計画説明書	1	大正8.11	加藤衛祐氏	
64	有間川発電所水路工事設計仕様書	1		加藤衛祐氏	
65	名栗水力電気(株)定款	1	大正9	豊住三芳氏	
66	株式申込書	1	大正9.5	豊住三芳氏	
67	「名栗水電本社」★	1		加藤衛祐氏	篠原写真館撮影
68	「本社前での重役記念」★	1		加藤衛祐氏	篠原写真館撮影
69	電灯供給規定	1	大正10.8	飯能市郷土館	史料番号7-1996
70	電灯供給規定	1	大正10.8	小沢高司氏	
71	電灯料受領書	2	大正11	岡村茂雄氏	
72	青年団集金成績一覧表	1	昭和11	平沼宏之氏	
73	電動機据付費に付き内規	1	大正12.2	加藤衛祐氏	
74	名栗水電事業報告書	38	大正9~昭和14	豊住三芳氏	
75	名栗水電(株)買収案	1	昭和12	平沼宏之氏	
76	電気事業統制に関する折衝現状説明書	1		平沼宏之氏	
77	成木水電研究資料	1	昭和12.1	平沼宏之氏	
78	資産査定説明書	1	昭和14.4	平沼宏之氏	
79	名栗水電事業譲渡記念史	1	昭和15.4	豊住三芳氏	
<b>V 吾野・名栗の水力発電が果たした役割</b>					
80	ラジオ	1	昭和10~25?	飯能市郷土館	民具No4084 浅見武喜氏寄贈
81	製材用丸ノコの刃	1	昭和40初頭まで	飯能市郷土館	民具No3635 梅林賢三氏寄贈

## 郷土館は玉手箱 5 —消防用具を中心に—

期 間	平成18年10月8日(日)～12月3日(日)							
開館日数	47日間							
入館者数	4,296人(1日平均91.4人)							
展示点数	81点(実物資料67点、写真等14点)							
総経費	275,867円(入館者1人あたり64.2円)							
(内訳)	印刷費	78,750	賃 金	50,825	写真関係費	15,802	消耗品費	27,290
	展示委託料	66,150	事務通信費	37,050				

## 1. 趣 旨

郷土館で収蔵している資料をテーマごとに紹介する「郷土館は玉手箱」の5回目として、消防に関する用具を展示する。

明治時代までは延焼を防ぐために周りの家屋を壊す「破壊消火」が主体であり、その後、消防用具が改良されて水をかける消火方法に移り、現在では高性能のポンプ車や薬剤等を使用するものとなっている。このような消防用具の変遷がわかるように収蔵資料を展示する。

また、飯能市に消防本部ができ専門の消防士が置かれたのは昭和34年であり、それまでは地元の住民によって組織された消防組(その後、警防団、消防団と改称)が、猛火の恐怖と戦いながら消火にあっていた。市民の方々から寄贈された消防用具は、住民たちが自らの手で地域を守ってきたという誇りの証<sup>あかし</sup>とも言える。このような先人たちの気持ちも同時に感じてもらえるように配慮する。

## 2. 展示の構成

## (1) 消防の歴史

飯能の消防の歴史をパネルや古写真等を用いて解説した。また、消防の歴史に関係する消防組の半纏<sup>はんてん</sup>や消防組旗、看板などの実物資料を展示した。

## (2) 消防用具

消防に関する用具を種類ごとにコーナー分けして展示した。コーナーは、消火用具、破壊消火の用具、消火器、消防用ホース、呼吸保護器、纏<sup>まと</sup>、各消防組の纏、防火衣、火防巡視用具、半鐘である。

## 3. 印刷物

ポスター (B2判カラー) …………… 300部

チラシ (A4判白黒1ページ) ……700部  
パンフレット (A4判白黒4ページ) ……500部

## 4. 評 価

収藏品展では原則として収蔵資料で展示を構成するため、展示の趣旨を限られた資料でどう伝えるかが課題となる。今回テーマとした消防に関する用具は比較的多くの種類の資料を収蔵していたため、まとまった展示ができた。しかし、消防は一般にはなじみが薄いこともあり、趣旨を十分に伝えきれなかった反省点が残る。展示方法にもう少し工夫が必要であろう。さらに用具だけでなく、災害史的な観点からのアプローチも必要だったが、今回の展示ではそこまで踏み込むことができなかった。



展示風景

◆展示資料

(敬称略)

No.	資料名	寄贈者	資料番号
1	吾野消防組旗	吾野公民館	4789
2	加治消防組旗	加治消防団	262
3	加治村消防組焼印		3030
4	飯能町消防組半纏	橋本博光	3819
5	東吾野消防組半纏	井上章治	4310
6	飯能消防組半纏	小川久雄	3118
7	原市場消防組半纏	飯能市消防本部	3575
8	加治消防組半纏	飯能市消防本部	3576
9	飯能警防団事務所看板	小川 近	2516
10	加治警防団第5分団旗	加治公民館	263
11	吾野警防団半纏	飯能市消防本部	3574
12	予防査察員腕章	飯能市消防本部	3582
13	水鉄砲	小川郁次郎	493
14	水鉄砲	小谷野重雄	1270
15	水鉄砲	山川信一	2046
16	水鉄砲	町田勇一	2766
17	水鉄砲	金子辰雄	
18	手桶	芦荻場自治会	305・306
19	消防用桶	飯能市消防本部	3565
20	雲龍水	加治消防団	220
21	腕用ポンプ	芦荻場自治会	1081
22	鳶	中村好男	3376
23	鳶	小川 近	155
24	鳶	小川 近	156
25	鳶	大河原長吉	2369
26	鳶	芦荻場自治会	309
27	鳶	宿谷義友	40
28	大鋸	川寺自治会	446
29	大鋸	川寺自治会	447
30	鉋	川寺自治会	445
31	破瓶型消火器		929
32	破瓶型消火器	飯能市消防本部	3583
33	水槽付消火ポンプ	西沢義三郎	2962
34	水槽付消火ポンプ	旧東吾野支所	745
35	水槽付消火ポンプ	飯能市消防本部	3584

No.	資料名	寄贈者	資料番号
36	軽便ポンプ	早野充一	3675
37	軽便ポンプ	丸屋酒店	3103
38	軽便ポンプ	土屋宗治	2100
39	筒先	芦荻場自治会	310・311
40	消防用ホース	飯能市消防本部	3567・3595
41	消防用ホース	飯能市消防本部	3593・3597
42	ライフゼム型呼吸器	飯能市消防本部	3571
43	ケモックス	飯能市消防本部	3569
44	南高麗消防組の纏	飯能市消防本部	3585
45	精明消防組の纏	飯能市消防本部	3586
46	加治消防組の纏	加治消防団	451
47	東吾野消防組の纏	旧東吾野支所	715
48	刺子頭巾	大河原平三	1284
49	刺子頭巾	宿谷義友	99
50	防火頭巾(革製)	小川郁次郎	536
51	手袋	大河原平三	1285
52	刺子半纏	大河原平三	1283
53	消防用ラッパ	小川 近	3745
54	刺子帽子	川寺自治会	226
55	防火帽		2458
56	明治時代の防火衣	菊池好太郎	2995～2999
57	刺子外套と刺子帽子	飯能市消防本部	2459・3600
58	現在の防火衣	(埼玉西部広域消防本部より借用)	
59	拍子木	森田晶治	3909
60	拍子木	横田春雄	3535
61	火防巡視用金棒	芦荻場自治会	237
62	火防巡視用金棒	芦荻場自治会	236
63	火防巡視用金棒	川寺自治会	444
64	半鐘(加治村岩沢)	飯能市消防本部	2433
65	半鐘(原市場村)	飯能市消防本部	3591
66	半鐘(精明村芦荻場)	飯能市消防本部	3588
67	警鐘信号板	芦荻場自治会	400

古写真

No.	名称	年代	備考(所有者等)
1	飯能町ほか12ヶ村連合消防点検	大正6(1917)	3枚。新井写真館撮影 小槻よし氏寄贈
2	原市場村・名栗村連合消防演習	大正9(1920)	篠原写真館撮影 加藤衛弘氏所蔵
3	消火栓の放水状況	昭和7(1932)	『飯能町上水道竣工記念帳』より
4	昭和31年の消防ポンプ自動車	昭和31(1956)	郷土館所蔵広報ネガ372
5	消防署開所式	昭和34(1959)	飯能市写真広報224号
6	消防署の望楼	昭和34(1959)	郷土館所蔵広報ネガ454
7	稲荷町の消防署	昭和42(1967)	秘書室広報公聴担当所蔵ネガ281
8	救急業務開始	昭和43(1968)	秘書室広報公聴担当所蔵ネガ328
9	科学消防車配備	昭和44(1969)	秘書室広報公聴担当所蔵ネガ522
10	はしご車配備	平成3(1991)	秘書室広報公聴担当所蔵ネガ3139
11	埼玉西部防災センターの開設	平成8(1996)	秘書室広報公聴担当所蔵ネガ3888
12	飯能町第一部の消防訓練	大正頃	新井写真館撮影 小山健仁氏所蔵
13	絡車	昭和38(1963)	秘書室広報公聴担当所蔵ネガ23
14	放水訓練	昭和36(1961)	郷土館所蔵広報ネガ548

# 収蔵刀剣展

期 間	平成19年4月29日(日)～6月3日(日)				
開館日数	31日間				
入館者数	3,135人(1日平均101.1人)				
展示点数	16点				
総 経 費	249,714円(入館者1人あたり79.7円)				
(内 訳)	印刷費 83,790	賃 金 44,280	写真関係費 44,972	消耗品費 17,722	
	報償費 28,000	通信運搬費 30,950			

## 1. 趣 旨

当館では、平成8年度に特別展「飯能の刀匠—小沢正壽を中心として—」を開催した。この展示会は1日平均の入館者数が168.4人を記録し、図録も会期中に売り切れるなど非常に好評であった。このことは、刀剣が人気の高い展示資料であったことはもちろんであるが、本市には、現代刀匠の小沢寿久氏が在住しており、多大な協力を得られたことも大きな要因であったといえる。

このことを受けて当館では、平成11年に文化庁に対し接收刀剣類の譲与申請を行い、その結果10振の刀剣を譲与された。そしてその研磨を平成12年度から開始し、平成16年度にすべての刀の研磨が終了した。

また、当館には平成2年の開館以来、受贈、受託もしくは購入をした刀剣、刀装具があるが、これまで公開する機会がなかった。そこで、研磨が終了した接收刀剣類と併せてこれらを展示することとし、市民に美術品としての刀剣、刀装具の魅力を理解してもらうことを目的とした。

## 2. 展示の構成

### I 刀剣

接收刀剣10振のほか、当館で受託している県指定文化財「実忠打刀」及び市指定文化財となっている藤枝太郎英義の刀各1振を展示した。

### II 刀装具

拵が刀の付指定となっているもの及び当館で所蔵している金工落合寿親の作品2点を展示した。

## 3. 印刷物

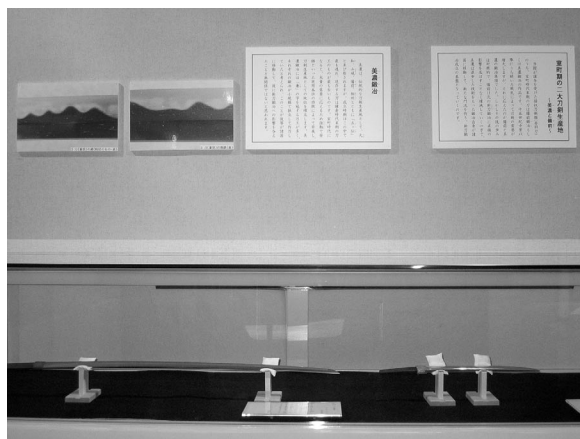
ポスター (B2判カラー) ……………	300部
チラシ (A4判1色2ページ) ……………	250部

## 4. 評 価

本市は近世において、川越や行田といった城下町であったわけではないので、刀工が在住していたという歴史もないし、刀剣が多く残されている土地柄でもない。しかし、昭和に入って野鍛冶から転じて刀匠となった故小沢正壽師、そしてそれを継承されている寿久師が、本市で刀を鍛えている期間は既に半世紀を超えた。しかも親子揃って日本美術刀剣保



展示風景



刀の見所を示した拡大写真

存協会のコンクールで輝かしい賞歴をもっている。このことは、「現代刀匠の住むまち」が飯能の1つの顔として定着したと考えてよいだろう。

とすれば、本市は現代刀匠が存在しているという、市民に日本刀を理解し、身近に感じるための絶好の条件をもっていることになる。平成8年度の特別展開催後に、こうした思いを館長を初めとする職員が感じており、そのタイミングでの接収刀剣類譲与の通知は、まさにそれを具体化するまたとない機会となった。それは、いうならば「美術刀剣啓発プロジェクト」とでもいうべきものの出発点であった。

その1つの到達点が今回の収蔵品展である。当館で収蔵している刀剣、刀装具を一同に展示し、こういった美術品も収蔵していることを市民に対してはもちろん、市外に向けてもアピールしようとする意図もあった。もとより当館で収蔵している刀は、国指定文化財や重要美術品となっているような、いわゆる「名刀」ではない。一流のものでないと美術品としての刀剣鑑賞の世界へと導くには難しいという意

見もあるが、当館で所蔵している郷土刀といわれる、地域で活躍した刀工の作品は逆に身近な親しみを感じやすいのではないか。それは地域博物館の収蔵資料としてもふさわしいものであろう。

したがって、今回の展示は、美術刀剣に興味をもってもらうきっかけづくりとする意味から、それぞれの刀の見所を、拡大写真などを用いて示すように心がけ、また解説にはすべてルビを入れた。

その結果、地鉄の拡大写真やルビを付した解説の内容について評価する意見をアンケートで確認することができた。しかしその一方で、寸尺表示で長さを表してほしい、見づらい、照明が暗い、刀装具をもっと展示してほしい、といった意見も寄せられた。特に照明が暗い、見づらいといった指摘は、今回の展示の趣旨が十分に展示に反映されていないことを示しており、課題が残った。ただ、アンケートの記入率は3%に過ぎないものの、そこでは75%が展示をおもしろい、と回答していることからおおむね成功であったと考えている。

## ◆展示資料

### I. 刀 剣

展示No.	種別	銘文		長さ(cm)	反り(cm)	時代	国名	所蔵の経緯	備考
		表	裏						
1	太刀	則包	—	76.6	3.0	鎌倉中期		吉良憲夫氏寄贈	
2	短刀	関住兼□	—	27.4	0.3	室町末期	美濃	接収刀剣類	No.8067
3	刀	兼景	—	71.8	1.6	室町末期	美濃	接収刀剣類	No.628
4	刀	(無銘)		71.2	2.0	室町末期		接収刀剣類	No.3714
5	脇指	(無銘)	(切付銘)一胴拂土壇入	58.6	1.4	室町末期		接収刀剣類	No.4126
6	刀	備州長船祐定	—	65.2	1.4	室町末期	備前	接収刀剣類	No.4278
7	刀	備州長船(祐)定	永禄□年十二月日	70.1	2.7	室町末期	備前	接収刀剣類	No.1533
8	刀	日州古屋之住実忠作	永禄十二年五月五日	70.8	1.2	室町末期	日向	個人寄託	県指定文化財
9	脇指	河内守藤原国助	—	45.8	1.4	江戸前期	摂津	接収刀剣類	No.1012
10	脇指	井上和泉守国貞	(菊紋)寛文二年二月日	51.5	0.8	江戸前期	摂津	接収刀剣類	No.946
11	脇指	(菊紋)出羽守法橋源光平	—	51.8	0.9	江戸前期	武蔵	接収刀剣類	No.2949
12	刀	相模守(下)原広重	—	74.8	1.0	江戸前期	武蔵	接収刀剣類	No.2497
13	刀	藤枝太郎英義作之	慶應二年十二月吉日	76.4	1.2	江戸末	武蔵	双木利八郎氏寄贈	付落合寿親拵市指定文化財

### II. 刀装具

展示No.	種別	資料名	銘文	法量	時代	金工	所蔵の経緯など
14	拵	蔦岡打刀拵	(鐔表)「鐵翁 (印形)寿親」 (鐔裏)「慶應四戊辰仲夏為並木鑄之」	全長：107.0 cm 反り：11.5 cm	慶應4年 (1868)	落合寿親	双木利八郎氏寄贈 (No.13の付指定)
15	香炉	蔦に蝗岡香合	(蓋)「鐵翁 (印形)寿親」	最大幅：10.4 cm 高さ：4.2 cm	幕末～明治	落合寿親	平成8年度購入
16	鉄砲	松竹梅岡 先込め管打ち式鉄砲	「明治十八年初春」 (台かぶ)「我野石田」 (台締金)「鐵翁 (印形)寿親」	全長：131.5 cm 銃身長：101.5 cm 口径：9.1 mm	明治18年 (1885)	落合寿親	平成9年度購入



特別展 **西川林業の道具** —森林文化の遺産—

期 間	平成19年10月13日(土)～12月2日(日)				
開館日数	44日間				
入館者数	5,355人(1日平均121.7人)				
展示点数	103点				
総 経 費	1,571,694円(入館者1人あたり293.5円)				
(内 訳)	印刷費	865,410	賃 金	201,300	写真関係費 38,960 消耗品費 225,314
	報償費	50,000	展示委託料	139,650	事務通信費 51,060

### 1. 趣 旨

市域の7割以上が山林である飯能市では、西川林業に象徴されるように古くから森林の恵みを楽しみ、森林と共生する生活が営まれてきた。

これらを踏まえて当市は、「森林文化都市宣言」を行い、まちづくりの基本理念として「森林文化」を位置づけた。この特別展は「森林文化都市宣言推進事業」として実施されるもので、森林を育ててきた道具と人々の生活を通して飯能の「森林文化」について考える契機となる展示とする。

併せて、当館所蔵の西川林業に関する道具類が「飯能の西川材関係用具」として埼玉県有形民俗文化財に指定されたことを記念して、広く公開する機会とする。

### 2. 展示の構成

#### エピローグ「山の神」

展示会場への導入として、山の入口にあった山の神祠を再現し、山に生きた人々の祈りについて紹介した。

#### I 「飯能と西川林業」

基礎知識として飯能における森林及び西川林業の概況や歴史について紹介した。

#### II 「西川の森林の道具たち ～森林を育てた人々～」

植林から伐採に至る林業の作業工程に沿って、それぞれの工程で使用していた道具類を多数展示し、森林を育ててきた先人たちの技や知恵を紹介した。

#### III 「森林の恵みを活かす ～人々を育てた森林～」

かつての山の暮らしでは、様々な形で森林の恵みを楽しみ、老若男女を問わず森林で働き、生計を立ててきたのである。当コーナーでは、人々が森林と共に生きてきた生活とその道具を展示した。

#### IV 「森林文化都市をめざして ～人と緑かがやくまちへ～」

まとめとして、森林文化都市宣言の趣旨に則した飯能の森林文化を知り・伝える取り組みや森林資源を活用するための活動などを紹介し、今日における飯能の森林文化について展示した。

### 3. 印刷物

ポスター	(B 2判カラー)……………	300枚
チラシ	(A 4判カラー2ページ) ……	4,000枚
展示図録	(A 4判カラー46ページ) ……	800部

### 4. 関連事業

#### 【当館主催事業】

#### ◎歴史講座「西川林業の歴史と民俗」

##### ①「西川林業 山の道具あれこれ」

日 時	10月27日(土)午後1時30分～3時
講 師	井上峰次氏(林業家)
会 場	当館学習研修室
参加者	21人



展示風景

## ②「山の道・川の道と西川林業」

日 時 11月11日(日)午後1時30分～3時  
講 師 大久根茂氏(さきたま史跡の博物館学芸  
主幹)  
会 場 当館学習研修室  
参加者 32人

## ③「近世西川林業の技術と労働」

日 時 11月24日(土)午後1時30分～3時  
講 師 脇野 博氏(秋田工業高専教授)  
会 場 当館学習研修室  
参加者 22人

## ◎ギャラリートーク～森林の仕事語る～

日 時 10月20日(土)・11月23日(金)  
午前11時～11時30分  
案内人 大野久男氏(10月20日)、  
大久保里見氏(11月23日)  
会 場 当館特別展示室  
参加者 10月20日…8人、11月23日…14人

## ◎親子でチャレンジ！そりひき体験

日 時 11月18日(日)午後1時30分～3時  
指導者 井上淳治氏、大野清治氏(西川林業クラブ)  
会 場 当館エントランス  
参加者 29人

## 【協賛事業】

### ◎仕事唄ライブ

日 時 12月2日(日) ①午後1時30分～2時10分  
②午後2時30分～3時10分  
会 場 当館休憩コーナー  
出 演 小澤千月氏(民謡家)、飯能の民踊を踊  
り継ぐ会ほか  
主 催 みんなネットワーク飯能  
参加者 ①110人 ②45人

## 5. 評 価

この特別展は、森林文化都市宣言推進事業並びに埼玉県指定有形民俗文化財指定記念事業として実施した。そのため当展示には2つの目的があった。1つは、飯能の「森林文化」について啓発し広く普及すること、もう1つは指定文化財となった当館所蔵の林業関係用具をお披露目することである。

前者に関しては、展示の企画段階から、当館の全学芸員で協議し、飯能の「森林文化」についての提起を試みた。また、西川材を身近に感じてもらえるようにミュージアムグッズ(西川材製のしおり、カード立て、ミニカヌー)の開発と販売を行い、好評であった。



ギャラリートーク



親子でチャレンジ！そりひき体験



仕事唄ライブ

後者に関しては、展示構成を作業工程順にし、指定文化財となった資料を可能な限り各種満遍なく展示するように心がけた。また、子どもにも分かりやすい展示とするために、パネルに総ルビを入れるなどの工夫をした。

しかし、「森林文化」という不明瞭なテーマ設定だったためか、展示のポイントが絞りがきれておらず散漫な感があった。

林業という馴染みが薄い展示の割には来館者数が多く、郷土を見直す契機となった点で評価できる。しかし、テーマ設定等では課題が残る展示となった。今後も「森林文化」は、当館のテーマでありつづけるのかもしれない。

# ◆展示資料目録

★印は写真資料

資料名	点数	所蔵者	備考
<b>プロローグ 山の祈り</b>			
祠	1	個人蔵	
オミキスズ	1	飯能市郷土館	本展用に作成
弓矢	2	飯能市郷土館	本展用に作成
印ばんでん	1	飯能市郷土館	民具No.843 鹿戸富吉氏寄贈
<b>I. 飯能と西川林業</b>			
樹種標本(杉・松)	2	飯能市郷土館	
「昭和20年代の飯能駅周辺」★	1	飯能市郷土館	
高麗川材木商組合後継夫の証	1	飯能市郷土館	民具No.2200 朝日直吉氏寄贈
レコード「西川音頭」	1	個人蔵	
<b>II. 西川の森林の道具たち ~ 森林を育んだ人々 ~</b>			
苗木(杉・松)	2	埼玉県山林種苗協同組合入間支部	
唐鍬	1	飯能市郷土館	民具No.81 岡部喜作氏寄贈
「植林」★	1	平沼関太郎氏	
間刈鎌	1	飯能市郷土館	民具No.1546 木崎利夫氏寄贈
間刈鎌	1	飯能市郷土館	民具No.2274 岩本信蔵氏寄贈
砥石	1	飯能市郷土館	民具No.4834 名栗村教育委員会より移管
砥石袋	1	飯能市郷土館	民具No.4636 埼玉県森林研究所寄贈
糞	1	飯能市郷土館	民具No.4823 名栗村教育委員会より移管
枝打ち痕標本	1	きまま工房木楽里	
大鉦	1	飯能市郷土館	民具No.825 岩本信蔵氏寄贈
大鉦	1	飯能市郷土館	民具No.4868 村野源一氏寄贈
腰鉦	1	飯能市郷土館	民具No.2036 澤田森吉氏寄贈
腰鉦	1	飯能市郷土館	民具No.2071 中村源一氏寄贈
ムカデバシゴ	1	飯能市郷土館	民具No.4761 埼玉県森林研究所寄贈
「枝打ち」★	1	島田 稔氏	
「伐採現場」★	1	吉田 一博氏	
ヨキ	1	飯能市郷土館	民具No.676 岩本信蔵氏寄贈
ヨキ	1	飯能市郷土館	民具No.2874 井上峰次氏寄贈
ヨキ	1	飯能市郷土館	民具No.4865 大久保里美氏寄贈
ヤ		飯能市郷土館	民具No.4887 大野通泰氏寄贈
カナヤ	1	飯能市郷土館	民具No.4889 大野通泰氏寄贈
テノビノコ	1	飯能市郷土館	民具No.659 社会教育課より移管
テノビノコ	2	飯能市郷土館	民具No.4854・No.4856 大野久男氏寄贈
テノビノコ	1	飯能市郷土館	民具No.4561 村野源一氏寄贈
テマガリノコ	1	飯能市郷土館	民具No.4862 大久保里美氏寄贈
テマガリノコ	1	飯能市郷土館	民具No.4863 大久保里美氏寄贈
テマガリノコ	1	飯能市郷土館	民具No.4703 名栗村教育委員会より移管
改良鋸	1	飯能市郷土館	民具No.648 鹿戸富吉氏寄贈
改良鋸	1	飯能市郷土館	民具No.4566 島田文代氏寄贈
改良鋸	1	飯能市郷土館	民具No.4884 大野通泰氏寄贈
アセリ槌	1	飯能市郷土館	民具No.4861 大野久男氏寄贈
金敷	1	飯能市郷土館	民具No.4899 大野通泰氏寄贈
「伐採現場」★	1	吉田 一博氏	
「伐採現場」★	1	矢島 一氏	
「リン組み」★	1	飯能市郷土館	名栗村教育委員会より移管

資料名	点数	所蔵者	備考
ソリ(梶棒あり)	1	飯能市郷土館	名栗資料室収蔵資料
ソリ	1	飯能市郷土館	名栗資料室収蔵資料
肩当	1	飯能市郷土館	民具No.1668-4 中村源一氏寄贈
肩縄	1	飯能市郷土館	民具No.1668-2 中村源一氏寄贈
カスガイ	1	飯能市郷土館	民具No.4582 田島仙治氏寄贈
カスガイ(ソリ橋用)	1	飯能市郷土館	民具No.4894 大野通泰氏寄贈
「ソリ曳き」★	2	大野 広幸氏	
「連結ゾリ」★	1	大野 広幸氏	
「ソリを担ぐ」★	1	大野 広幸氏	
「ソリ橋」★	1	町田 平吉氏	
「ソリ橋」★	1	矢島 一氏	
「ソリ曳き」★	1	清水登代子氏	
荷車(地車)	1	飯能市郷土館	民具No.4610 高野桂一氏寄贈
「荷車」★	1	島田 稔氏	
「材木置場」★	1	飯能市郷土館	
「飯能停車場前集材風景」★	1	渋谷 義三氏	
竹藪	1	飯能市郷土館	民具No.4797 名栗村教育委員会より移管
大藪	1	飯能市郷土館	民具No.687 岩本信蔵氏寄贈
トチ	2	飯能市郷土館	民具No.4858、No.4859 大野久男氏寄贈
「修羅」★	1	飯能市郷土館	埼玉県「埼玉県写真帖」 (大正元年発行)より
「大藪使用風景」★	1	大野 広幸氏	
チェーンソー	1	西川広域森林組合	
枝打ち機	1	西川広域森林組合	
刈払い機	1	西川広域森林組合	
「トラック搬出」★	1	島田 稔氏	
「高性能林業機械」★	1	埼玉県川越農林振興センター林業部	
<b>III. 森林の恵みを活かす ~ 人々を育んだ森林 ~</b>			
背負梯子	1	飯能市郷土館	民具No.4820 名栗村教育委員会より移管
炭俵	1	飯能市郷土館	体験学習用
「炭のショイダシ」★	1	島田 稔氏	
「飯能町への初荷」	1	町田英二氏	
皮まわし・まわし入れ	1	飯能市郷土館	民具No.1887 加藤尚美氏寄贈
皮まわし	1	飯能市郷土館	民具No.4870-1 村野源一氏寄贈
ヘラ	1	飯能市郷土館	民具No.4870-2 村野源一氏寄贈
カワマルキ鎌	1	飯能市郷土館	民具No.4632 浅見善一氏寄贈
皮削り	1	飯能市郷土館	民具No.4632 岡部貞雄氏寄贈
皮剥き鎌	1	飯能市郷土館	民具No.4871 村野源一氏寄贈
前挽鋸	1	飯能市郷土館	民具No.4804 名栗村教育委員会より移管
前挽鋸	1	飯能市郷土館	民具No.4817 名栗村教育委員会より移管
前挽鋸	1	飯能市郷土館	民具No.3563 駒井薫氏寄贈
前挽鋸	1	飯能市郷土館	民具No.1585 木崎利夫氏寄贈
「木挽き」★	1	飯能市郷土館	
削りヨキ	1	飯能市郷土館	民具No.624 大西春太郎氏寄贈
削りヨキ	1	飯能市郷土館	民具No.4843 名栗村教育委員会より移管
<b>IV. 森林文化都市をめざして ~ 人と緑がやくまちへ ~</b>			
ベレットストーブ	1	飯能市農林課	
西川材使用住宅プレート	1	飯能市農林課	
夢馬住民票	1	飯能市市民課	
夢馬ギネスレコード認定証	1	飯能商工会議所	
カヌー	1	名栗カヌー工房	

展示

## その他の展示

当館では、収藏品展や特別展のほかにも、文化財の普及啓発や収蔵資料の紹介などを目的として、いろいろな展示をおこなってきた。ここでは、それらを紹介する。

### 平成17年度

#### 内田 晃 展

期 間 平成17年7月9日(土)～8月7日(日)  
会 場 名栗庁舎3階集会室(ギャラリー)  
開館日数 29日間 展示点数 70点  
入館者数 2,012人(1日平均69.4人)

##### 1. 趣 旨

平成16年4月に飯能にゆかりのある洋画家内田晃氏が亡くなり、遺族から飯能市に絵画60点、デッサン10点が寄贈された。これらの作品は郷土館で収蔵してきたが、文化芸術の高揚に役立てるとともに寄贈を顕彰することを目的として、飯能市・名栗村合併記念事業及び名栗庁舎改装オープン記念として名栗庁舎で展示会を開催した。

##### 2. 内 容

会期中に一部の展示替えを行い、寄贈された作品70点すべてを展示した。展示に当たっては内田氏の画家としての系譜(作品の変化など)と作品の広がり(作風の種類など)が分かるように配慮した。

作品はほとんどが100号を越える大作であり、見学者にとって十分満足できる見応えのある展示会となった。



オープンセレモニー

なお、展示会開催にあたっては飯能絵画連盟、内田氏のご遺族、内田絵画教室の方々々に全面的に協力していただいた。

##### 3. 関連事業

###### ◎絵画鑑賞ツアー

展示及び名栗地域内の名栗湖、カヌー工房、農林産物加工直売所を見学するバスツアーを3回開催した。

日 時 7月10日(日)・7月23日(土)・7月28日(木)

いずれも午前9時～午後0時30分

参加者 7月10日…23人 7月23日…28人  
7月28日…7人

#### 小学3年生見学対応展示

#### むかしのくらし—民家の台所再現—

期 間 平成18年1月14日(土)～3月31日(金)  
開館日数 65日間 展示点数 108点  
入館者数 6,171人(1日平均94.9人)

##### 1. 趣 旨

毎年、市内の小学3年生が郷土学習の一環として郷土館に来館し見学や体験学習を行うが、そのうち、体験学習では火のしと石臼の体験を実施している。

火のしの体験はこれまで、机の上で実施していたが、昔の民家を模した空間の中でおこなったほうがより学習効果があるとの判断から、平成14年度から特別展示室の一角に民家の一部を再現した展示をおこない、



展示風景

そこで体験することとした。この展示は同時にミニ展示として位置付けた。

## 2. 内 容

民家の茶の間と土間の様子を再現した。囲炉裏を中心とした茶の間では囲炉裏まわりの道具や茶の間にある家具などを展示した。土間にはかまど、流し場を設けて関連する道具を展示するとともに、農具などを展示した。

また、このスペースを利用して日本の昔話を聞く関連事業を開催した。

## 3. 関連事業

◎「郷土館で昔話を聞こう」

日 時 2月19日(日)・2月25日(土)

両日とも午後1時30分～午後3時

講 師 お話の会「なんじやもんじゃ」の会員

会 場 「むかしのくらし」展示会場

参加者 2月20日…50人 2月25日…31人

### ミニ展示

#### 「ひなまつり」

期 間 平成18年3月1日(水)～3月5日(日)

開館日数 5日間 展示点数 4点

入館者数 412人(1日平均82.4人)

### 1. 趣 旨

飯能市街地商店街の活性化を主な目的として3月1日から5日まで「雛飾りお宝展 in 飯能」が開催された。これは「森と街をむすぶ木馬をつくる会」が主催となり、商店街の店先や民家の座敷などに雛飾りをしてもらい、観光客や市民に雛飾りの見学と街の散策を楽しんでもらう企画である。雛飾りをした商店や民家は45箇所であった。

郷土館では収蔵している雛人形を、メイン会場となった「ギャラリー・ゼフィルス」と「店蔵・絹甚」に貸し出して展示したほか、郷土館内にも雛人形を展示した。



エアータイト展示ケース内の展示

## 2. 内 容

展示ホールに設置したエアータイト展示ケース(間口2.7m×奥行1.2m×高さ2.5m)内に3対の内裏雛を、館入口のケース内に1対の内裏雛を展示した。

期間中の土・日曜日となった3月4日・5日は街中に多くの人出があり、郷土館にも両日とも130人以上の入館者があり盛況だった。

## 平成18年度

### 年度収蔵品展

—新収蔵資料・小島喜八郎氏絵画展—

期 間 平成18年4月23日(日)～6月4日(日)

開館日数 36日間

展示点数 111点(第1部18点、第2部93点)

入館者数 3,001人(1日平均83.4人)

### 1. 趣 旨

当館で収蔵する資料は、その多くが市民からの寄贈によって成り立っている。開館以来これまで数多くの資料を受け入れてきたが、その多くは展示する機会がなく、寄贈者から不満の声も聞こえるように



第1部展示風景

なった。そのため、その年に寄贈された資料を年度末に一室に展示することにより、寄贈者のご好意に応えるとともに、最新の収蔵資料を市民に公開する場として、「年度収蔵品展」を平成13年度から実施した。

今回の展示は、平成17年度に寄贈を受けた資料を展示するものである。しかし、スペースの関係から寄贈資料すべてを展示することは不可能なため、寄贈者1人最低1点は展示できるように資料を選定した。また、平成17年度には小島喜八郎氏より多数の絵画の寄贈を受けたため、これについては、1つのコーナーでまとめて紹介した。

## 2. 内容

展示は、第1部「小島喜八郎氏が描く飯能の風景」、第2部「新収蔵資料」の2部構成とした。第1部では、小島喜八郎氏より寄贈された絵画のうち、主なもの18点を展示ホールに展示し、描写地点の地図を示す



第2部展示風景

とともに、描かれた風景の今の様子を写真で紹介した。第2部は、平成17年度に寄贈された民具、古写真、古文書、書籍類を特別展示室に展示し、資料に関する情報を小解説文で紹介した。

## 埋蔵文化財出土品展（生涯学習課共催） 掘り起こせ！古代からのメッセージPart 9 くらべてみよう！古代と縄文

期 間 平成18年7月30日(日)～9月3日(日)  
開館日数 31日間 展示点数 150点  
入館者数 2,425人（1日平均78.2人）

### 1. 趣 旨

飯能市内には縄文時代と奈良・平安時代の遺跡が多く存在し、調査成果が蓄積されてきている。これまでの出土品展ではそれぞれの時代をテーマに個別の展示を行ってきたが、両時代を並べて比較し、暮らしぶりや社会の違いを学ぶことを目指す。

また小・中学生の夏休み期間に開催することから、作業を通して理解を深めてもらいたいと考え、ただ遺物やパネルを並べるだけでなく体験参加型の展示手法を取り入れる。また児童・生徒向けの書き込み式の研究ノートを作成し、楽しみながら勉強できるようにする。

### 2. 内 容

展示室に縄文時代と奈良・平安時代の住居跡（上屋なし）を模式化したものを原寸大で復元、両時代の展示スペースを視覚的に分離して、遺物や解説パネル、クイズ形式のキットを展示し、以下の項目について比較した。また、平成16・17年度に実施した



展示風景

発掘調査の成果を速報する最新出土品コーナーを併設した。

#### a) 住居

復元住居をもとにそれぞれの時代の住居の形や構造を理解するとともに、縄文時代の炉と奈良・平安時代のカマドの違いを各時代の土器の特徴とともに説明した。

#### b) 日常の道具

それぞれの時代の生産用具（縄文時代は石器、奈良平安時代は鉄器と土製品）を展示。クイズ形式で道具の使用方法を考え、遺物をよく観察してもらえるように配慮した。

#### c) 非日常の道具

祭祀や特殊な立場の人が使用する道具を展示して、日常生活以外の遺物にスポットを当て比較した。

#### d) 暮らし

縄文時代は衣食住の衣、古代は食に着目した内容で、このコーナーだけは縄文と古代を同じキーワードで展示していない。

縄文人の服装を着せ替え人形のようにコーディネートできる大きな絵、当時の都と飯能の食事の献立をたくさんのメニューの中から選んで配膳し比較するなど、遊びながら考えられるように工夫をした。

### 小学3年生見学対応展示

#### むかしの暮らし - 民家の台所再現 -

期 間 平成19年1月5日(金)～3月4日(日)

開館日数 51日間 展示点数 108点

入館者数 5,564人 (1日平均109.1人)

#### 1. 趣 旨

小学3年生の見学に対応した展示で、囲炉裏を中心とした茶の間と土間を再現した。

#### 2. 内 容

展示内容は平成17年度のものとはほぼ同じであるが、今回は高齢者の介護施設等にも積極的に周知を行った。このため、これらの施設から団体で来館する事も多かった。

また、小学3年生が体験する火のしと石臼は人気があり、また体験したいという声が多く上がっていたため、親子で再度体験できる関連事業を企画した。

#### 3. 関連事業

◎「郷土館で昔話を聞こう」



「郷土館で昔話を聞こう」

日 時 2月18日(日)午後1時30分～3時

講 師 お話の会「なんじやもんじゃ」の会員

会 場 「むかしの暮らし」展示会場

参加者 21人

◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日 時 3月4日(日)午前10時～午後3時

指導者 当館市民学芸員

会 場 当館特別展示室・休憩コーナー

参加者 火のし・炭火アイロン体験 83人

石臼体験 76人

### ミニ展示

#### 「ひなまつり」

期 間 平成19年3月1日(木)～3月4日(日)

開館日数 4日間 展示点数 15点

入館者数 756人 (1日平均189.0人)

#### 1. 趣 旨

飯能市街地商店街の活性化を主な目的として「森と街をむすぶ木馬をつくる会」が主催した第2回「雛飾りお宝展 in 飯能」に合わせたミニ展示。この企画には昨年より多い64箇所の商店や民家が参加して雛飾りが行われた。

郷土館では展示ホールに雛人形を展示した。

#### 2. 内 容

昨年度より規模を拡大し、エアータイト展示ケー



展示風景

ス内だけでなく展示ホールにも内裏雛、段飾り、舞踊人形などを展示した。

市街地での人出は昨年以上に多く、郷土館にも多くの入館者があった。

## 年度収蔵品展

— 春一番お宝拝見！ —

期 間 平成19年3月18日(日)～4月15日(日)

開館日数 24日間 展示点数 102点

入館者数 2,439人(1日平均101.6人)

### 1. 趣 旨

その年に寄贈された資料を年度末に一堂に展示することにより、寄贈者のご好意に応えとともに、最新の収蔵資料を市民に公開することを目的とした展示。今回は18年度に寄贈された資料を展示した。

### 2. 内 容

寄贈資料すべてを展示することは不可能なため、寄贈者1人最低1点は展示できるように資料を選定した。



展示風景

また、平成19年3月9日に指定された埼玉県指定有形民俗文化財「飯能の西川材関係用具」の中から平成18年度に寄贈されたものを展示した。これは県指定後、初めての一般公開となった。

## 平成19年度

### 第1回

## 「マイ・コレ。」(マイコレクション展)

期 間 平成19年6月17日(日)～7月15日(日)

開館日数 25日間 展示点数 364点

入館者数 2,171人(1日平均86.8人)

### 1. 趣 旨

現代の大量生産、大量消費社会において、われわれは多くのものに囲まれて生活している。そうした中で価値観の多様化が進むとともに、従来の美術品や骨董品といったもの以外にも、様々なものが個人のいろいろな審美眼や視点によって価値のあるものとして評価され、収集されるようになってきている。

こういったコレクションに対して、近年ではお金には代えられない「心の豊かさ」を示すものとして評価するような機運が生まれてきている。また、数が集まらないとわからないおもしろさがあることもコレクションが人を惹きつけている理由であろう。

こうした個人のコレクション＝「マイ・コレクション」を当館で展示する場を設けることにより、コレクターならではの独自のものの見方を市民に紹介し、ともすると粗末にしがちな現代のモノに対する考え方を反省したり、身の回りの何気ないモノを再評価し、



展示風景(入口)



展示風景(カップ&ソーサー)



心豊かな暮らしをしていくことの大事さを認識するきっかけとするためにこの展示会を企画した。

このことは、飯能市の文化や歴史を継承していくために収集された当館のコレクションである収蔵資料への理解にもつながると思われる。また、分野を限定しないことで、これまで当館に関わりをもたなかった人たちが展示に参加したり、見学に訪れたりすることが期待でき、さらには特別展示室の有効利用にもつながる。

## 2. 展示内容決定までの経緯

上記の趣旨による「マイ・コレ。」の展示を企画し、平成19年2月1日号の市広報等により市民に出品を呼びかけた。応募があったコレクションを平成19年2月23日に開催された郷土館協議会で審議した結果、11件のコレクションを展示することとした。展示は年に2回（6～7月と2～3月）、合計5回行い、1回に2件もしくは3件ずつ紹介することとした。

## 3. 内 容

第1回目として「カップ&ソーサー ー使って楽しむアンティーク」(コレクター：岸本きく江氏)と「浪漫を彩った翼たち ー黎明期の飛行機を探る」(コレクター：加藤寛之氏)の2件のコレクションを展示した。

前者はヨーロッパの一般家庭で使われていた大量生産のきかない手描きのカップやソーサーなど139点、後者は大正から昭和15年頃にかけて市販されていた航空機の彩色絵葉書等225点である。

## 4. 関連事業

◎コレクター自身による展示解説

日 時 ①6月24日(日) 岸本きく江氏

②7月8日(日) 加藤寛之氏

いずれも午後2時～

参加者 ①15人 ②14人

### 小学3年生見学対応展示

### むかしのくらし ー民家の台所再現ー

期 間 平成20年1月6日(日)～2月11日(月)

開館日数 32日間 展示点数 108点

入館者数 3,637人(1日平均113.7人)

## 1. 趣 旨

小学3年生の見学に対応した展示で、囲炉裏を中心とした茶の間と土間を再現した。

## 2. 内 容

展示内容は平成18年度のものと同様である。関連事業として2月3日に「郷土館で昔話を聞こう」を企画していたが、大雪のため中止となった。

## 3. 関連事業

◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日 時 2月10日(日)午前10時～午後3時

指導者 当館市民学芸員

会 場 当館特別展示室・休憩コーナー

参加者 火のし・炭火アイロン体験 52人

石臼体験 46人



展示風景



石臼体験

## 第2回

### 「マイ・コレ。」(マイコレクション展)

素晴らしい鉄道の世界ーあの日、あの時、列車旅ー

期 間 平成20年2月24日(日)～3月23日(日)

開館日数 25日間 展示点数 1,418点

入館者数 3,378人(1日平均135.1人)

#### 1. 趣 旨

市民の方が収集したコレクションを広く紹介するとともに、コレクションの意義を伝えること、さらには新たな入館者層の獲得、特別展示室の有効利用などを目的に開催した。(詳細は第1回「マイ・コレ。」参照)

#### 2. 内 容

今回は、鉄道に関するコレクションとして、「郷愁の鉄道用品」(コレクター：森中清貴氏)、「駅の硬券切符」(コレクター：遠山光保氏)の2件のコレクションを展示した。

展示資料は、前者が時刻表、ナンバープレート、車両部品など鉄道に関する様々な資料455点、後者が旅の記念に集めた硬券切符など963点である。

#### 3. 関連事業

##### ◎コレクター自身による展示解説

日 時 ①3月1日(日) 森中清貴氏

②3月9日(日) 遠山光保氏

いずれも午後2時～

参加者 ①19人 ②23人



展示風景



鉄道模型の運転会

##### ◎鉄道模型の運転会

日 時 3月22日(土)・23日(日)

いずれも午前9時～午後5時

会 場 当館学習研修室

実 演 奥武蔵鉄道道楽会の会員

参加者 3月22日…227人 3月23日…223人

## ミニ展示

### 「ひなまつり」

期 間 平成20年2月29日(金)～3月3日(月)

開館日数 4日間 展示点数 19点

入館者数 1,187人(1日平均196.8人)

#### 1. 趣 旨

飯能市街地商店街の活性化を主な目的として「森と街をむすぶ木馬をつくる会」が主催した「雛飾りお宝展 in 飯能」に合わせたミニ展示。3回目となった今回は、これまでメイン会場であった店蔵絹甚が修復工事中により2日間しか開館できなくなったため、郷土館がメイン会場に加わった。

#### 2. 内 容



展示風景

展示ホールに、須田家に伝来する中山の殿様から拝領したと言われる享保雛を始め、郷土館所蔵の内裏雛、段飾り、舞踊人形などを展示した。

なお、期間中は市民学芸員が常駐し、解説・監視にあたった。

## 今月の一品

### 1. 趣 旨

郷土館の入口には展示台が設置してあるが、これまではパンフレット等を置く場所となっており十分に活用されていない状態だった。来館して最初に目に止まる場所であり、その活用方法が課題となっていた。このため月ごとにその時期にふさわしい民具等の資料を展示し、館内に季節感を加えるとともに収蔵資料並びに入口の展示台の活用を図ることを目的とし、平成18年6月から「今月の一品」の展示を始めた。

### 2. 展示資料

下記一覧表のとおり、原則として毎月、資料を替えて展示した。



「今月の一品」展示風景

#### 平成18年度

月	資料名	資料番号等
6月	アイガリガマ	No.1549
7月	箱メガネ	No.4226
8月	千人針	No.3475・4613
9月	カワマワシ	No.1887
10月	火消し壺	No.2338・3911
11月	吊りランプ・豆ランプ	No.2129・1314・1315
12月	シロケシ・クロケシ	No.2823・4554
1月	イノシシ形土製品	生涯学習課所蔵
2月	雛人形	No.3429
3月	ナタ	No.4863

#### 平成19年度

月	資料名	資料番号等
4月	五月人形	No.1618・1617・1619
5月	蠅取器	No.1155・1591
6月	ヤ・カナヤ	No.664・1817
7月	ブツタイ	No.1771
8月	襷	No.3281・3280・2933
9月	カーバイトランプ	No.798・1593・4922
10・11月	トチ	No.4860
12月	羽子板	No.2101・1614・5・7
1月	引札	引札No54
2月	袴雛	No.2256
3月	箱枕	No.610・3052

平成17年度

入間川4市合同企画事業

## 「入間川源流ツアー」

日 時 1回目 平成17年5月14日(土)  
2回目 平成17年5月26日(木)  
両日とも午前8時30分～午後5時

対 象 一般(川越市・飯能市・狭山市・入間市  
在住・在勤者)

場 所 入間川起点・源流の沢横倉入、ウノタワ  
付近のブナ原生林(飯能市大字上名栗)

参加者数 1回目 23人 2回目 24人

講 師 浅見達次郎氏(飯能市上名栗在住)  
入間市博物館学芸員

### 1. 趣 旨

入間川流域の4市1村(川越市・飯能市・狭山市・入間市・名栗村)では平成16年に合同企画展「入間川再発見―身近な川の自然・歴史・文化をさぐって―」を開催した。この合同企画展の関連事業として5回の野外講座・講演会等を企画したが、このうち入間

川の源流を訪ねる野外講座は雨天のため中止となってしまった。しかし、開催を求める声が多かったため、17年度に実施することとした。また、この講座は飯能市ですすめている環境省エコツアー推進モデル事業の関連事業にも位置づけて実施した。

### 2. 内 容

各回定員を25人としたが申込者は1回目が75人、2回目が61人に及び、抽選により参加者を決定した。コースは2回とも同じで、飯能駅南口に集合した後、マイクロバスで上名栗大場戸まで移動、その後は入間川起点・源流の沢横倉入、ウノタワ付近のブナ原生林を散策後再び大場戸に戻り、マイクロバスに乗り、飯能駅南口で解散した。行程としては標高差740mを約6時間で登り降りするかなりきついコースだったが、参加者の多くは山慣れた登山経験者であったため、無理なく全行程を完歩できた。

地元精通した講師の浅見達次郎氏の熱心な解説と人柄によって、参加者からは「楽しかった」「知らなかったことをたくさん知ることができた」などの意見を伺い、大変好評を博した野外講座だった。

夏休み親子歴史教室

## 「土器づくりに挑戦、わたしは縄文人」

日 時 平成17年7月27日(水)・28日(木)  
両日とも午前9時～12時

対 象 小学3年生から中学生までの児童、生徒とその保護者

会 場 当館学習研修室、生涯学習課山手分室

参加者数 のべ80人(親子23組40人)

指 導 者 岸道生氏(陶芸家)、村上達哉・宮内慶介(以上生涯学習課文化財担当職員)

### 1. 趣 旨

土器の発明により人々の生活は大きく変わった。自然の中で、季節の移り変わりとともにみんなで協力しながら生きていたのが縄文人である。自然との関連性が希薄になりつつある現在にあって、縄文人の生活から学ぶことは多いと思われる。土器づくりを題材に、これら縄文人の生き方を考えていくことを目的とする。



縄文時代の暮らしについての説明

この内容は前年度の夏休み親子歴史教室で実施したものと同様だが好評だったため、再度実施することとした。

### 2. 内 容

7月27日(水)

郷土館学習研修室で開会および日程の説明をした後、生涯学習課山手分室に移動した。ここにある縄文時

代の復元住居の前で、生涯学習課文化財担当職員から縄文時代の暮らしについての説明を聞いた。

その後、市内から出土した実物の縄文土器や石器を見たり、触れたりしながら、使い方や土器の文様について考えた。

7月28日(木)

岸道生氏の指導により土器を作った。最初に、陶



岸道生氏

芸の基本を教えていただくとともに、焼き方、現在の器との違いなどを学んだ。その後、形の意味も考えながら、それぞれが工夫をして粘土から土器をつくり、文様をつけた。なお、使用した粘土は、市内大河原の宅地造成地から採れた土を調整したものである。

参加者が作った土器は講師所有の窯で焼いた後、郷土館に展示して多くの方に見ていただいた。



土器づくり

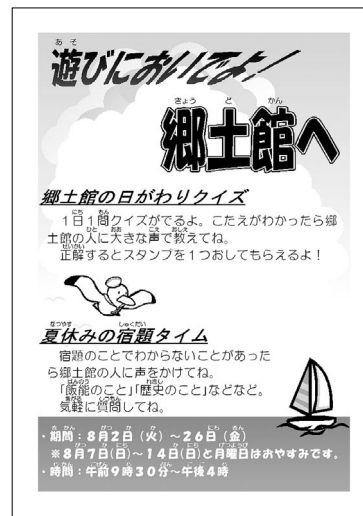
## 夏休みこどもクラブ

日 時 平成17年8月2日(火)～26日(金)  
午前9時30分～午後4時  
対 象 市内の小学生  
会 場 当館特別展示室・常設展示室  
参加者数 のべ61人

### 1. 趣 旨

夏休み中の子どもの居場所として社会教育施設がそれぞれの特性を活かして連携することで、より有意義な夏休みを子どもたちに過ごしてもらおうことを目的として平成16年度から開催された事業である。「居場所づくり」を通して子どもたちの健全育成や地域の教育力の向上に社会教育施設が積極的に寄与するとともに、日ごろ疎遠になりがちな社会教育施設に気軽に親んでもらう契機になることも意図した。

主唱は中央公民館で、当館とこども図書館の3館が共催して実施した。これは教育委員会の目標である「連携」に則したものである。公民館、図書館、博物館(郷土館)が隣接している地の利を活かし、各館が今後の事業展開において、より連携を深めるきっかけとなることも意図した。



こどもクラブのチラシ

### 2. 内 容

「こどもクラブ」では、スタンプカードを発行した。期間中、当館や中央公民館、こども図書館の各会場で定められたことに参加するとスタンプカードにスタンプが押される。20個集めると記念品がもらえるという特典があり、子どもたちに喜ばれた。

内容は各館それぞれとなった。当館では展示してある資料に関するクイズを日替わりで出題し、正解者にはスタンプを押すこととした。そのほか、「夏休みの宿題タイム」として自由研究等の宿題の相談に応じた。

## 夏休み子ども歴史教室 「紙漉きに挑戦！」

日 時	平成18年 8月10日(木)午前9時30分～午後4時30分 8月11日(金)午前9時30分～11時30分
対 象	市内の小学4年生から中学1年生までの児童・生徒
会 場	当館学習研修室
参加者数	のべ47人(1日目24人、2日目23人)
指 導 者	田村 正氏(紙漉き師匠) 尾崎 泰弘(当館学芸員)

### 1. 趣 旨

埼玉県域における和紙の産地としては小川町や東秩父村が有名である。その紙は「細川紙」と呼ばれ、国の重要無形文化財となっている職人もいるほか、和紙を販売したり、紙漉きを体験したりすることのできる施設ができています。

しかし、江戸時代前期、正保年間の武蔵国内の村の様子を記した『田園簿』を見ると、紙舟役という和紙生産に課せられる年貢が書き上げられている村は武蔵国全体で6郡64ヶ村に上り、かつては上記以外にも多くの地域で紙漉きが行われていたことがわかっている。

飯能市域においても、唐竹・日影・菊生・長田・白子・上我野・下我野といった高麗川、入間川、成木川上流の村々で和紙が作られていた。飯能市域の紙舟役は全部で26貫文にもものぼり、それは現小川町域の2.6倍にあたる。

飯能における和紙生産は江戸時代後期以降次第に衰退していくが、かつて盛んに紙漉きが行われていたことはあまり知られていない。そこで、飯能が和紙の生産地であったことを紙漉きを体験することによって知ってもらい、合わせて和紙の優れた点をそれを作ることの大変さと共に理解してもらうことを目的とする。

なお、本事業のポイントは、楮こうぞや三桮みつまたを材料とする伝統的な紙漉きの方法を当館において体験できることにある。このような「歴史博物館」ならではの本格的な体験教室を実施することにより、日本の伝統文化を守り育てることの大切さに気づいてもらうことも意図した。



白皮づくり



紙漉き

### 2. 内 容

8月10日(木)

参加者は4つのグループに分かれて作業を行った。

#### 【午前】

まず最初に楮からはぎ取った外皮(黒皮)を水に浸け、それをスケッパーという道具を使って外側の黒い表皮を削り取り、白皮だけにした。続いて白皮についているリグニンやタンニンといった接着物を溶かすために水に灰を混ぜて煮る。昔は竈の灰を用いて1日かけて行ったが、今回は時間の関係からソーダ灰を用いた。

煮ている間に講師の田村氏より紙の発明から、洋紙が日本に入ってくるまでの説明が行われた。その後、煮た白皮を水に晒し、ソーダを洗い流した。

#### 【午後】

水に浸した白皮の繊維からゴミや汚れなどの塵、取り切れなかった黒皮などを取り除く。その後、その白皮を木の棒で叩いて繊維を柔らかくし分散させた。そして綿のようになった繊維をトロロアオイの根を叩いて付けておいた水とともに漉槽の中に入れてよくかき混ぜ、参加者1人1人が簀桁を使って世界で1枚のオリジナル和紙を漉いた。漉いた紙は紙床に重ねて水分を絞ってから日陰に出した机に貼りつけて乾かした。また、紙は1人ずつしか漉けないので、

その間に、木枠に木綿糸を細かく渡したものに取り除いた塵などを流してタペストリーを作った。最後に参加者からの質問に対し田村氏が答えて終了した。

### 8月11日(金)

卷子づくりを始める前に、導入として和紙の丈夫さや飯能と和紙との関わりなどについての説明をした。

まず寛文8年の検地帳などを見せて和紙が300年以上も保つこと、そして卷子や折本に実際に触れてもらいながら、その部分名称(「巻」、「見返し」など)が今の本にも受け継がれていることを話した。

その後巻物づくりの材料(丸棒、竹ひご、紐、御料紙、千代紙、金れい紙)を配布した。作り方を説明したのち、卷子に記されているものなどの事例を示し、それに参加者が何を描くかをイメージしてもらってから、



古文書の観察

製作にとりかかった。全員時間内に完成することができたが、中に絵や文字を書くことまではできなかったので、各自でやってもらうこととした。片付けをした後、アンケートに回答してもらって終了した。

## 夏休み子どもクラブ

**日 時** 平成18年8月1日(火)～25日(金)  
午前9時30分～午後4時

**対 象** 市内の小学生

**会 場** 当館特別展示室・常設展示室

**参加者数** のべ180人

### 1. 趣 旨

夏休み中の子どもの居場所確保を主な目的として、中央公民館、子ども図書館、郷土館がそれぞれの特性を活かして連携して平成16年度から毎年夏休みに実施している。

### 2. 内 容

期間中、当館や中央公民館、子ども図書館の各会場で定められたことに参加するとスタンプカードにスタンプが押され、20個集めると記念品がもらえるという内容である。

当館では昨年度と同様に、展示してある資料に関するクイズを日替わりで出題する「郷土館の日がわりクイズ」と自由研究等の宿題の相談に応じる「夏休みの宿題タイム」を実施した。昨年度と同じ内容だったが参加者は大幅に増加した。

これは期間中開催していた埋蔵文化財出土品展が子どもに親しめる展示であったことや、郷土館にも行くようにとの口添えを他の2施設に依頼していたことが主な理由と考えられる。

## やさしい古文書講座 V

**日 時** 平成18年10月15日(日)・22日(日)・  
29日(日)・11月3日(金)・12日(日)  
いずれも午後2時から4時まで

**対 象** 一般

**会 場** 当館学習研修室

**参加者数** 24人

**講 師** 浅見徳男氏(飯能市文化財保護審議委員会委員)・中里和夫氏(古文書同好会会員)・尾崎泰弘(当館学芸員)



講座風景

## 1. 趣 旨

近年、NHKの教育テレビで近世文書を学ぶ番組が放送され、またそれを読み解くために必要な知識、技術をまとめた書籍が多く出版されている。これらことから、近世文書に関する人々の関心はこれまで以上に大きくなっていると考えられる。

一方、当館では20,000点を越える古文書、典籍を収蔵しているが、翻刻されているものは数少なく、十分に活用されているとは言い難い状況にある。またエコツアー推進事業の伸展に伴い、飯能の魅力をアピールするための地域資源が求められており、これらの発掘には地域史料の翻刻、分析が不可欠となってきた。

こういった市民の学習要望に応え、かつ館所蔵の地域史料をより多くの市民に利用してもらうことを目的として本講座を開講する。

なお、当館では、これまで平成2年度、平成6年度、平成10年度、平成14年度の4回、古文書講座を開催し、その参加者は現在でも古文書同好会、古文書勉強会として学習活動を続けている。今回も講座

終了後に参加者による学習サークルの発足を促したい。

## 2. 内 容

郷土館所蔵文書等を使って、地方文書解読のための基礎知識や内容、背景などをやさしく解説した。

第1回(10/15) 江戸時代の支配機構や社会の様子など近世文書を読むために必要な知識を学んだ。

第2回(10/22) 御成箇の割付証文から、当時の村方の仕組みや村人の生活を知ってもらった。

第3回(10/29) 飯能村の太郎右衛門が新河岸の弥平次を訴えた明和5年の「石灰荷物預け出入」を使い、当時の裁判制度について解説した。

第4回(11/3) 市指定文化財である振武軍廻文を読み、古文書が事件の一端を伝えているに過ぎないことを知ってもらうとともに、他の史料を援用して飯能戦争の全体像を説明した。

第5回(11/12) 関係史料をもとに、飯能から始まった江戸時代最大の百姓一揆とよばれる「ぶっこうし」(武州一揆)の実態を読みとってもらった。

## 平成19年度

夏休み子ども歴史教室

### 「昔のおもちゃを作ろう」 「筏の模型を作ろう」

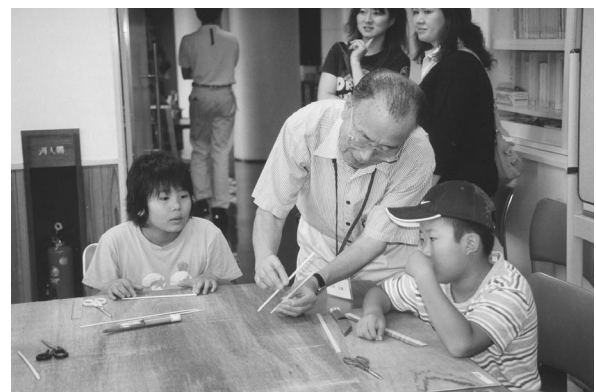
- 日 時 ①平成19年8月9日(木)  
午前9時30分～12時  
②平成19年8月10日(金)  
午前9時30分～午後4時
- 対 象 ①市内の小学2年生から4年生までの児童  
②市内の小学4年生から中学1年生までの児童・生徒
- 参加者数 ①28人 ②24人
- 会 場 当館学習研修室
- 指 導 者 当館職員、市民学芸員

## 1. 趣 旨

平成19年度の夏休み子ども歴史教室は、企画から実施まで、市民学芸員と協議しながら行った。企画段階での協議の結果、小学校低学年～中学年を対象とした教室と、小学校高学年～中学1年生までを対象とした2つの教室を実施することとした。二分し



「昔のおもちゃを作ろう」で説明する市民学芸員



「昔のおもちゃを作ろう」工作風景



た理由は、小学校低学年と高学年では関心を持つ対象も異なるだろうとの考えによる。

内容は"工作"を共通点にした。物を工作することにより、子どもたちの夏休みの思い出（および宿題の成果）が一つ形として残るだろうと考えたためである。

小学校低～中学年を対象とした教室では「ガリガリプロペラ」を工作することにし、小学校高学年～中学1年生を対象にした教室では筏の模型を工作することとなった。

「ガリガリプロペラ」というのは、プロペラをつけた棒に刻みを施し、刻みの部分をこすり、その際に生じる振動でプロペラを回すというおもちゃである。市民学芸員の中に子ども時代に作って遊んだ人がおり、昔のおもちゃとして今の子どもたちに伝えたいという思いから工作することにした。

一方、筏の模型の方は、西川林業のシンボルとも言える筏を工作することをきっかけに、子どもたちが林業について関心を持つことを期待して企画した。

## 2. 内容

### 8月9日(木)

1日目は、「昔のおもちゃを作ろう」と題し、「ガリガリプロペラ」を工作した。当日を迎えるにあたっては、事前に市民学芸員による試作が行なわれ、指導方法や材料の確認がなされた。周到的な準備のおかげで当日はほとんどの子どもたちがプロペラを回すことができた。



「筏の模型を作ろう」工作風景

プロペラが回る原理は基本的に人がフラフープを回す原理と同じである。しかし、子どもたちにとっては刻みに棒をあてて行う前後運動が、プロペラを回す回転運動に変わることが不思議に思えるらしく、完成後はいたるところで歓声が上がっていた。

### 8月10日(金)

2日目は、「筏の模型を作ろう」と題し、筏の模型を工作した。こちらも事前に市民学芸員による試作が行なわれており、その結果、筏は実物の25分の1のスケールとし、丸太筏に人形と上荷が乗ったものを工作することが決定された。

当日は、筏の工作だけでなく、筏についての簡単な講義も行い、筏と筏流しに関する理解を深めてもらった。工作終了後に、自作した筏の模型を持って満足気に微笑む子どもたちの姿が印象的であった。

## 夏休みこどもクラブ

日 時	平成19年8月1日(水)～24日(金) 午前9時30分～午後4時
対 象	市内の小学生
会 場	当館特別展示室・常設展示室
参加者数	のべ148人

### 1. 趣 旨

夏休み中の子どもの居場所確保を主な目的として、中央公民館、子ども図書館、郷土館がそれぞれの特性を活かして連携して平成16年度から毎年夏休みに実施している。

### 2. 内容

期間中、当館や中央公民館、こども図書館の各会場で定められたことに参加するとスタンプカードにスタンプが押され、20個集めると記念品がもらえるという内容である。

当館では「探検！郷土館」と題した日替わりクイズを実施した。これは館内に展示してある資料の写真を窓口で掲示し、それがどこに展示してあるのかを探し出してもらおうというものである。日替わりのクイズという点では昨年度と同様だが、昨年度までは解答するためにどの資料を見ればよいかのヒントを示していたが、今年度はその場所自体をクイズとした点が異なる。これは館内の展示および資料をより詳しく見てもらうことを意図したためである。

近年、市民との協働による行政運営の必要性はますます高まっており、博物館でも市民との協働や連携による事業の取組みが多く見られるようになった。

当館でも市民との「交流」活動を重視しており、定点撮影プロジェクトと市民学芸員がその代表的な活動である。当館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とするこれらの活動は、郷土館において展開されている市民参加型事業とすることができる。

## 定点撮影プロジェクト

### 1. 事業の内容

定点撮影プロジェクトは、市民自らが、刻々と移り変わっていく「今」の時代を写真で記録し後世に残していくことを目的として平成10年度に開始した事業である。

参加者は各地域で決められた地点を定期的に撮影する(地点撮影)。撮影地点は通り・駅前・交差点など昔から写真に撮られているところや変化の激しいところ、橋や学校などの地域の特徴的な建物などである。また、これとは別に、日常な生活を写真で残すために毎年参加者で設定したテーマに沿った撮影をおこなっている(テーマ別撮影)。

撮影した写真は撮影者がフィルム台帳に内容を記録するとともに、地点撮影の場合には撮影場所、撮影目標、撮影の際の注意点などをまとめた「撮影地点カード」を作成している。地点撮影もテーマ別撮影も日常生活している人でないと本来の生活の様子は撮影できないものであり、この9年間で蓄積したフィルムは約300本におよび、地域の変化を示す良好な資料として郷土館に蓄積された。

また、撮影した成果を紹介するための写真展を毎年開催している。この写真展の展示作業や解説文の執筆などは参加者が主体的におこなっており、現在では当館職員がそれをサポートする程度で完成するまでに至っている。この展示は、他の市民に対しても写真記録の必要性を伝え身近な歴史を考えるきっかけを与えるものとなっている。

### 2. 活動の概要

#### 平成17年度

4月1日～5月15日の間に各自担当の地点撮影を実施した。また、平成17年1月に飯能市と合併した旧名栗村から2人が新たにメンバーに加わった。

この年の写真展は名栗村との合併を記念し「名栗

を撮る」というテーマで開催した。

#### 平成18年度

4月1日～5月12日の間に各自担当の地点撮影及びテーマ撮影を実施した。テーマ撮影の内容は、「案外知られていない飯能の隠れた歴史」とし、身近にありながら意外と人に知られていない地域の隠れた歴史を参加者自らが探し出して撮影することとした。これらの成果は「続身辺奥武蔵写真風土記」として展示した。

当年度の後半は、これまでの定点撮影地点の見直しを行った。

#### 平成19年度

4月1日～5月12日の間に各自担当の地点撮影を実施した。また、この年の写真展は古写真と現在の風景の比較としたため、これに該当する現在の風景を分担して撮影した。

これらの成果は「飯能の風景 今・昔」として展示した。



定点撮影プロジェクト写真展の展示作業風景(市役所ロビー)

## 平成17年度活動一覧

回	月日	曜日	種類	内容	参加人数
1	5/29	日	打合会	写真展の展示内容、今後の準備予定等について	9
2	6/18	土	打合会	展示写真の選定、今後の準備予定等について	10
3	7/3	日	打合会	展示写真の最終決定、解説文の作成	7
4	7/9	土	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	3
5	7/10	日	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	8
6	7/12	火	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	2
7	7/13	水	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	1
8	7/14	木	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	2
9	7/16	金	展示準備	展示設営	7
10	3/26	日	打合会	次年度の定点撮影及び写真展の展示内容について	10

## 平成18年度活動一覧

回	月日	曜日	種類	内容	参加人数
1	5/21	日	打合会	写真展の展示内容、今後の準備予定等について	10
2	5/28	日	打合会	テーマ別撮影の展示候補写真の選定について	8
3	6/4	日	打合会	展示写真の最終決定	7
4	6/11	日	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	5
5	6/17	土	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	3
6	6/18	日	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	5
7	6/24	土	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	3
8	6/25	日	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	4
9	6/29	木	展示準備	展示設営	1
10	6/30	金	展示準備	展示設営	2
11	7/23	日	打合会	写真展の反省、市役所ロビーでの展示写真選定	6
12	9/18	月	打合会	定点撮影分担の見直し、次年度の写真展の内容について	10
13	10/15	日	打合会	定点撮影地点の見直しと整理、次年度写真展の古写真選定	9
14	11/18	土	打合会	定点撮影地点の見直しと整理、次年度写真展の古写真選定	9
15	1/28	日	打合会	次年度写真展の古写真選定	8

## 平成19年度活動一覧

回	月日	曜日	種類	内容	参加人数
1	5/26	土	打合会	展示写真の選定、今後の準備予定等について	7
2	6/10	日	打合会	展示する古写真と現在の写真の確認、地点撮影の展示写真選定	7
3	6/24	日	打合会	地点撮影の展示写真選定、展示写真の最終確認	9
4	7/8	日	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	7
5	7/16	月	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	6
6	7/22	日	展示準備	解説文の作成・写真のパネル貼り	4
7	7/28	土	展示準備	展示設営	6
8	12/9	日	打合会	写真展の反省、次年度の活動・写真展の内容について	8
9	2/17	日	打合会	次年度写真展の古写真選定	8
10	3/9	日	打合会	次年度写真展の古写真選定	10

### 3. 定点撮影プロジェクト写真展

平成17年度(第7回)

#### 「名栗を撮る」

期 間 平成17年7月17日(日)～8月31日(水)

開館日数 39日間

入館者数 3,399人(1日平均87.2人)

展示点数 写真134枚、実物資料5点

#### 開催趣旨

平成17年1月1日、飯能市は名栗村との合併という大きな出来事を経験した。この合併前に、名栗村を象徴する風景を写しておかないと二度と撮影できなくなるという危機感が会員の中で話題となり、合併前の11月に名栗村各地の撮影を行った。この時の写真と合併後の写真の比較を中心に、名栗村の風景、合併までの経緯などを紹介することを目的とした。

#### 展示の構成

①合併までの経緯…平成14年の合併研究会の設置から、平成17年の合併までの経緯を振り返る。主な出来事の写真を掲示したほか、合併協議会の看板や合併調印書の原本なども展示した。また、「名栗村最後の日」として平成16年12月31日に村内各地を撮影した象徴的な写真を展示した。



展示風景

- ②「合併前」と「合併後」…看板や標札などが合併によりどう変わったのか、また変わっていないものなど、比較対照した。
- ③名栗の今昔…名栗地域の古写真と現在の風景を対比して展示した。
- ④名栗の風景…地元の会員が撮影した名栗の代表的な風景の写真を紹介した。
- ⑤飯能各地の定点撮影…名栗地域以外の定点撮影の成果の代表的なものを紹介した。

#### その他

展示の一部は9月12日(月)～10月3日(月)の期間、名栗庁舎3階集会室(ギャラリー)でも展示した。

平成18年度(第8回)

#### 「続・身辺奥武蔵写真風土記」

期 間 平成18年7月1日(土)～7月23日(日)

開館日数 20日間

入館者数 1,322人(1日平均66.1人)

展示点数 写真100枚(72地点)

#### 開催趣旨

平成14年度に実施した「身辺奥武蔵写真風土記」の続編として開催した。これは定点撮影プロジェクトの会員たちが市内の移り変わりを記録していく中で発見した「身近にありながら、よく見るとおもしろいもの」の紹介である。

テーマ名は、江戸時代の文政年間(約200年前)に武士たちの手によってまとめられた『新編武蔵風土記稿』に由来する。『新編武蔵風土記稿』は江戸時代の村々の様子を現代の私たちに伝えてくれる貴重



展示風景

な史料であり、定点撮影プロジェクトの活動はその現代版とも言える、後世に今の姿を伝える意義をもった活動だからである。

プロジェクトの会員たちが発見したこれらの写真を多くの市民に見ていただくことにより、市民が郷土に関心を持ち、地域を再発見していただくことを期待して開催する。

## 展示構成

第1部「身辺奥武蔵写真風土記」…市内各地の「身近にありながら、よく見るとおもしろいもの」を紹介した。写真の内容から「信仰」「記念」「街灯と看板」「鉄道」「消防」「山のくらし」「水道と水など」「学校」の8つのジャンルに分けて展示した。

第2部「各地の定点撮影」…これまでの定点撮影の

成果の中から、変化の激しかった代表的な風景を紹介した。

## その他

展示の一部は、8月2日(土)～8月10日(木)の期間、飯能市役所1階ロビーでも展示した。

平成19年度(第9回)

## 「飯能の風景 今・昔」

—古写真に見る各地の風景—

期 間 平成19年7月29日(日)～9月2日(日)  
 開館日数 31日間  
 入館者数 2,733人(1日平均88.2人)  
 展示点数 写真95枚(44地点)

## 開催趣旨

郷土館で所蔵する古写真の中から、市内各地の代表的な風景のものを選び、これを紹介する。同時に会員が古写真に写された現在の姿を撮影し、今と昔の風景が対比できるように展示する。このような展示を通して、入館者に風景の違い、時代の変化を感じ取っていただき、地域に関心をもっていただくことを期待する。

## 展示構成

第1部「飯能の風景 今・昔」…古写真の中から、市内の代表的な風景34点を選び、現在の姿と対比しながら展示した。

第2部「各地の定点撮影」…これまでの定点撮影の成果の中から、代表的な風景を紹介した。

## その他

展示のうち第1部の写真を10月1日(月)～10月31日(水)の期間、西武飯能ペペの4階ホール前でも展示した。

これは、西武飯能ペペからの依頼により、ペペの15周年創業祭の一環として展示したものである。駅ビルで展示したことにより、郷土館入館者とは違った層の方々にも多く見ていただき、郷土館の事業を広く知っていただく効果があった。また、地元企業との連携の一つのあり方を提示できたと言えよう。



展示風景



西武飯能ペペでの展示

# 市民学芸員

## 1. これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている（当館『研究紀要』第1号）。

まず第Ⅰ期市民学芸員の養成は、平成12年1月の「特別展企画運営参加型」から始まった。それには21人が参加し、その成果は同年秋の特別展「飯能、戦後の暮らし」に活かされた。

第Ⅱ期は、「博学連携事業参加型」で、平成12年3月から開始され、30人の参加を得て同年7月の夏休み親子歴史教室及び翌年1・2月の小学3年生見学対応に従事した。その結果、当館が提供する小学3年生の「むかしの暮らし」の学習プログラムは、質と量ともに飛躍的に充実し、それ以後の小学3年生の見学対応はこの体制をベースに行われている。

また第Ⅲ期は林業道具の調査に従事することを目的に、平成16年2月から養成が開始された（「民俗調査参加型」）。これは長年の懸案であった当館の林業関係道具を県指定文化財とするための基礎調査に携わっていただくもので、新たに2人が市民学芸員として認定された。この養成講座には、Ⅰ・Ⅱ期の市民学芸員も参加したため一体的に活動することとなり、結果的には「民俗調査参加型」の新たな学芸員も小学3年生見学の対応にも従事してもらうことになった。

そして、平成19年度には博学連携事業参加型としては2度目、通算ではⅣ期となる市民学芸員の養成講座を実施し、小学3年生の郷土学習のための見学対応を中心とする博学連携事業の一層の充実を目指すこととした。

## 2. 活動の概要

### 平成17年度

これまで郷土館を舞台として活動してきた市民学芸員であったが、この年は、公民館やエコツアーリズム推進室などいろいろな機関からの派遣や指導の依頼が相次いだ年であった。また、当館でも収蔵してい

る西川林業の道具の県指定有形民俗文化財指定に向けて本格的に調査を開始し、それにも参加してもらう機会を設定した。その結果、活動の機会は大きく増えたが、その一方で、市民学芸員それぞれの考え方の違いの表面化や、長年の活動によるモチベーションの低下といった課題も浮かび上がり、市民学芸員の中で活動を停止する人も増えた。

### 平成18年度

さまざまな機関からの派遣依頼増加によって、本来郷土館市民学芸員が担うべきことが見えにくくなってきた。この問題点は市民学芸員の中からも提起され、当館としては市民学芸員制度設立の趣旨の再確認と、今後の活動についての展望を示す必要に迫られた。そこで館内において、当初の理念をこれまでの変化と現状をふまえて捉え直し、育成方針をまとめて市民学芸員に提示した。

また中心的な活動である小学3年生見学の対応については、それぞれが新たな担当に挑戦するとともに、常設展示、昔の道具探しクイズ、体験学習という3つのプログラムごとにチームに分かれて改善案を作成した。さらに3月例会では、KJ法によって個々の市民学芸員が求める活動内容を集約し、それを19年度以降に活かすこととした。

### 平成19年度

昨年度末に集約された市民学芸員の意見に基づき、今年度は、夏休み子ども歴史教室に企画段階から参加してもらうこととした。4月19日を皮切りに7回の打合せを経て、小学2年生から4年生までを対象とした「昔のおもちゃを作ろう」、4年生から中学1年生までが対象の「筏の模型を作ろう」を実施した（38ページ参照）。

また、当該年度は博学連携事業参加型の市民学芸員養成講座が開催されていたので、11月以降は、その参加者に対して小学3年生見学対応プログラムの説明や打合せなどを行い、新しい市民学芸員と共に実際に見学の対応に当たった。

平成17年度活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師(担当)	内 容	参加人数
1	4/7	金	15:00	打合せ	島崎	年間活動内容と今後の活動について検討	12
2	4/27	水	13:30	林業調査説明会	引間	林業調査の日程や聞き取り調査の方法説明	12
3	5/11	水	9:00	吾野水力発電所現地調査	柳戸	吾野水力発電所跡地の整地、除草	2
4	5/12	木	9:00	吾野水力発電所現地調査	柳戸	吾野水力発電所跡地の清掃	1
5	5/12	木	13:30	「エコウォーク」専任ガイド研修会	飯能市文化財保護審議 委員会委員 浅見徳男氏	中山家範館跡、智観寺など中山地区の文化財について の講義	11
6	5/19	木	13:30	「エコウォーク」専任ガイド研修会	飯能市生涯学習課文化 財担当 熊澤孝之氏	絹甚、織物協同組合の建物についての講義	12
7	5/22	日	9:00	エコウォークコースガイド	久下・島崎	飯能新緑ツーデーマーチ・エコウォークコースガイド	7
8	6/4	土	9:30	小学5年生見学対応打合せ	島崎	飯能第一小学校5年生「なんじゃの活動」打合せ	7
9	6/9	木	13:30	小学5年生見学対応打合せ	島崎	「なんじゃの活動」の打合せ、資料準備	6
10	6/10	金	9:40	飯能第一小学校5年生見学対応	島崎	「なんじゃの活動」(前期)対応	6
11	6/17	金	13:30	林業聞き取り調査・打合せ	島崎・引間	林業センター・鴨下恒亮氏より林業関係聞き取り調査	10
12	6/21	火	13:00	林業関係聞き取り調査	引間	杉山良助氏より林業関係聞き取り調査	5
13	6/23	木	13:00	林業関係聞き取り調査	引間	浅見達次郎氏より林業関係聞き取り調査	7
14	6/24	金	13:30	小学4年生見学対応打合せ	久下・島崎	飯能第一小学校4年生見学対応打合せ、市民学芸員 協議会会則協議	12
15	6/30	木	9:00	飯能第一小学校4年生見学対応	島崎・塩野・柳戸・引間	洗濯・葉打ちの体験、昔の道具、常設展示の説明	11
16	8/26	金	13:30	小学生見学対応打合せ	久下・島崎	小学3年生見学対応内容検討、飯能第一小学校5年 生「なんじゃの会」打合せなど	11
17	9/7	水	13:30	小学5年生見学対応打合せ	島崎	飯能第一小学校5年生「なんじゃの活動」対応準備	8
18	9/9	金	9:50	飯能第一小学校5年生見学対応	島崎	飯能第一小学校5年生「なんじゃの活動」対応	4
19	10/20	木	13:30	打合せ	島崎	小学3年生見学対応準備①、あけぼの子どもの森公 園よりの依頼検討など	9
20	10/22	土	10:00	竹とんぼ作り指導		「竹とんぼを作る」講師(富士見公民館主催)	3
21	10/29	土	13:30	昔遊び指導		「昔遊びをしよう」指導(あけぼの子どもの森公園主催)	6
22	11/8	火	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	5
23	11/9	水	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	4
24	11/10	木	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	6
25	11/11	金	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	3
26	11/18	金	9:10	「飯能の道探検隊」ガイド	引間	県土整備事務所主催の「飯能の道探検隊」で能仁寺 などを説明	3
27	11/27	日	9:30	打合せ	久下・島崎	小学3年生見学対応準備②(内容検討など)	9
28	11/29	火	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	3
29	11/30	水	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	3
30	12/1	木	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	6
31	12/2	金	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	1
32	12/11	日	9:30	12月例会	久下・島崎	小学3年生見学対応準備③(見学日程、各担当ごとの 準備日程など)	9
33	12/21	水	9:30	「民家の台所」展展示		小学3年生見学対応展示「民家の台所」展展示	4
34	12/22	木	9:30	「民家の台所」展展示		小学3年生見学対応展示「民家の台所」展展示	7
35	1/8	日	9:30	1月例会	久下・島崎	民家の台所展示確認、加治東小学校午後見学打合せ	7
36	1/14	土	13:30	小学3年生見学対応準備		石臼体験準備	1
37	1/15	日	15:30	小学3年生見学対応準備		民具クイズ準備	4
38	1/17	火	13:30	小学3年生見学対応準備	久下・島崎	加治東小学校市街地見学打合せ	8
39	2/12	日	9:30	2月例会	久下・島崎	小学3年生見学対応の反省・評価、市民学芸員協議 会会則検討	8
40	3/7	火	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	4
41	3/8	水	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	3
42	3/9	木	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	5
43	3/10	金	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	3
44	3/19	日	9:30	3月例会	久下・島崎	小学3年生見学対応の評価と今後の展望についてなど	9
45	3/28	火	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	6
46	3/29	水	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	5
47	3/30	木	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	5
48	3/31	金	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料の計測	6

平成18年度活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師(担当)	内 容	参加人数
1	4/27	木	13:30	4月例会	尾崎	平成17年度活動報告、平成18年度の活動内容検討	12
2	5/14	日	9:30	5月例会	尾崎	館外研修会、ツアーマーチ「エコウォークコース」ガイド打合せ	11
3	5/21	日	9:00	「エコウォークコース」ガイド		飯能新緑ツアーマーチの「エコウォークコース」のガイド	8
4	6/8	木	13:30	6月例会・研修会	柳戸信吾(当館学芸員)	「最近の博物館を取り巻く状況と飯能市郷土館の現状」講義/ツアーマーチ「エコウォークコース」ガイド反省など	10
5	6/13	火	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	3
6	6/14	水	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	3
7	6/15	木	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	3
8	6/16	金	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	5
9	7/9	日	9:30	7月例会・研修会	引間隆文(当館学芸員)	「民俗学入門」講義/市民学芸員育成方針等説明	12
10	7/25	火	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	4
11	7/26	水	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	4
12	7/27	木	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	3
13	7/28	金	9:30	林業関係民具計測	引間	林業関係収蔵資料(民具)の清掃、計測	6
14	7/29	土		エコツーリズムサロン発表		大森市民学芸員代表が市民学芸員の活動について発表	1
15	8/20	日	13:30	8月例会・研修会	飯能市生涯学習課文化財担当 熊澤孝之氏	「埋蔵文化財出土品展 比べてみよう!古代と縄文」展示解説/市民学芸員の育成方針についての質疑、館外研修会について	11
16	8/31	木	9:30	杉皮剥き見学会	引間	浅見達次郎氏(上名栗)による杉皮剥き作業実演の見学	6
17	9/10	日	9:30	9月例会・研修会	尾崎泰弘(当館学芸員)	「江戸時代の家族像」講義/市民学芸員活動に対する謝金について	10
18	10/8	日	13:30	10月例会・研修会	柳戸信吾(当館学芸員)	「収蔵品展 郷土館は玉手箱5 -消防用具を中心として-」展示解説/小学3年生見学対応の担当について検討	10
19	10/20	金	7:00	館外研修会	尾崎	平塚市博物館を訪問し、博物館ボランティアの人たちと交流。	11
20	11/12	日	9:30	11月例会	尾崎	小学3年生見学対応準備①(プログラムの内容検討など)	5
21	12/10	日	13:30	12月例会	尾崎	小学3年生見学対応準備②(第2担当割り振りなど)	13
22	12/14	木	9:30	民家の台所設営	尾崎	「民家の台所」展の設営ならびに展示作業	8
23	1/7	日	9:30	1月例会	尾崎	小学3年生見学対応準備(担当割当変更)、「民家の台所展」付帯事業について	10
24	1/16	火	13:30	小学3年生見学対応準備	尾崎	小学3年生見学対応予行演習	12
25	2/2	金	14:00	埼玉連西部地域後期研修会	尾崎	「むかしのくらしと道具展と博学連携について」の報告を聞き、見学する	12
26	2/9	金	12:00	3月例会打合せ	尾崎	来年度の活動を検討する3月例会の進め方協議	11
27	2/11	日	9:30	シニアボランティア講座ガイド		社会福祉協議会・中央公民館共催「親父さんの地域デビュー・やってtry講座」で説明	4
28	2/15	木	14:00	小学3年生見学対応準備	尾崎	加治東小学校「街中探検」下見	4
29	2/22	木	13:30	2月例会	尾崎	小学3年生見学対応の反省・評価、来年度の市民学芸員活動案検討	11
30	2/28	水	13:30	小学3年生見学対応	尾崎	午後、加治小学校3年生の「街中探検」を案内	6
31	3/4	日	10:00	石臼・火のし体験	尾崎	「民家の台所」展付帯事業の運営	8
32	3/13	火		ひな人形展示撤収	柳戸・引間	「ひな飾りお宝展」で展示した雛人形の片づけ	5
33	3/23	金	13:30	3月例会	尾崎	来年度の市民学芸員活動案をKJ法を使って集約	10



林業関係収蔵資料の計測



## 平成19年度活動一覧

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師(担当)	内 容	参加人数
1	4/10	火	13:30	4月例会	尾崎	平成18年度活動報告、平成19年度の活動内容検討	11
2	4/19	木	13:30	夏休み子ども歴史教室打合	尾崎・村上	夏休み子ども歴史教室打合せ	5
3	5/17	木	13:30	5月例会	尾崎	ソーデーマーチ「エコウォークコース」ガイド、小学3年生見学対応改善、夏休み子ども歴史教室内容検討	6
4	5/20	日	9:20	「エコウォークコース」ガイド	尾崎	飯能新緑ソーデーマーチ「エコウォークコース」ガイド	3
5	6/7	木	13:30	夏休み子ども歴史教室打合	村上	夏休み子ども歴史教室打合、小学3年生見学対応改善案作成など	9
6	6/17	日	9:30	6月例会・研修会	村上達哉(当館学芸員)	「石塔から何がわかるか」講義/夏休み子ども歴史教室打合せなど	10
7	6/21	木	14:00	夏休み子ども歴史教室準備	村上	ガリガリプロペラ事前製作会	8
8	7/10	火	13:30	夏休み子ども歴史教室準備	村上	ミニ筏事前製作会	10
9	7/19	木	13:00	埼玉博連前期研修会	尾崎	講演「博物館におけるユニバーサルグラフィック」、企画展見学	1
10	7/20	金	13:30	7月例会	柳戸・尾崎・村上・引間	小学3年生見学対応グループ別改善案検討	13
11	8/7	火	13:30	夏休み子ども歴史教室打合	村上	夏休み子ども歴史教室打合せ	8
12	8/9	木	9:30	夏休み子ども歴史教室運営	村上	小学2～4年生対象の「昔のおもちゃを作ろう」(ガリガリプロペラ製作) 運営	8
13	8/10	金	9:30	夏休み子ども歴史教室運営	村上	小学4年～中学1年生対象の「筏の模型を作ろう」運営	10
14	8/28	火	8:30	館外研修会(8月例会)	飯能市生涯学習課文化財担当 曾根原裕明氏	福德寺(虎秀)、長光寺(下直竹)の文化財見学	11
15	9/20	木	13:30	9月例会	尾崎	小学3年生見学対応改善案検討	12
16	10/21	日	9:30	10月例会・研修会	引間隆文(当館学芸員)	特別展「西川林業の道具」展示解説/第IV期市民学芸員実務実習打合せなど	13
17	11/11	日	10:00	第IV期市民学芸員実務実習	尾崎	小学3年生見学対応の各プログラム内容説明、打合せ	9
18	11/16	金	13:30	11月例会	尾崎	小学3年生見学対応準備、第IV期市民学芸員実務実習検討	8
19	12/9	日	13:30	研修会(12月例会)	元飯能市文化財保護審議委員会委員 井上峰次氏	「国指定重要文化財 軍荼利明王立像について」講義	11
20	12/13	木	9:30	「民家の台所」展展示	尾崎・村上	小学3年生見学対応用展示「民家の台所」展設営	5
21	1/10	木	13:30	小学3年生見学対応合同打合	柳戸・尾崎・村上・引間	第IV期市民学芸員と合同で小学3年生見学対応打合せ	10
22	2/14	木	13:30	「民家の台所」展撤収	尾崎・村上	小学3年生見学対応展示「民間の台所」展撤収	1
23	2/17	日	9:30	2月例会	尾崎・村上	小学3年生見学対応の反省、評価	10
24	2/28	木	9:00	ミニ展示「ひなまつり」準備	引間	「ひな飾りお宝展 in 飯能」の一環であるミニ展示でひな人形を絹甚・館内に展示	4
25	2/29	金	9:00	ミニ展示「ひなまつり」案内	引間	ミニ展示「ひなまつり」の来館者案内及び展示資料の監視	4
26	3/1	土	9:00	ミニ展示「ひなまつり」案内	引間	ミニ展示「ひなまつり」の来館者案内及び展示資料の監視	4
27	3/2	日	9:00	ミニ展示「ひなまつり」案内	引間	ミニ展示「ひなまつり」の来館者案内及び展示資料の監視	4
28	3/3	月	9:00	ミニ展示「ひなまつり」案内	引間	ミニ展示「ひなまつり」の来館者案内及び展示資料の監視	3
29	3/4	火	9:00	ミニ展示「ひなまつり」撤収	引間	ミニ展示「ひなまつり」で展示したひな人形の片付け	3
30	3/14	金	13:30	3月例会	尾崎	来年度の市民学芸員活動内容検討	6



例会風景

### 3. 第IV期（博学連携事業参加型2期） 市民学芸員の養成

#### 趣 旨

平成11年度から始まった当館の市民学芸員制度も8年目を迎え、活動のマンネリ化や動機付けの低下、あるいは家庭の事情や健康問題などによって参加人数が減少してきた。このことはまた高い評価を受けている小学3年生見学対応の受け入れ体制にも影響を及ぼし始めている。

一方当館としては、様々な年齢層を対象とした事業を展開していくことが望ましいと考えていたものの、これまでは一般向けの事業が主になりがちで、子ども（未就学児を含め中学生まで）を主なターゲットにした博物館ならではの事業の充実が課題として残されていた。しかし、生涯にわたる学習機会を提供している生涯学習機関として市民に認知され、広く利用してもらうためには、この世代をターゲットにした事業はますます重要になってくるはずである。

こうしたことから、今回再び博学連携事業に協力していただく市民学芸員を募集、養成することとし、それにより当館の教育普及事業の充実と、市民学芸

員活動の活性化をはかり、市民とともに歩む活気のある博物館となることを目的とした。

#### 養成講座のカリキュラム

下表のとおり。

#### 成 果

小学3年生の見学対応には、1月16日(水)から2月8日(金)までの14日間に、のべ124人が参加した。そして3月16日(日)に市民学芸員認定証交付式を行い、17人が新たに市民学芸員として登録された。



講座風景

#### 平成19年度市民学芸員第IV期（博学連携事業参加型2期）養成講座カリキュラム

回	日付	時間	分野	内 容	講 師	備 考	参加人数
1	5/13	14:00	博物館学	日本の博物館の現状と役割	駿河台大学教授 中川 徹氏		19
2	5/27	14:00	博物館学	博物館の資料について	駿河台大学教授 中川 徹氏		17
3	6/3	14:00	博物館学	博物館と情報	駿河台大学教授 波多野 宏之氏		20
4	6/17	14:00	博物館学	博物館と地域社会	駿河台大学教授 保坂 裕興氏		19
5	6/24	14:00	博物館学	生涯学習機関としての博物館	埼玉県教育委員会 生涯学習文化財課 加藤 美幸氏		16
6	7/8	14:00	博物館学	飯能市郷土館の運営方針と 市民学芸員の役割	当館学芸員 柳戸 信吾		17
8	7/22	14:00	養成テーマ	小学3年生とは	学校教育課指導主事 伊藤 誠氏		19
7	9/2	14:00	養成テーマ	博学連携事業のあり方	川越市立博物館指導主事 井口 修一氏	7/15実施予定が台風接近のため延期	16
9	9/8	13:30	館外研修会	川越市立博物館土曜体験教室 「十五夜のお月見だんごづくり」見学	川越市立博物館主査 石井伸明氏		16
10	9/16	14:00	養成テーマ	市民学芸員の活動について	市民学芸員代表 大森 嘉朗氏		16
11	9/30	14:00	実習	小学3年生の郷土学習について	飯能市立富士見小学校教諭 菱 吉信氏		18
12	10/21	14:00	実習	実務実習ガイダンス	当館学芸員 尾崎 泰弘		14
13	11/11	10:00	実習	小学3年生見学対応実務実習	市民学芸員		15
14	12/16・22	10:00	実習	小学3年生見学対応実務実習	柳戸・尾崎・引間	12/22の常設展示解説担当は常楽院と長光寺見学	17
15	2/24・3/2	13:30	実習	小学3年生見学対応反省会	柳戸・尾崎・引間	2/24常設展示・民具クイズ3/2体験学習	7

# 友の会

飯能市郷土館友の会は郷土館の活動を後援し、また展示、収蔵資料を通して知識を培うことを目的とする団体で、平成2年4月1日に発足した。年会費は500円で会員数は平成19年度末現在約280人になる。会員には、郷土館から特別展等事業の案内が送られる。

友の会主催の事業として、毎年7月3日に一絃琴献奏の会を、1月にまゆ玉づくりと新春琴の調べを実施している。

## 一絃琴献奏の会

飯能市中山の智観寺には、中山家の累代墓所がある。その中山氏10代信敬公は文武両道に優れ、中でも「一絃琴」の名手といわれている。毎年、信敬公の命日7月3日に智観寺に集い、中山氏の遺徳を偲びつつ、高橋通氏の一絃琴を献奏している。

### ●平成17年度

日時 平成17年7月3日(日)  
午後2時～4時20分

参加人数 65人

奏者 高橋通氏

### ●平成18年度

日時 平成18年7月3日(月)  
午後2時～4時30分

参加人数 29人

奏者 高橋通氏

### ●平成19年度

日時 平成19年7月3日(火)  
午後2時～4時

参加人数 40人

奏者 高橋通氏



まゆ玉づくり

## まゆ玉づくり

小正月には「まゆ」の増収を祈って団子を作り、つげの木などの小枝にさして飾る行事があり、かつてはこの家でもおこなっていた。このときに作った団子を「まゆ玉」と呼ぶ。

最近ではおこなわれなくなったこの行事を見直すため、「まゆ玉」を作り、小枝にさして飾る学習会を開催している。

### ●平成17年度

日時 平成18年1月15日(日)  
午後1時30分～3時30分

会場 当館学習研修室

参加者 25人

指導者 内沼須美氏ほか

### ●平成18年度

日時 平成19年1月14日(日)  
午後1時30分～3時30分

会場 当館学習研修室

参加者 40人

指導者 内沼須美氏ほか

### ●平成19年度

日時 平成20年1月13日(日)  
午後1時30分～3時30分

会場 当館学習研修室

参加者 30人

指導者 内沼須美氏ほか

## 新春琴の調べ

正月の雰囲気を味わってもらうために、平成17年度より、休憩コーナーを舞台に琴の演奏会を開催している。

### ●平成17年度

日時 平成18年1月5日(木)  
午前11時～11時50分

参加者 30人

奏者 高橋澄子氏 高橋通氏ほか

### ●平成18年度

日時 平成19年1月7日(日)  
午後1時30分～2時30分

参加者 30人

奏者 高橋澄子氏 高橋通氏ほか

### ●平成19年度

日時 平成20年1月20日(日)  
午後1時30分～2時30分

参加者 27人

奏者 高橋澄子氏 高橋通氏ほか

博物館と学校教育との連携は、学校での「総合的な学習の時間」の導入や「地域学習」の重視から、近年多くの博物館で取り組むようになってきた。当館では、小学生の見学対応、小中学校社会科研究展、出張授業、中学生職場体験の受け入れなどを実施している。このほか、学校への資料の貸出、地域学習の一環として児童・生徒がグループ単位で郷土館を利用することなども増えており、学校と郷土館がより身近なものとなってきた。

## 小学3年生見学対応

市内の小学3年生が社会科の「昔の人々とくらし」の単元で地域学習をする中で、例年1月から2月にかけて郷土館を見学している。当館では、毎年9月ごろに市内小学校の希望を確認し、11月には担当の先生と打合せをし、見学内容を決めている。当館では3つのプログラムを用意しており、その検討や改善、準備、当日の説明や指導は市民学芸員が中心におこなっている。

これまでは交通の便が悪いなどの理由で来館できない学校があったり、長い時間を歩いて来るため見学前に児童が疲れてしまう、などの問題があったため、平成17年度からは希望する学校には市のバスで児童の送迎を行うこととした。また、午前中に郷土館を見学し、午後は市街地の古い建物などを見て回る学校もある。この場合のコースの設定、案内なども市民学芸員が中心となり実施している。

当館で用意している3つのプログラムの内容は次のとおりである。

### ① 常設展示見学

常設展示のうち「乱世に生きぬく(中世)」のコーナ

ーで長光寺雲版をはじめとした国指定重要文化財と「山地のくらし(民俗)」のコーナーで西川材の2つのテーマの説明を行っている。

### ② 昔の道具さがし

学習研修室に置いた、約20点の民具をまず観察したり触れたりしてもらい、その中から「洗濯」、「炊事」、「学校生活」、「暖房・照明」に使う道具をさがしてもらおうクイズ形式の学習。最後にパネルを使って正解を伝えるとともに、道具の使い方を説明する。

### ③ 体験学習

石臼と昔のアイロンの体験を行う。

石臼体験は休憩コーナーに設置した石臼台で米と大豆を挽いてもらい粉にする。

昔のアイロンの体験では、特別展示室に民家の一部を再現した「民家の台所」内の茶の間に上がってもらい、そこで火のしと炭火アイロンを体験してもらう。アイロンを待っている間は民家の展示を自由に見学してもらっている。



昔の道具さがし



昔のアイロン体験

### 平成17年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	備考
1	1/17(火)	精明	2	44	市バス	9:00	11:35	155	10	
2	1/19(木)	南高麗	1	20	市バス	9:00	11:40	100	8	
3	1/20(金)	原市場	3	92	借上バス	9:15	12:00	165	9	
4	1/24(火)	名栗	1	27	市バス	9:25	11:45	140	8	
5	1/25(水)	双柳	2	75	借上バス	8:50	11:25	155	8	
6	1/26(木)	東吾野	1	17	市バス	9:10	11:40	150	9	
7	1/27(金)	飯能第二	1	20	市バス	9:20	11:40	140	9	
8	1/31(火)	飯能第一	4	130	徒歩	8:40 10:40	10:25 12:25	105 105	10	2クラスずつ2回に分けて実施。
9	2/1(水)	富士見	3	100	徒歩	9:15	11:30	135	9	
10	2/3(金)	加治東	2	55	市バス	9:10	11:40	150	7	午後は「まちなか探検」として市街地を見学。
11	2/7(火)	加治	3	113	徒歩	9:10	11:50	160	10	
12	2/8(水)	美杉台	3	94	徒歩	9:10	11:45	155	8	
13	2/9(木)	西川	1	20	市バス	9:20	11:50	150	8	

合計 13校

合計児童数 807人

市民学芸員のべ人数 113人

### 平成18年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	備考
1	1/17(水)	飯能第一	2	62	徒歩	9:00	11:34	154	7	1月17日と19日に分けて2クラスずつ実施。
2	1/18(木)	名栗	1	23	市バス	9:20	11:45	145	8	
3	1/19(金)	飯能第一	2	62	徒歩	9:04	11:31	147	10	1月17日と19日に分けて2クラスずつ実施。
4	1/23(火)	南高麗	1	27	市バス	9:10	11:48	158	10	
5	1/24(水)	精明	1	39	市バス	9:02	11:38	148	9	
6	1/25(木)	双柳	2	65	市バス	8:48	11:23	147	8	
7	1/26(金)	東吾野	1	11	市バス	9:12	11:40	144	8	
8	1/30(火)	西川	1	14	市バス	9:15	11:50	152	8	
9	1/31(水)	原市場	3	86	市バス・路線バス	9:15	11:51	131	8	
10	2/1(木)	飯能第二	1	24	市バス	9:07	11:40	148	9	
11	2/7(水)	加治	3	105	徒歩	9:26	11:53	147	8	
12	2/8(木)	美杉台	2	77	徒歩	9:26	11:51	145	9	
13	2/9(金)	富士見	3	92	徒歩	9:07	11:43	151	12	
14	2/28(水)	加治東	2	45	市バス	9:12	11:50	153	7	午後は「まちなか探検」として市街地を見学。

合計 13校

合計児童数 732人

市民学芸員のべ人数 121人

### 平成19年度小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	備考
1	1/16(水)	南高麗	1	12	市バス	9:13	11:40	175	10	
2	1/17(木)	富士見	3	95	徒歩	8:56	11:40	164	9	
3	1/18(金)	飯能第二	1	19	市バス	9:26	11:48	142	6	
4	1/22(火)	名栗	1	27	市バス	9:25	11:36	131	7	
5	1/23(水)	飯能第一	2	69	徒歩	9:03	11:30	147	5	1月23日と24日に分けて2クラスずつ実施。
6	1/24(木)	飯能第一	2	69	徒歩	9:03	11:40	157	8	〃
7	1/25(金)	精明	2	44	市バス	9:15	11:50	155	6	
8	1/29(火)	西川	1	13	市バス	9:34	11:50	136	6	
9	1/30(水)	双柳	2	63	市バス	8:50	11:30	160	5	
10	1/31(木)	原市場	2	79	市バス・路線バス	9:16	11:45	149	6	
11	2/1(金)	美杉台	3	99	徒歩	9:23	11:50	147	6	
12	2/6(水)	加治	3	123	徒歩	9:24	11:50	146	9	
13	2/7(木)	加治東	2	56	市バス	9:35	11:55	140	5	
14	2/8(金)	東吾野	1	12	市バス	9:10	11:35	145	3	

合計 13校

合計児童数 780人

市民学芸員のべ人数 91人

# 飯能市小・中学校社会科研究展

## 1. 趣 旨

郷土館は社会教育機関であるが、学校教育と連携して教育の振興を担う一面を持っている。学校教育においては近年、特に主体的に学習する能力の育成がさげばれている。そうした中で夏期休業中は比較的時間に余裕があるので、市内の小中学校では、自由研究を課すところが多い。

理科や技術家庭、美術科においては作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているが、社会科においては同様の機会がないのが現状である。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、研究の質も高いと言える。このような作品を公共の場で市民に公開し、評価していただく場を設けることは大きな教育的効果が期待できる。

この展示は平成10年度に「中学生社会科研究展」として開始し、平成13年度より対象を小学生まで広げて行い、平成19年度で10回目となっている。平成16年度までは小学生の部と中学生の部に分け、期間をずらして展示していたが、17年度からは小・中学校合同で展示することとした。

また、18年度からは展示開催期間中は開館時間を2時間延長して午後7時まで開館した。

なお、この展示事業は、市内小中学校社会科主任会との共催である。

## 2. 展示概要

### ●平成17年度（第8回）

期 間 平成17年9月14日(水)～9月25日(日)

開館日数 10日間

入館者数 1,058人（1日平均105.8人）



平成17年度展示風景

展示点数 小学生82点（90人）

中学生110点（120人）

その他

展示作品のうち優秀な作品30点を（小学生20点、中学生10点）を9月28日(水)～9月30日(金)の期間、市役所ロビーで展示した。

### ●平成18年度（第9回）

期 間 平成18年9月13日(水)～9月24日(日)

開館日数 11日間

入館者数 1,072人（1日平均97.5人）

展示点数 小学生117点（128人）

中学生 83点（92人）

その他

展示作品のうち優秀な作品27点（小学生18点、中学生9点）を9月27日(水)～9月29日(金)の期間、市役所ロビーで展示した。

### ●平成19年度（第10回）

期 間 平成19年9月12日(水)～9月24日(月)

開館日数 12日間

入館者数 1,105人（1日平均92.1人）

展示点数 小学生143点（147人）

中学生 65点（83人）

その他

市役所ロビーでの展示は実施しなかった。



平成18年度展示風景

# 出張授業

市内の小中学校からの依頼により、当館学芸員が学校に出向いて授業を行う出張授業も、学校と連携した重要な事業である。児童・生徒が地域学習をする中で、地域のことを専門に調査研究している学芸員から話を聞くことは、子どもたちの関心を高める効果が高い。このため、近年、学校からの依頼が増加してきた。

授業の内容としては、地域学習のための導入として地域の歴史の概要や調べ方を説明するものが多いが、それ以外にもフィールドワーク、実物資料を使った授業などを実施している。毎年同じテーマの授業をすることも多いが、内容については児童生徒の反応等を参考にして改善に努めている。

## 平成17年度出張授業実施一覧

No.	実施日	学 校 名	学年	科目	テーマ	内 容	担当学芸員	対象人数
1	5/10(火)	飯能第一小学校	5年	総合学習	一小周辺の歴史と飯能の方言	総合的な学習の導入として学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。	柳戸	145
2	6/17(金)	美杉台中学校	全校	総合学習	「方言をさぐるう」	飯能の代表的な方言を紹介し、方言の特徴、調べ方を解説した。	柳戸	97

合計 242人

## 平成18年度出張授業実施一覧

No.	実施日	学 校 名	学年	科目	テーマ	内 容	担当学芸員	対象人数
1	4/20(木)	美杉台小学校	4年	総合学習	「みすぎ」の歴史	総合的な学習の導入として、美杉台小学校区の歴史や地域に残る遺産などを説明した。	尾崎	94
2	5/9(火)	美杉台小学校	4年	総合学習	矢嵐地区フィールドワーク	矢嵐地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や寺子屋の建物、水田跡などを解説した。	尾崎	33
3	5/11(木)	美杉台小学校	4年	総合学習	前ヶ貫地区フィールドワーク	前ヶ貫地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や堰、石塔などを解説した。	尾崎	33
4	5/12(金)	飯能第一小学校	5年	総合学習	一小周辺の歴史と飯能の方言	総合的な学習の導入として学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。	柳戸	122
5	5/17(水)	西中学校	3年	選択社会	西中学校周辺の歴史あれこれ	生徒が調べるための題材として、地域の歴史的な事象などを18項目とりあげ、概要を説明した。	柳戸	34
6	5/18(木)	美杉台小学校	4年	総合学習	矢嵐地区フィールドワーク	江戸時代に寺子屋に使われた建物を児童と共に見学し、所有者の方からの説明を受けた。	尾崎	33
7	5/24(水)	美杉台小学校	4年	総合学習	古文書からみたみすぎの歴史	享保17年矢嵐村明細帳や新編武蔵風土記稿の記述を示し、古文書からわかることを説明した。	尾崎	33
8	6/16(金)	美杉台中学校	全校	総合学習	①「飯能戦争」	「振武軍廻文」を教材に飯能戦争について説明し、あわせてこの文書からわかることを考えてもらった。	尾崎	12
9	6/16(金)	美杉台中学校	全校	総合学習	② 歴史の好きな人集まれ	歴史に興味がある生徒に集まってもらい、歴史の魅力について語り合う場とした。	尾崎	26
10	6/16(金)	美杉台中学校	全校	総合学習	③「方言をさぐるう」	飯能の代表的な方言を紹介し、方言の特徴、調べ方を解説した。	柳戸	39
11	6/28(水)	美杉台小学校	6年	総合学習	「みすぎ」の歴史と現在	美杉台地区の歴史と現在の姿について説明し、今後の方向性を考えるための素材を提供した。	尾崎	111
12	7/12(水)	西中学校	3年	選択社会	天覧山・飯能河原周辺フィールドワーク	天覧山および飯能河原周辺を生徒といっしょに歩き、そこにある歴史的な事象について説明した。	柳戸	34
13	10/19(木)	飯能第一小学校	4年	社会科	宮沢湖の開発について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。その後、工事に使用したものと同種の道具を観察してもらった。	柳戸	136
14	11/1(水)	西中学校	3年	選択社会	西中学校周辺の歴史あれこれ	生徒が調べるための題材として、地域の歴史的な事象などを18項目とりあげ、概要を説明した。	柳戸	34
15	11/17(金)	飯能第一小学校	3年	社会科	木の仕事の話を書く	林業に使われた道具を観察してもらい、何の作業に使ったかを考えてもらうクイズを実施。その後作業の様子を説明した。	引間	64
16	11/21(火)	飯能第一小学校	3年	社会科	木の仕事の話を書く		引間	64
17	2/14(水)	西中学校	3年	選択社会	天覧山・飯能河原周辺フィールドワーク	天覧山および飯能河原周辺を生徒といっしょに歩き、そこにある歴史的な事象について説明した。	柳戸	34

合計 936人

## 平成19年度出張授業実施一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当学芸員	対象人数
1	5/2(水)	飯能第一小学校	5	総合学習	一小周辺の歴史と飯能の方言	総合的な学習の導入として学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。	柳戸	139
2	5/2(水)	美杉台小学校	4	総合学習	みすぎの歴史Ⅰ	総合的な学習の導入として、美杉台地区の歴史、地域に残る遺産などを説明した。	尾崎	73
3	5/9(木)	美杉台小学校	4	総合学習	みすぎの歴史Ⅱ	美杉台地区の古い航空写真や地図を観察し、地域の移り変わりを確認してもらった。	尾崎	25
4	5/22(火)	美杉台小学校	4	総合学習	フィールドワーク(前ヶ貫地区)	前ヶ貫地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や堰、石塔などを解説した。	尾崎	25
5	5/24(木)	美杉台小学校	4	総合学習	フィールドワーク(矢風地区)	矢風地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や寺子屋の建物、水田跡などを解説した。	尾崎	25
6	6/13(木)	美杉台小学校	4	総合学習	フィールドワーク(矢風地区)	江戸時代に寺子屋に使われた建物を児童と共に見学し、所有者の方からの説明を受けた。	尾崎	4
7	6/27(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	①「飯能戦争」	「振武軍壘文」を教材に飯能戦争について説明し、あわせてこの文書からわかることを考えてもらった。	尾崎	6
8	6/27(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	② 歴史の好きな人集まれ	歴史に興味がある生徒に集まってもらい、歴史の魅力について語り合う場とした。	尾崎	11
9	6/27(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	③「方言をさぐる」	飯能の代表的な方言を紹介し、方言の特徴、調べ方を解説した。	柳戸	17
10	7/10(火)	美杉台小学校	6	総合学習	「みすぎ」の歴史と現在	美杉台地区の歴史と現在の姿について説明し、未来を考えるための題材を提供した。	尾崎	106
11	9/6(木)	飯能第一小学校	3	総合学習	飯能の自慢を聞く会	「飯能の自慢」として西川材、町中の古い民家、ホケケ、方言などを説明した。	柳戸	135
12	10/11(木)	飯能第一小学校	3	総合学習	飯能の街中古いもの探検(フィールドワーク)	児童といっしょに市街地を歩き、古い建物について解説した。	柳戸	36
13	10/25(木)	飯能第一小学校	3	総合学習	河原町付近の古いもの探検(フィールドワーク)	児童といっしょに飯能河原周辺を歩き、筏宿や道の変遷などについて解説した。	柳戸	36
14	11/1(木)	飯能第一小学校	4	社会科	宮沢湖の開拓について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。その後、工事に使用したものと同種の道具を観察してもらった。	柳戸	125
15	12/5(水)	加治小学校	3	総合学習	ぼくら加治地区探検隊	加治小学校の歴史や学校周辺にある古いものについて説明した。	村上	119

合計 882人

## 来館しての学習

出張授業は当館の学芸員が学校に出向いて行うものだから、それとは逆に、学校の児童・生徒が郷土館に来館し、そこで学習する機会も増えてきた。

その代表的なものは毎年1～2月に実施している小学3年生見学対応だが(50ページ参照)、それ以外

にも次表のような学習があった(調べ学習等のために数人で来館した見学やレファレンス等は除く)。

来館しての学習は出張授業と比べるとより多くの収蔵資料や展示資料を活用できる利点がある。

### 平成17年度 来館しての学習一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	内容	担当学芸員	人数
1	6/10(金)	飯能第一小学校	5年	総合学習	飯能焼、飯能戦争、中山氏、街中の建物などについてグループに分かれて詳しい説明をした。	引間・市民学芸員	40
2	6/24(金)	飯能第一小学校	5年	総合学習	街中の建物を見学するグループと飯能戦争について説明を聞いた後に能仁寺、智観寺を見学するグループに分かれた。	引間・市民学芸員	27
3	6/30(木)	飯能第一小学校	4年	社会科	常設展示の説明、洗濯・薬打ち・測りなどの体験、昔の道具の観察を行った。	柳戸・引間・市民学芸員	117

合計 184人

### 平成18年度 来館しての学習一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	内容	担当学芸員	人数
1	6/2(金)	原市場小学校	5年	総合学習	「飯能の織物」と「和紙」について2グループに分かれ資料を見ながら説明した。	柳戸・引間	12
2	6/14(水)	西中学校	3年	選択社会	生徒が設定した15のテーマについて、調査するための素材提供、説明をした。	柳戸・尾崎・引間	34
3	6/23(金)	飯能第一小学校	5年	総合学習	児童が設定した各テーマについて、素材提供、説明をした。	柳戸・尾崎・引間	30
4	6/30(金)	飯能第一小学校	5年	総合学習	児童が設定した各テーマについて、素材提供、説明をした。	柳戸・尾崎・引間	30
5	10/18(水)	原市場小学校	3年	社会科	飯能市の林業について、筏、常設展示の見学と林業の道具に触れる学習をした。	柳戸・引間	80

合計 186人



## 平成19年度 来館しての学習一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	内 容	担当学芸員	人数
1	10/17(水)	原市場小学校	3年	社会科	飯能市の林業について、筏、常設展示の見学と林業の道具に触れる学習をした。	引間	71
2	11/8(木)	飯能第一小学校	3年	総合学習	民具を観察して何に使われたかのクイズを解いてもらった。	引間・柳戸	36

合計 107人



平成18年度西中学校選択社会での学習風景

## 中学生職場体験

飯能市内の中学校では、中学1年生の生徒が、仕事の厳しさや働く喜びなどを学ぶために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をする「中学生社会体験チャレンジ事業」を実施している。

当館でも毎年生徒を受入れ、郷土館の業務を体験

してもらっている。外から見ただけではわからない裏方の仕事を体験することにより、仕事の厳しさや喜びを実感してもらうだけでなく、郷土館の業務の内容や役割を伝えることにも役立っている。

### 平成17年度中学生職場体験実施一覧

No.	実施日	学校名	人数	内 容
1	11/16(水)~11/18(金)	加治中学校	3	館内清掃、収蔵資料の整理、受贈図書の整理など
2	2/1(水)~2/3(金)	飯能第一中学校	3	館内清掃、小学3年生見学対応補助、収蔵資料整理など

### 平成18年度中学生職場体験実施一覧

No.	実施日	学校名	人数	内 容
1	11/8(水)~11/10(金)	原市場中学校	2	館内清掃、収蔵資料の整理など
2	11/15(水)~11/17(金)	加治中学校	3	館内清掃、収蔵資料の整理、史料調査補助など
3	12/12(火)~12/13(水)	美杉台中学校	2	館内清掃、収蔵資料の整理など
4	1/31(水)~2/2(金)	飯能第一中学校	3	館内清掃、小学3年生見学対応補助、収蔵資料整理など

### 平成19年度中学生職場体験実施一覧

No.	実施日	学校名	人数	内 容
1	11/7(水)~11/9(金)	原市場中学校	3	館内清掃、収蔵資料の整理、受贈図書の整理など
2	11/20(火)~11/22(木)	加治中学校	3	館内清掃、収蔵資料の整理など
3	12/11(火)~12/13(木)	美杉台中学校	3	館内清掃、収蔵資料の整理、「民家の台所」設営補助など
4	1/30(水)~2/1(金)	飯能第一中学校	3	館内清掃、小学3年生見学対応補助、収蔵資料整理など

## 収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

当館では、民具、古文書、古写真やビデオ、書籍などの郷土に関する様々な資料を収蔵している。これらの資料は特別展や講座、学習会などに利用するだけでなく、資料を傷めない範囲で市民や団体等に利用していただいている。利用の方法としては館内での閲覧と館外への貸し出しがある。

利用者の内訳を見ると、個人及び団体による調査研究や郷土学習のための利用が最も多く、次いで市役所内の他部署による利用が増加している。このほか学校や企業、他の自治体や博物館での利用がある。

利用資料の種別では古文書類の利用が最も多く、書籍、写真類の利用がそれに次ぐ。

### ◎利用方法別内訳

利用方法	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
館内（閲覧）	60	52.6	79	65.8	65	61.3
館外（貸し出し）	54	47.4	41	34.2	41	38.7
合 計	114		120		106	

### ◎利用者別内訳

利用者種別	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
個 人	54	47.4	55	45.8	39	36.8
団 体	20	17.5	40	33.3	33	31.1
企業等	8	7.0	2	1.7	8	7.5
学 校	5	4.4	6	5.0	10	9.4
市役所内他部署	25	21.9	13	10.8	10	9.4
他自治体・博物館	2	1.8	4	3.3	6	5.7
合 計	114		120		106	

### ◎利用資料種別内訳

資料種類	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
古文書	56	49.1	56	46.7	37	34.9
民具	5	4.4	7	5.8	15	14.2
絵画・工芸	0	0.0	0	0.0	5	4.7
考古資料	0	0.0	2	1.7	1	0.9
写真	14	12.3	13	10.8	21	19.8
映像・音声	1	0.9	11	9.2	6	5.7
書籍	35	30.7	26	21.7	16	15.1
その他	3	2.6	5	4.2	5	4.7
合 計	114		120		106	

◎資料利用一覧

平成17年度

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	「武蔵野鉄道開通記念」写真など	3	日本テレビ放送網(株)	テレビ番組で放映	4/6~4/16
2	「論語」「尋常小学読本」など	5	市生涯学習課	古文書調査のチラシ掲載	4/12
3	『特別展図録 黎明のとき』など	2	個人	調査	4/13~4/23
4	美杉台地区航空写真	3	市生涯学習課	出張授業で使用	4/14~4/20
5	『日高市史』	1	個人	調査研究	4/9
7	「寛政4年池田筑後守様御掛一件」など	2	古文書同好会	学習会の教材	4/16
8	「第二番地券帳」など	3	古文書同好会	学習会の教材	4/2
9	『飯能市史 産業』など	3	日本テレビ放送網(株)	テレビ番組で放映	4/3
10	『武州世直し一揆史料』など	4	個人	調査研究	4/13
11	「武州高麗郡矢廬村差出明細帳」など	2	市生涯学習課	出張授業で使用	4/20
12	水桶、天秤棒	3	富士見小学校	社会科授業	4/13~4/23
13	「明治18年商金高調」など	6	個人	調査	5/7
14	「天保3年赤沢村宗門人別書上帳控」	1	古文書同好会	学習会の教材	5/10~5/11
15	「炭問屋仲間議定」など	12	個人	調査研究	5/10
16	「農間商取調書上之帳」など	4	個人	研究	5/14
17	「飯能町大通り」写真ネガ	4	個人	講演会資料作成	5/19~5/22
18	「住宅地図 '85年度版」	1	個人	調査	5/20
19	「明治18年商金高調」など	5	個人	調査	5/22
20	「明治19年青梅道補助道編入請願」など	4	市生涯学習課	出張授業準備	5/27
21	「天保4年水車年季証文之事」(絵図)など	3	市生涯学習課	出張授業準備	5/28
22	『入間川の水運』など	2	市生涯学習課	調査研究	6/3~6/13
23	「寛文9年前ヶ貫村西御成ヶ可納割付之事」など	3	市生涯学習課	出張授業準備	5/26
24	松木観音堂木造千手観音立像写真など	5	市生涯学習課	『飯能市教育要覧』に掲載	6/7
25	ビデオ「ふるさとからこぼんは」	2	個人	研究	6/14~6/28
26	「振武軍廻文」レプリカ	1	市生涯学習課	出張授業で使用	6/17
27	『長久保赤水』	1	個人	研究	6/18~7/20
28	『東吾野写真誌』	1	個人	調査	6/19~7/3
29	「三ヶ村議定一札之事」など	13	個人	卒業論文	6/25
30	「安政4年赤沢村宗門人別書上帳」	1	個人	研究	6/25
31	『秩父甲州往還』など	3	個人	調査	7/3~7/17
32	「明治38年度勧業部統計」など	4	市生涯学習課	「絹甚」保存活用検討委員会資料作成	7/16
33	『旧高旧領取調帳 関東編』	1	古文書同好会	学習会の資料作成	7/16~7/23
34	「文久2年 御請証文」など	4	個人	研究	7/23
35	『飯能昭和史年表』	1	(株)文化新聞社	新聞掲載	7/31~8/2
36	『中山信吉』など	2	第一小学校	総合的な学習の時間資料	8/5~8/17
37	「武州高麗郡加治領前ヶ貫村申之御縄打水帳」	1	個人	研究	8/7
38	『飯能の遺跡(23)』など	2	個人	自由研究	8/20~8/25
39	『村史 千代川村生活史』	1	市生涯学習課	調査資料	8/21~8/28
40	「日清製油商報」など	9	個人	研究	8/21
41	「飯能駅前にて武蔵野鉄道開通記念」写真など	3	富士見小学校	社会科副読本作成資料	8/24~9/4
42	五枚歯鋸、前挽鋸など	5	西川材フェアー実行委員会	西川材フェアーにて展示	8/27~8/28
43	『飯能市史』など	3	個人	自由研究	8/31~9/3
44	『記録史料学と現在』	1	市生涯学習課	調査資料	9/3~9/30
45	「安政4年赤沢村宗門人別書上帳」	1	古文書同好会	学習会の資料作成	9/3
46	「安政4年赤沢村宗門人別書上帳」	1	古文書同好会	学習会の資料作成	9/4
47	天覧山・多峯主山周辺地形模型など	3	天覧山・多峯主山の自然を守る会	展示会	9/6~9/11
48	大江家文書など	9	個人	研究	9/13
49	「浜千鳥文四方片口」ポジフィルム	1	(株)主婦の友社	『やきものの見方』に掲載	9/14~11/18
50	「卯辰日記」	1	古文書同好会	学習会の資料	9/19
51	平岡レース事務所建築関係書類	1	個人	研究	9/28

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
52	「差出申議定一札之事」など	15	個人	卒業論文	10/1
53	『飯能文化』	1	飯能郷土会	調査	10/2
54	『農家のモノ・人の生活館』など	3	市民学芸員	児童への説明	10/2～10/30
55	『名栗の伝説』など	6	個人	研究	10/5～10/12
56	平岡レース事務所建築関係書類	1	個人	研究	10/14
57	『熱病藪原』	1	個人	原稿執筆資料	10/16
58	小槻織物関係史料	1	個人	研究	10/18
59	「振武軍旗」ポジフィルム	1	(株)浩気社	『週刊ビジュアル日本の合戦』に掲載	10/20～12/9
60	「卯辰日記」	1	古文書同好会	学習会の資料	10/22
61	『武蔵野の民話と伝説』など	4	個人	調査	10/22～10/25
62	『飯能郷土史』など	4	個人	調査	10/25
63	「鎮守征矢神社地旧除地名之事件」など	8	個人	研究	10/25
64	『幕末明治の幻術・飯能焼』など	2	第一小学校	総合的な学習の時間資料	9/7～9/15
65	『水辺の妖怪・児童』	1	精明公民館	調査資料	10/26～11/15
66	「明治3年村差出明細帳下書」など	2	市生涯学習課	原市場公民館講座準備	11/3
67	『諏訪乃森の神々』	1	市生涯学習課	調査研究	11/2～11/10
68	「朝礼の際における体操」写真	1	(株)文化新聞社	新聞掲載	11/9
69	「飯能駅に停車中の機関車」写真など	3	個人	授業の参考	11/5～11/8
70	「荷物仕切帳」など	2	市生涯学習課	原市場公民館講座準備	11/5
71	「材木荷主連印帳」など	10	個人	研究	11/12
72	浅見譲二家文書	11	個人	研究	11/15
73	「売渡申一札之事(水車)」など	63	個人	卒業論文	11/19
74	写真展「名栗を撮る」展示パネル	80	個人	卒業論文	11/22～12/22
75	「天保14年宗門人別書上帳」など	2	市生涯学習課	原市場公民館講座準備	11/23
76	「天保3年宗門人別書上帳」など	2	市生涯学習課	原市場公民館講座	11/25
77	『新編武蔵風土記稿』	2	個人	執筆資料	12/1～12/4
78	大河原家文書	26	個人	研究	12/3
79	「天保14年宗門人別書上帳」など	2	古文書同好会	学習会の資料	12/3
80	「売渡申一札之事(水車)」など	42	個人	卒業論文	12/11
81	「乍恐以仕様書奉申上候」	1	古文書同好会	学習会の教材	12/10
82	『飯能市市勢要覧』など	2	個人	学習	12/18～1/22
83	大河原家文書	55	個人	研究	12/25
84	『飯能人物誌』など	2	個人	調査	1/14
85	「池田筑後守様御掛一件」	1	古文書同好会	学習会の教材検討	1/14
86	『開化写真鏡』	1	個人	絵画の参考	1/22～1/29
87	「水車御宴加永不公平ニ付御直方御願」	1	個人	研究	1/22
88	「明治5年筏荷物紛失御探索願」など	3	個人	研究	1/29
89	「旧市役所裏の坂道」写真	1	さいたま川の博物館	『紀要』に掲載	2/3～4/30
90	「大正7年勸業部飯能町役場」など	8	個人	調査研究	2/3
91	『飯能市郷土館研究紀要』	1	(株)文化新聞社	記事資料	2/7～2/15
92	「卯辰日記」など	2	市生涯学習課	原市場福祉センター講座教材	2/12
93	『日本の歴史 開国と倒幕』など	2	市生涯学習課	古文書調査資料	2/14～2/19
94	『飯能のたからもの』など	2	個人	学習	2/17
95	「武州高麗郡矢嵐村沿革」	1	個人	調査研究	2/19
96	『埼玉のふるさと散歩』	1	個人	学習	2/18
97	『須田日記』	1	市生涯学習課	指定文化財調査	2/18～2/28
98	落合登美子家文書	23	東村山ふるさと歴史館	企画展調査	2/21
99	石臼	1	大河原たのしもう会	地区子どもと大人の交流会	3/30～3/31
100	埼玉県飯能町全図	1	個人	研究	2/26
101	「萬代御用留全」など	2	古文書同好会	学習会の教材検討	2/24

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
102	『多摩のあゆみ』32号	1	市生涯学習課	古文書調査資料	2/24~3/4
103	「軍荼利明王立像」写真	1	吾野地区まちづくり推進委員会	会の冊子に掲載	3/1~4/15
104	「天保14年御改 宗門人別帳写」など	4	個人	調査研究	3/5
105	「萬代御用留全」	1	古文書同好会	学習会の教材	3/4
106	文化財関係写真アルバム	2	市生涯学習課	獅子舞調査報告書作成	3/3~3/10
107	雛人形	7	木馬をつくる会	「雛飾りお宝展in飯能」で展示	2/28~3/7
108	『飯能郷土の誌』	1	個人	調査	3/8
109	「六教解」	1	個人	研究	3/11
110	火のし	2	富士見小学校	社会科授業	3/14~3/25
111	「文化財調査簿」など	5	市生涯学習課	獅子舞調査報告書作成	3/18~5/18
112	飯能市内獅子舞ボジフィルム	37	市生涯学習課	獅子舞調査報告書作成	3/18~3/28
113	「萬代御用留全」	1	古文書同好会	学習会の教材	3/18
114	筏流し写真など	4	国際放映	テレビ番組で放映	3/25
115	『中山氏と飯能・高萩』	1	個人	執筆資料	3/16~4/18

## 平成18年度

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	「萬代御用留全」	1	古文書同好会	学習会の教材	4/1
2	スライド「農村の結婚改善」	1	個人	大学の授業教材	4/4~5/31
3	『飯能随筆』	1	(株)文化新聞社	新聞への掲載	4/8
4	「萬代御用留全」	1	古文書同好会	学習会の教材	4/15
5	「昭和26年原市場村議会会議録」など	4	市議会事務局	議員調査	4/21
6	「吾野水力電気株式会社事業報告書」など	2	個人	研究	4/26~5/9
7	小槻織物関係資料	1	飯能郷土会	調査	4/29
8	小岩井渡場遺跡出土土器・石器など	25	個人	研究	5/1
9	VTR「大地を打つ」	1	みんようネットワーク飯能	学習会で使用	5/2~5/10
10	小槻織物関係資料	8	個人	調査	5/9~5/17
11	「遊水場ポート場」写真など	3	いしいデザイン	情報誌へ掲載	4/22~5/31
12	昭和35年飯能都市計画図	1	個人	エコツアーガイド資料	5/13
13	「萬代御用留全」	1	古文書同好会	学習会の教材	5/13
14	『入間馬車鉄道の歴史』	1	個人	調査	5/14
15	くるり棒	1	みんようネットワーク飯能	麦打ち唄発表に使用	5/23
16	『山の親父のひとりごと』など	2	個人	エコツアーガイド資料	5/26
17	『埼玉県の民謡』	1	みんようネットワーク飯能	調査	5/26
18	「ホッケー競技中」写真など	3	飯能ホッケー連盟	テレビ取材対応	5/31~6/12
19	「参考切本帳」など	197	個人	所沢織物の調査・研究	5/30
20	『原市場の地名と屋号』	1	個人	研究	5/30~6/11
21	「萬代御用留全」など	2	古文書同好会	学習会の教材	5/27
22	「新飯能音頭」レコードなど	3	みんようネットワーク飯能	調査	6/2
23	『精明村史稿』	1	個人	調査	6/8
24	市民学芸員活動状況写真	10	市民学芸員協議会	エコツアーリズム活動の発表	6/2~7/31
25	新収蔵品展作成資料「描かれた風景の今」	1	個人	ホームページへ掲載	6/9~7/9
26	「図案見本帳」など	8	個人	所沢織物の調査・研究	6/10
27	「萬代御用留全」など	2	古文書同好会	学習会の教材	6/10
28	「天保15年宗門人別改帳並小前印鑑控」	1	古文書勉強会	学習会の教材	6/10
29	「矢廬不動滝」写真	1	美杉台小学校	4年生総合学習	6/19
30	高萩市関係パネル	1	市市民参加推進課	パネル展で展示	6/15~6/30
31	『ふるさと漫録』	1	個人	総合学習の調査	7/1
32	「天保15年宗門人別改帳並小前印鑑控」	1	古文書勉強会	学習会の教材	7/1
33	「寛政4年池田筑後守様御掛一件」	1	古文書同好会	学習会の教材	7/1

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
34	「天保15年宗門人別改帳並小前印鑑控」	1	古文書勉強会	学習会の教材	7/15
35	「池田筑後守様御掛一件」	1	古文書同好会	学習会の教材	7/15
36	『青梅市史』上・下巻	2	個人	調査	7/26
37	『飯能戦争』、『入間川再発見』	2	個人	自由研究	7/23
38	『飯能の伝説』、『名栗の伝説』	2	個人	調査	7/26
39	「吾野水力電気株式会社事業報告書」など	2	駿河台大学市原ゼミ	ゼミ資料	7/28
40	『入間川の水運』、『入間川再発見』など	3	個人	調査	8/2
41	『郷里のにぎわい』『飯能まつり山車マップ』	8	個人	自由研究	8/8
42	『飯能の獅子舞』など	3	個人	総合学習の調査	8/8
43	DVD「郷里の響き」	1	個人	自由研究	8/5～8/15
44	新収蔵品展作成資料「描かれた風景の今」	1	個人	ホームページへ掲載	8/6
45	『飯能戦争』	1	個人	調査	8/15
46	「参考切本帳」など	14	個人	所沢織物の調査・研究	8/13
47	ノコギリ、前挽鋸、ヨキなど	5	西川林業クラブ	西川材フェアで展示	8/26～8/27
48	住宅地図'74年版	1	市学校教育課	通学区域調査	8/22
49	本郷浄水場堰写真など	2	個人	スケッチ題材	8/22
50	『飯能の伝説』など	3	個人	研究	8/22
51	『入間川再発見』	1	個人	調査	8/22
52	『埼玉の神社』『入間神社誌』	2	個人	自由研究	8/20
53	「筏流し」ビデオ	1	原市場の古へを探らふ会	西川材フェアで放映	8/27
54	「筏流し」古写真など	7	原市場の古へを探らふ会	テレビで放映	8/23～8/31
55	「筏乗りの唄」テープ	1	個人	自由研究	8/23
56	「飯能町明治神宮建設請願書写」	1	個人	自由研究	8/23
57	「飯能町明治神宮建設請願書写」	1	個人	自由研究	8/24
58	『飯能の板碑』	1	個人	自由研究	8/24～8/29
59	『飯能の伝説』	1	個人	調査	8/31
60	美杉台地区航空写真	3	個人	自由研究	8/31
61	「吾野機織り唄」レコードなど	3	みんようネットワーク飯能	学習会で使用	9/1
62	クダマキ	1	あけぼの子ども森公園	主催事業に使用	9/7～9/20
63	名栗村地内出土遺物	1	市生涯学習課	調査	9/15～3/31
64	「天保13年乍恐書付御訴訟奉申上候」	1	古文書勉強会	学習会の資料	9/16
65	「池田筑後守様御掛一件」	1	古文書同好会	学習会の教材	9/16
66	『飯能戦争』	1	個人	調査	9/20
67	「夏物注文帳」など	7	個人	所沢織物の調査・研究	9/24
68	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」など	2	古文書同好会	学習会の教材	9/26
69	ノコギリ、前挽鋸、ヨキなど	8	富士見小学校	社会科の学習	10/3～10/6
70	「天保13年乍恐書付御訴訟奉申上候」	1	古文書勉強会	学習会の教材	10/7
71	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	古文書同好会	学習会の教材	10/7
72	「写真でたどる飯能の50年」展示写真データなど	33	富士見小学校	社会科授業の資料	10/8～10/21
73	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	個人	学習	10/13
74	「天保13年乍恐書付御訴訟奉申上候」	1	古文書勉強会	学習会の教材	10/21
75	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	古文書同好会	学習会の教材	10/21
76	大野貞家文書	4	個人	研究	10/27
77	天覧山・多峯主山周辺地形模型	1	個人	第一小学校学年行事	11/15
78	「飯能臼挽き唄」レコードなど	2	みんようネットワーク飯能	学習会で使用	11/3～11/14
79	昭和35年飯能都市計画図	1	個人	卒業論文	11/10
80	「冬物切本」など	4	個人	所沢織物の調査・研究	11/12
81	「天保13年飯能村全図」など	3	個人	卒業論文	11/17
82	「昭和54年大通り商店街」写真など	2	市生涯学習課	成人式配布資料に掲載	11/22
83	『川越市史』、『所沢市史』など	5	市生涯学習課	調査	11/17～11/24

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
84	「天保13年午恐書付御訴訟奉申上候」	1	古文書勉強会	学習会の教材	11/25
85	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	古文書同好会	学習会の教材	11/25
86	中谷孝雄あて書簡・葉書	5	文芸飯能編集委員	文芸飯能に掲載	11/26
87	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	個人	学習	11/30
88	たすき、千人針、国民服など	6	自由の森学園高等学校	社会科の授業	12/12~12/13
89	迅速測図、加治村全図	2	個人	調査	12/13
90	『朝霞の学校給食』	1	個人	調査	12/15
91	「参考切本帳」など	3	個人	所沢織物の調査・研究	12/17
92	「レース工場事務所建築申請関係綴」など	9	個人	調査研究	12/17~1/31
93	『南高麗生産森林組合の歩み』	1	埼玉県川越農林振興センター	便覧作成	12/22~12/27
94	「レース工場事務所建築申請関係綴」など	2	個人	調査	12/24
95	「御普請請願図上下岩沢村」など	98	葛飾区郷土と天文の博物館	特別展準備調査	12/24
96	「文政2年午恐書付御奉願上候」	1	個人	学習	1/5
97	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	古文書同好会	学習会の教材	1/13
98	『写真集 飯能』	1	市生涯学習課	町屋調査の資料	1/18~1/26
99	『特別展示図録 飯能の刀匠』	1	文芸飯能編集部	文芸飯能に掲載	1/18~2/28
100	「岩沢村全図」など	5	市生涯学習課	文化財マップ作成	1/19
101	「天正15年5月8日松田憲秀印判状」写真など	2	多摩市文化振興財団	特別展「関戸合戦」に展示	1/23~2/20
102	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	古文書同好会	学習会の教材	1/27
103	「吾野宿今昔」ビデオなど	3	建築士事務所協会	エコツアー資料	1/31~2/15
104	「征矢神社田畑租税並小作入揚金勘定帳」など	23	個人	調査研究	2/1
105	「萬延2年三箇村筏師連名覚帳」	1	古文書同好会	学習会の教材	2/3
106	「安政5年妻沢一件訴答写」	1	個人	学習	2/14
107	「御店注文柄」など	6	個人	所沢織物の調査・研究	2/18
108	吾野水力発電所絵葉書など	15	駿河台大学塚本ゼミ	テレビ飯能放映ビデオ作成	2/20~4/1
109	「宮沢湖堰堤工事左岸土取場」写真	1	市生涯学習課	文化財マップに掲載	2/23~4/30
110	享保雛、御殿雛	3	木馬をつくる会	「雛祭りお宝展」で展示	2/27~3/13
111	名栗地区獅子舞写真	10	市商工観光課	獅子舞PRパンフレットに掲載	3/1~3/31
112	「大地を打つ」ビデオテープなど	3	みんなネットワーク飯能	学習会で使用	3/2
113	「吾野織り唄」レコードなど	2	みんなネットワーク飯能	学習会で使用	3/2
114	「安政5年妻沢一件訴答写」	1	個人	学習	3/3
115	「御普請請願図上下岩沢村」など	13	葛飾区郷土と天文の博物館	特別展「諸国洪水・川々満水」で展示	3/8~5/15
116	『坂戸市史』『狭山市史』など	6	個人	研究	3/11
117	「安政5年妻沢一件訴答写」	1	個人	学習	3/17
118	「大正4年製品柄」など	4	個人	所沢織物の調査・研究	3/18
119	天覧山・多峯主山周辺地形模型	1	天覧山・多峯主山の自然を守る会	講演会会場で展示	3/24
120	うちおりなど	7	みんなネットワーク飯能	学習会で展示	3/30

## 平成19年度

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	藤枝太郎英義付落合寿親袴写真フィルム	1	市秘書室	『広報はんのう』掲載	4/3~4/6
2	「安政5年4月妻沢一件訴答写」	1	古文書同好会	不明箇所確認	4/5
3	浅見謙二家文書	12	個人	調査	4/11
4	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	古文書学習のテキスト	4/21
5	「武州高麗郡矢嵐村差出明細帳控」	1	古文書勉強会	古文書学習のテキスト	4/28
6	「名栗川筏唄」レコードなど	3	みんなネットワーク飯能	学習会で使用	5/6
7	堀越家文書	75	個人	所沢織物の調査・研究	5/20
8	『おらがぼうの標準語』	1	個人	調べ学習	5/22
9	『おらがぼうの標準語』	1	個人	調べ学習	5/27
10	くるり棒	1	みんなネットワーク飯能	学習会で使用	6/1

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
11	「嘉永6年飯能村組合組合高並寄場役人大小総代」など	2	個人	研究	6/3
12	「高麗郡矢嵐村絵図」など	3	古文書同好会	学習	6/8
13	図録『飯能の刀匠』	1	自由の森学園	体験学習資料	6/10～6/17
14	美杉台関係写真	15	美杉台小学校	総合学習の授業	6/12～6/30
15	「筏流し」ビデオテープ	1	個人	講座でのプレゼンテーション	6/15～6/22
16	「天保15年宗門人別御改帳並小前印鑑控」	1	古文書勉強会	古文書学習のテキスト	6/23
17	「大正7年織物参考標本」など	5	個人	所沢織物の調査・研究	6/24
18	「名栗川筏唄」レコードなど	2	みんようネットワーク飯能	学習会で使用	7/6
19	「輪組み」「修羅出し」写真など	6	原市場の古へを探らふ会	テレビ放映	7/6～8/11
20	「乍恐以書付御訴訟奉申上候」	1	古文書同好会	学習	7/7
21	『武蔵国郡村誌』	1	個人	研究	7/18
22	教科書・そろばん・石板など	10	中央公民館	主催事業	7/20
23	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	不明箇所確認	7/20
24	千人針	1	ふれあいサロン川寺	子どもたちと高齢者の交流会	7/24～7/25
25	『飯能の伝説』	1	個人	自由研究	7/25
26	「織物納税帳」など	8	個人	所沢織物の調査・研究	7/29
27	『飯能材友会報』	1	西川広域森林組合	商標登録資料	8/1～8/3
28	昭和35年都市計画図	2	個人	学習	8/24
29	「夏物切本」など	4	個人	所沢織物の調査・研究	8/26
30	北条氏照印判状写真フィルム	1	寄居町教育委員会	企画展ポスター等に掲載	8/28～9/28
31	「材木を載せた荷車」写真など	10	個人	図書掲載	8/28～9/30
32	常設展示・シンボル展示	2	(株)シグマコミュニケーションズ	DVD製作のため撮影	8/29
33	『飯能郷土史』	1	個人	研究	9/7
34	「筏流し」写真	1	個人	研究発表	9/11～10/5
35	「筏流し」写真	1	(株)シグマコミュニケーションズ	DVD製作	9/11～10/12
36	小島喜八郎画「街中の梅」など	11	市秘書室	秘書室廊下に展示	9/14～9/30
37	小岩井渡場遺跡出土土器・石器など	25	個人	調査	9/19
38	「飯能駅停車中の機関車と周囲に集まる人々」写真など	2	南美杉会	文芸作品集に掲載	9/20～9/30
39	「染織物標本 第1類」など	4	個人	所沢織物の調査・研究	9/23
40	おひつ・おひつ入れ・まな板など	7	中央公民館	主催事業	9/26
41	「宮沢湖工事現場掘削作業記念」写真など	4	埼玉県平和資料館	テーマ展「戦時埼玉の食卓」に展示	9/28～10/25
42	「昭和22年重要農産物供出関係」	1	埼玉県平和資料館	テーマ展「戦時埼玉の食卓」に展示	9/28～1/10
43	常設展示音声（山地のくらし）	1	駿河台大学	展示での音源	9/30～10/6
44	印半纏	2	みんようネットワーク飯能	学習会で使用	10/5
45	黒田直邦顕彰碑写真フィルム	1	二宮町史編さん委員会	二宮町史に掲載	10/5～10/31
46	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	不明箇所確認	10/11
47	常設展示・シンボル展示	4	岩崎書店	『日本の林業』掲載のため撮影	10/20
48	てぬぐいなど	17	中央公民館	主催事業	10/25
49	ムカデバシゴ・ナタなど	4	NPO法人MORIMORIネットワーク	『日本の林業』掲載のため撮影	10/25
50	『ふるさと思い出写真集 明治・大正・昭和 飯能』	1	市エコツーリズム推進室	エコツーリズムオープンカレッジ実践講座資料	10/27～11/11
51	「埼玉県観光協会総会記念」写真	1	市エコツーリズム推進室	エコツーリズムオープンカレッジ実践講座資料	10/27～11/11
52	背負かご、ノコギリなど	7	個人	名栗村史編さん	10/28
53	「凶案見本帳」など	8	個人	所沢織物の調査・研究	10/28
54	黒田幹太郎画「ロマン空間」	1	第一小学校	展示	10/31～10/31
55	「明治29年11月 心鏡日記帳」	1	個人	研究	11/1
56	「東飯能駅」「ファミコンで遊ぶ」写真	2	市生涯学習課	成人式冊子に掲載	11/1～12/25
57	定点撮影プロジェクト写真展写真パネルなど	9	南高麗小学校	総合学習の授業	11/8～12/4
58	双木本家飯能焼コレクション	17	駿河台大学塚本ゼミ	飯能ケーブルテレビ映像撮影	11/10
59	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	不明箇所確認	11/10
60	「汽車発着時刻並二賃金表」	1	個人	調査	11/11



No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
61	『飯能の文学碑』など	3	個人	調査	11/13～11/20
62	「乍恐以書付御訴訟奉申上候」	1	古文書勉強会	学習	11/17
63	たすき・千人針・国民服	4	自由の森学園	社会科授業	11/21～11/30
64	「そり橋」写真	1	NPO法人MORIMORIネットワーク	『日本の林業』掲載	11/27～2/29
65	「機械器具置場へ集合した消防組」など	4	日高市消防団	『自治体消防60周年記念誌』に掲載	11/29～12/15
66	印半纏・くるり棒など	5	みんなネットワーク飯能	「仕事唄ライブ」	12/1～12/2
67	「木挽き唄・筏唄」録音テープなど	6	みんなネットワーク飯能	「仕事唄ライブ」	12/1
68	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	学習	12/6
69	「飯能小唄」・「飯能音頭」レコード	2	みんなネットワーク飯能	学習会で使用	12/7
70	「山地の集落」写真フィルム	2	(株)家の光出版総合サービス	『日本の林業』掲載のため撮影	12/9～2/29
71	飯能焼梅樹文壺など	2	(株)トップシーン	テレビ番組製作のため撮影	12/12
72	「凶案見本帳」など	3	個人	所沢織物の調査・研究	12/16
73	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	不明箇所確認	12/20
74	石臼	1	個人	調査	12/21
75	『飯能の指定文化財』など	3	個人	調査	12/21
76	内田晃画「カンヌ風景」など	2	市秘書室	市長応接室に展示	12/27～6/30
77	「明治34年水車興廃関係書」など	18	個人	研究	1/16
78	くだ巻	1	東吾野小学校	国語授業	1/18～1/26
79	火のし、炭火アイロンなど	4	富士見小学校	総合学習の授業	1/22～1/23
80	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	不明箇所確認	1/27
81	堀越家文書	10	個人	所沢織物の調査・研究	1/27
82	「黒田直邦墓」写真プリント	1	加須市立花崎児童館	『わがまち川口』の編さん	1/27～3/31
83	『狭山市立博物館総合案内』	1	個人	調査	1/31
84	「大正16年肥料関係書類」など	23	個人	研究	2/2
85	体験学習用マイギリ	3	東吾野小学校	総合学習の授業	2/2～2/29
86	「昭和14～15年肥料譲渡簿」など	32	個人	研究	2/7
87	『精明村史稿』	1	個人	研究	2/16
88	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	不明箇所確認	2/16
89	『精明村史稿』	1	個人	研究	2/17
90	「染織物標本 第6類」など	3	個人	所沢織物の調査・研究	2/17
91	「奥武蔵駅伝優勝カップを手に学生チーム記念」写真	1	個人	研究	2/17
92	「寛文8年武州高麗郡荻り生村申之御縄水帳」	1	南高麗郷土史の会	荻生関係古文書集成	2/21
93	縄文人模型（常設展示）	1	(株)交通新聞社	月刊誌掲載のため撮影	2/21
94	『多摩民具辞典』	1	市生涯学習課	研究	2/29～3/1
95	雛人形など	14	木馬をつくる会	絹甚で展示	2/29～3/3
96	下草刈取鑑札など	2	南高麗郷土史の会	南高麗郷土史資料集成	3/4
97	『飯能なんでも大全集』	1	笠縫自治会	自治会沿革調査	3/8
98	中村正夫家文書	69	「19世紀の地域社会像」研究会	古文書目録執筆	3/14～3/15
99	「明治11年糞尿関係書類」など	22	個人	研究	3/15
100	「ジャパマイセン」写真	1	(株)ネクサス	テレビ番組製作	3/15～3/25
101	航空写真	2	個人	調査	3/22
102	『飯能文化財時報』	3	個人	調査	3/23～3/30
103	「布見本帳」など	9	個人	所沢織物の調査・研究	3/23
104	「筏流し再現」写真	5	(株)コギトエルゴスム	テレビ番組製作	3/25
105	「飯能町大通り」写真など	4	個人	学会誌に掲載	3/25
106	「天保14年正月卯日記」	1	古文書同好会	不明箇所確認	3/27

# 施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成17年度から19年度にかけては、特別展示室・図書室の一般利用はなかった。

学習研修室は、当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルに利用されている。その他、団体での見学者や市内の小学生の見学、他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。

## 学習研修室利用実績

利用種別		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数
団体等の利用	恒常的活動(学習サークル)	73	948	65	887	76	1,128
	見学など	17	464	11	348	16	319
	他団体の主催事業等	13	242	9	175	10	189
	小計	103	1,654	85	1,410	102	1,636
郷土館の主催事業		62	1,265	85	1,301	85	1,843
合計		165	2,919	170	2,711	187	3,479
年間利用日数		139日		150日		156日	

## ◎主な活動団体

古文書同好会・古文書勉強会・飯能郷土史研究会・多聞の会・石仏談話会・ずい筆の会・飯能市郷土館友の会・みんなようネットワーク飯能

## ◎平成19年度末現在で活動している学習サークル

### 古文書同好会

設立 平成3(1991)年4月  
 目的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及びその活字化。  
 代表者 中里 光男  
 会員数 20人  
 活動 毎月第1・3土曜日

### 古文書勉強会

設立 平成14(2002)年7月  
 目的 飯能市内の古文書の解説をとおして歴史を知る。  
 代表者 不在  
 会員数 11人  
 活動 毎月第1・3土曜日

### 多聞の会(仏教美術学習会)

設立 平成6(1994)年11月  
 目的 仏像・仏画・仏教建築など広く仏教及び仏教美術についての学習。  
 代表者 綾部 光芳  
 会員数 26人  
 活動 8月を除く毎月第3木曜日に例会(うち見学会3回)

### 石仏談話会

設立 平成7(1995)年1月  
 目的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。  
 代表者 森田 道男  
 会員数 20人  
 活動 第1土曜日に活動(奇数月が学習会、偶数月は見学会)

### 飯能郷土史研究会

設立 昭和48(1973)年7月  
 目的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。  
 代表者 坂口 和子  
 会員数 67人  
 活動 年6回の例会

### みんなようネットワーク飯能

設立 平成8年(1996)年  
 目的 民踊をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。  
 代表者 石井 英子  
 会員数 35人  
 活動 不定期

# レファレンスの対応

当館には、展示を見学したり講座に参加したりするだけでなく、自分で学習するため、あるいは授業で使うためなど、様々な地域の情報、資料などを求めて来館される方がいる。そのような来館者の問い合わせ（レファレンス）への対応も当館にとって重要な仕事のひとつである。

来館者が窓口や電話で問い合わせる内容には、文化財の所在地などのその場で答えられる軽微なものから、しばらく時間をいただいて調査してからでないと答えられないものまで、様々である。このうち、調査を行い資料、情報などを提供した場合には、対応内容や提供資料などを「レファレンス対応記録票」に記入している。その理由は、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためである。平成17年度から19年度にかけてレファレンス対応記録票に記入された内容は下表のとおりである。

一方、それ以外のその場で答えられる内容の問い合わせについては、これまで記録していなかったが、平成18年度からはその件数を把握するために窓口と電話の傍に「件数記録票」を置き、対応する毎に記入することとした。その集計結果は右表のとおりで、一般からの問い合わせが最も多く、子どもからの問い合わせがそれに次ぐ。

レファレンス件数集計結果

(件)

照会者	平成18年度			平成19年度		
	窓口	電話	合計	窓口	電話	合計
一般	60	32	92	59	26	85
市職員		15	15		2	2
学校教員		3	3	1		1
子ども	25	3	28	11	1	12
不明		3	3	2		2
合計	85	56	141	73	29	102

## レファレンス対応記録一覧

平成17年度

No.	照会日	件名	回答日	照会者	照会方法
1	5/18	青木村青木家が滅んだ原因について	5/18	一般	来館
2	5/31	飯能屋栄吉と堀田隼人の関係の関係について	6/2	一般	来館
3	6/1	富士見小学校ポプラの木を伐採した経緯について	6/1	一般	来館
4	6/2	もみ殻でご飯を炊く道具について	6/14	一般	来館
5	6/9	北条氏照及び家臣の墓は誰が建立したものか	6/9	一般	来館
6	6/19	振武軍関係の資料の所在について	6/23	一般	来館
7	6/21	武州一揆の指導者紋次郎の子孫を知りたい	6/21	一般	来館
8	7/5	安政2年12月の飯能村の大火について	7/5	一般	電話
9	7/6	明治時代の松阪（兵庫県）から苅生までの旅程について	7/14	一般	Eメール
10	7/12	木炭自動車の写真の所在について	7/12	一般	来館
11	7/21	天覧山ハイキングコースの案内板について	7/22	一般	Eメール
12	7/22	市内の文化財看板表記について	7/28	県職員	Eメール
13	7/25	下名栗諏訪神社土蔵の鏝絵について	7/27	一般	Eメール
14	7/27	三社及び下名栗の獅子舞の開催日について	7/27	一般	電話
15	8/3	石垣造り名人八徳三吉について	8/5	他市職員	文書
16	8/11	写真「戦没者の町葬（昭和13年）」は誰の町葬か	8/12	一般	来館
17	8/26	大河原地区の歴史がわかる資料について	8/28	一般	来館
18	9/2	常岡卯三郎について知りたい	9/3	市職員	電話
19	9/9	吾野機織り唄の正しい歌詞を知りたい	9/9	一般	電話
20	9/9	中山館の読み方について	9/9	出版社	Eメール
21	9/28	森鷗外の「娘」にでてくる「名主の滝」について	10/4	市職員	電話
22	10/7	大名紺屋と呼ばれた「永楽屋」について	10/13	一般	Eメール
23	11/26	「ザトウムシ（座頭虫）」について	11/26	小学生	来館
24	11/27	フセギの風習が飯能にもあるか	11/27	一般	電話

No.	照会日	件名	回答日	照会者	照会方法
25	12/11	斧と鉞のちがいについて	12/11	一般	来館
26	1/5	石原の獅子舞の見学方法について	1/5	一般	電話
27	1/5	「柿ノ木峠」の由来について	1/5	一般	Eメール
28	1/31	採集した石が石器かどうか見てほしい	1/31	一般	来館
29	2/26	西光寺と大光寺の双盤念仏の実施日等について	2/28	一般	Eメール
30	3/3	名栗地区内の獅子舞の実施日について	3/5	一般	Eメール
31	3/26	「タカソリ山」「キハダ坂」「ヌルギ」「堂平山」の地名の由来について	3/28	一般	来館
32	3/29	武州一揆の発生原因について	3/30	一般	Eメール

### 平成18年度

No.	照会日	件名	回答日	照会者	照会方法
1	4/23	精明村に電話を寄付した事実を示す文書の所在	5/9	一般	来館
2	4/25	アカネガトウゲの表記が3種類あるが、どれを使用すればよいか	4/27	市職員	電話
3	5/10	飯能町の「間野とき」なる人物について	5/10	他市博物館	来館
4	5/17	高山にある三輪神社について	5/17	一般	電話
5		「店御帳」に記された内容を知りたい	5/17	一般	来館
6	7/21	飯能市内の地名のうちユニークな由来をもつものはあるか	8/18	新聞記者	来館
7	7/21	飯能市に明治神宮の建設が計画された経緯などについて	8/23	小学生	来館
8	8/7	名栗で「みそいもがら」を食べる例はあるか	8/11	新聞記者	電話
9	8/11	昭和22年八高線脱線事故の資料について	12/20	一般	電話
10	9/15	扶桑念流を起こした剣術家秋山要助について	9/20	一般	電話
11	9/20	夏目漱石の友人、山川信次郎について	9/20	新聞記者	電話
12	10/2	郷土館の利用、商店街などについて	10/5	一般	文書
13	10/17	看板「回効散」の収蔵の有無について	10/19	一般	Eメール
14	3/15	名栗地区河又にある壁画の由来について	3/15	一般	Eメール
15	3/21	名栗川橋について	3/21	雑誌記者	文書

### 平成19年度

No.	照会日	件名	回答日	照会者	照会方法
1	4/10	慶応年間の名主に関する古文書の所在について	4/10	一般	電話
2	4/13	神酒口を製造しているところについて	4/17	一般	Eメール
3	4/22	「茶内」の地名の由来について	4/25	一般	Eメール
4	5/3	都幾川の「山始め唄」について尋ねられる人物はいるか	6/1	一般	来館
5	5/23	畠山重忠に関する資料や中世の資料の有無について	5/23	一般	来館
6	6/20	彫刻師後藤弁次郎について	6/20	一般	来館
7	8/4	美杉台地区の歴史について	8/31	小学生	来館
8	8/21	「宮元町」の地名の由来について	9/13	一般	来館
9	10/11	名栗地域の古道について	10/18	一般	来館
10	10/16	「竹村街道」について	10/19	一般	Eメール
11	10/19	上直竹の加藤三左衛門について	11/1	一般	電話
12	10/30	蘭幕義徳について	10/30	一般	Eメール
13	1/10	市内にある古いガラス戸について	1/10	一般	来館
14	1/12	「六道」の由来について	1/12	一般	Eメール
15	2/29	活動写真興行師・弁士駒田好洋について	3/1	一般	文書
16	3/9	松井戸増太郎について	3/9	一般	来館

当館の学芸員に対して、他の団体や機関から地域の歴史等に関する講師派遣の依頼があることがある。地域の文化・歴史を調査、研究する機関として、そのような依頼にはできる限り応じるように心がけている。

講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項（53ページ）に掲載してあるため、それ以外のものについて示すと、下記のとおりとなる。

## 平成17年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内 容	対象者	人数	会 場	担当学芸員
1	8/26(金)	9:00~12:00	飯能市教育研究会	飯能の歴史についての講義、館内及び能仁寺の見学	飯能市社会科主任教員	16	当館学習研修室ほか	引間
2	11/26(土)	10:00~11:30	一丁目育成会	「飯能の水力発電について」	一丁目育成会会員保護者と児童	30	当館学習研修室	柳戸

## 平成18年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内 容	対象者	人数	会 場	担当学芸員
1	4/5(金)	15:30~16:40	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「飯能の地理と歴史」	新規採用職員	1	当館学習研修室	柳戸
2	9/12(火)	9:00~12:00	駿河台大学経済学部・市原ゼミ	吾野水力発電所跡の巡検指導	市原ゼミ学生	9	吾野水力発電所跡	柳戸
3	10/7(土)	10:00~12:00	有間溪谷観光釣場管理委員会	エコツアー「有間谷の散策と魚釣り」での名栗水力発電所水路跡の散策と説明	エコツアー参加者	20	有間溪谷観光釣場ほか	柳戸
4	12/6(土)	10:00~11:30	一丁目育成会	「消防の歴史」	一丁目育成会会員保護者と児童	13	当館学習研修室	柳戸

## 平成19年度講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内 容	対象者	人数	会 場	担当学芸員
1	4/5(木)	15:20~16:20	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「飯能の地理と歴史」	新規採用職員	6	当館学習研修室	柳戸
2	6/30(土)	11:00~12:30	駿河台大学	駿河台大学公開講座「彩・ふるさと喜楽学「飯能の電気物語—吾野・名栗の水力発電—」	公開講座受講者	250	駿河台大学第二講義棟	柳戸
3	8/5(日)	15:00~15:30	中藤中郷自治会	生涯学習出前講座「中藤中郷に遺された地域遺産」	中藤中郷自治会会員	28	中藤中郷自治会館	尾崎
4	8/24(金)	9:00~12:00	飯能市教育センター	2年次教員研修会「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学	飯能市内2年次の小中学校教員	10	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸
5	8/28(木)	13:00~15:20	飯能市教育センター	はんのう探検発見研修会「飯能市の歴史」・「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学	飯能市内小中学校教員	18	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸
6	8/30(木)	9:00~12:00	飯能市教育研究会	飯能市教育研究会社会科夏季指導者研修会「古文書から見た地域の歴史」・「古文書の収蔵ならびに保管について」	飯能市社会科主任教員	17	当館学習研修室	尾崎
7	2/14(木)	10:00~11:30	吾野公民館	吾野公民館主催郷土史講座「吾野の水力発電」	郷土史講座受講者	13	吾野公民館学習室	柳戸
8	2/21(木)	10:00~11:30	吾野公民館	吾野公民館主催郷土史講座「西川林業の道具」	郷土史講座受講者	12	吾野公民館学習室	引間

# 収 集

郷土館は「もの」資料やそれに関する情報を通して市民が歴史や郷土のことについて学習するための社会教育機関である。そのためには、「もの」資料を収集し保存することが不可欠である。当館で収集している資料は市民からの寄贈によるものが中心で、そのほかに市役所内他部署から移管された資料や文書類がある。

このように収集した資料は、市民の財産として永遠に保存すべく、台帳に登録して整理し、収蔵庫に保管して管理されていくことになる。

## 寄贈資料

平成17年度

(敬称略)

No.	寄贈資料名	点数	寄贈者名
1	研究レポート「入間馬車鉄道の歴史」	1	西村貞男
2	プライス式流速計	1	飯能市役所環境緑水課
3	神棚	1	柳戸淳吉
4	丸中織物株式会社鳥瞰図・『人事管理研究』	2	中里光男
5	写真アルバム(丸中織物株式会社)	1	中里和夫
6	吾野水力電気金銭出納帳・吾野水力電気株主名簿	4	大野勝男
7	写真「岩根橋」	1	横山健児
8	新聞切り抜き・明治元年官幣大社氷川神社祝祭奉納書	7	大河原平三
9	ガンジキ・ナラ炭	6	村野源一
10	木鉢の内側を削る道具(ツボウチ)	2	村野源一
11	写真「双柳神社」「飯能河原堰」「秀常寺」など	5	関根 清
12	『埼玉俳諧人名辞典』	1	内野勝裕
13	自動車車掌免許証	1	山川富三
14	日本軟式野球連盟飯能支部優勝旗	1	小川元一
15	ノコギリ・木鉢	7	村野源一
16	お囃子のお面	10	森田永雲
17	『前ヶ貫・矢嵐土地区画整理事業竣工記念誌』	1	飯能市役所都市計画課
18	ノコギリ	2	島田文代
19	指紋押捺機	1	飯能市役所市民課
(20)	(欠番)		
21	アイロン	1	岡野安雄
22	皮ムキ	1	岡部貞雄
23	レコード「下名栗の獅子舞」・「川寺の双盤念仏」	4	石川博行
24	筏師用印半てん	1	浅見康夫
25	飯能大橋建設中の写真	2	丸山 清
26	VTR『古里の四季』	1	加藤 勝
27	コテ・はさみ・ナタ・ナワトオン	4	佐野秀雄
28	木挽ノコギリ・皮マルキ鎌	3	浅見善一
29	看板「御旅館鍛冶屋橋」・提灯・提灯箱	2	町田和雄
30	ユブリ・木挽ノコ	2	金子政三
31	『妙見寺社』『飯能戦争～飯能郷土史・飯能市史・毛呂山町史より～』	2	諸井正昭
32	『山の親父のひとりごと 2』	1	中里吉平
33	レコード「飯能よいとこ」	1	西村貞男
(34)	(欠番)		
35	飯能警察署工事写真・飯能警察署改築工事内割金表など	4	佐野敏夫
36	『木漏れ陽』	1	福田喜久江
37	富山芳男作「晩秋 残りの花」、油絵の具パレットなど	33	斉木純子
38	おトギかるた(復刻拡大版)・『「少女の友」とその時代』など	3	アン・ヘリング
39	武州西川材木商同業組合定・木挽ノコギリ・ヨキなど	13	田島仙治
40	飯能町体育協会優勝旗、『奥武蔵駅伝40周年記念誌』使用写真など	44	飯能市役所体育課
41	タカハ・ジングル・ソリ・滑車・刻印・マサカリ・トビ・ノコギリなど	25	高野桂一
42	みやこ染染料・長着・はぎれ(村山大島)	5	石井英子
43	木挽ノコギリ・お茶ふかしせいろ・はさみ(羊毛用)	3	須田富美子

No.	寄贈資料名	点数	寄贈者名
44	ソリ・吸入器・花火玉の型・薬研・ナタ・ノコギリなど	13	朝日昌子
45	古文書	1式	朝日昌子
46	菫生の風景写真プリント	2	森田良久
(47)	(欠番)		
48	長着	2	梶川佳久子
49	羽織	1	須田綾子
50	反物	1	須田りか
51	糸(飯能大島用)・はぎれ(飯能大島)	2	加治いね
52	長着	1	戸口シズ
53	着物アンサンブル	1	細田正夫
54	長着・女兒ほどきもの	2	山岸米子
55	長着・黒紋付嫁入衣装・羽織・ほどきもの	8	森本千枝
56	長着	1	吉田亮一
57	長襦袢	1	嶋田さよ子
58	長着・長襦袢・羽織	3	柏崎義一
59	長着・羽織	2	青木たけ
60	長着・伊達締め	3	山川トキ
61	長着・男児宮参り着・羽織・反物・花嫁衣装など	19	野口和宏
62	名栗水電(株)領収書・日露戦争毛布寄贈通知など	11	岡村茂雄
63	奥武蔵近郊地形大観タイトル・写真パネル・写真ネガ	6	遠藤守雄
64	林業道具・西川林業関係古文書類・額入り写真	135	県森林研究所
(65)	(欠番)		
66	長着・はぎれ	2	築茂孝子
67	長着	4	篠崎初江
68	長着	1	宮沢モト
69	修了式呼出名簿(東吾野第一国民学校)	2	藤井年子
70	長着・はぎれ・伊達締め	3	島崎允子
71	『温泉場逗留中之記』	2	権田恒夫
72	『県史史談』第45号	1	島崎秀雄
73	『小島喜八郎画集』	2	小島喜八郎
74	写真「林業の道具」	1	鴨下栄太郎
75	『ふるさと漫録』・『奥武蔵の民話』・『わたしたちの郷土』	3	平沼久次郎・ツル
76	飯能警察署新築記念写真・飯能木材生産組合定款など	7	佐野敏夫
77	オミキスズ・皮マルキ鎌・マワシ・セン	4	浅見達次郎
78	以書付奉願上候	1	清水裕介
79	教科書等書籍類・古銭	49	中村源一
80	イモアライ	1	吉田一博
81	藤枝太郎英義打刀付落合寿親拵	1	双木利八郎
82	VTR『奥武蔵情報くらぶ』	1	テレビ飯能
83	古写真	3	中央公民館
84	写真広報No.473~565	92	市立図書館
85	『西川の山仕事師・中里吉平氏の記録』	1	中里吉平
86	アイロン	1	加治小学校
87	写真集No.4・広報綴・市議会議員顔写真写真版	3	飯能市役所秘書室
88	絵画「飯能市市街周辺の風景」	10	小島喜八郎

## 平成18年度

(敬称略)

No.	寄贈資料名	点数	寄贈者名
1	長着・長襦袢	2	大場えつ子
2	「借入金證書」明治39年3月15日・「電力節約自己診断票」	2	加藤寛之
3	『武州林業家の迷いと決断』	3	柳内悦宏
4	ナワナイ・ハコセビ・エノベノコ・トチ・尺(定規)など	13	大野久男
5	シルシバンテン・股引・ドンブリ(腹掛)	9	加浦克政
6	『文集 飯一小的思い出』	1	石井岱三
7	見台・袴・袴・本(ぼん)	18	鈴木昭平
8	織物関係帳簿類	12	加藤寛之
9	東雲亭の杯台	1	細田明廣
(10)	(欠番)		
11	テマガリノコ・カワマワシ・ヨキ	4	大久保里美
12	『伊勢参宮道中日記簿』	2	増岡正文
13	鉈	1	大久保義男
14	飯能焼「氷梅文小皿」	1	森田義男
15	絵葉書「飯能の四季」・「飯能の四季Ⅱ」・『画集 奥武蔵』	8	小島喜八郎
16	棺台・蔵台	3	西光寺
17	「西武産院新病棟建設記念空撮」・『定本 岩魚』など	3	石井尊雄
18	『関東震災画報』第一～三輯	3	笠原 正
19	地口絵	6	小島良男
20	ネギリ・手斧・オオナタ・オオトビ・カワマワシ・カワムキガマなど	10	村野源一
(21)	(欠番)		
22	焼印	6	大野哲夫
23	アルバム「飯能大通り・中央通り写真記録」	1	加藤寛之
24	マサキリ・ノコギリ・カワマワシ・ヤ・カナヤ・トチ・カスガイ・刻印など	20	大野通泰
25	「明治7年道中泊中食」ほか史料	50	西野 實
26	写真「水道山の守人」・写真「七五三」	2	伊藤昌枝
27	C D-R「名栗川の写真」	1	原浩一郎
28	石油ランプ(自転車用)・カーバイトランプ(自転車用)	2	宿谷義友
29	『青山白雲』・『長編小説 青山白雲』・『美しい星』(初版本)	3	野口 勲
30	装蹄用具一式・看板「中武愛馬組合」・「練炭を乗せる道具」	3	深澤はな
31	狭山市古文書叢書第23集『伊勢西国みちの記(上)』	3	権田恒夫
32	ササミノ	1	中里吉平
33	戦時中の国威発揚絵葉書	21	田中幸子
34	引札・商店包装紙類・「就学児童保護者会注意事項」など	83	望月一代
35	『駅前通り拡張工事完成記念アルバム』・『飯能 道ものがたり』	3	小川久雄
36	前挽鋸	1	山中昭造

## 平成19年度

(敬称略)

No.	寄贈資料名	点数	寄贈者名
1	『加治の今昔』	1	山崎修二
2	「昭和25年度開拓地経営立毛堆肥家畜共進会審査成績」など	2	下地末次
3	文書類・ガラス原版・木登器・カワマルキ鎌・トチ	8	町田道夫
4	そろばん・すり鉢・みそべら・矢立・茶蒸籠・掛図・線香入れ・煙草入れ	12	法光寺
5	下駄製作用具・斗桶・斗かき棒・枡	3	小見山佑吉
6	レコード「西川音頭」	1	加藤 樹
7	川寺村梶田家文書など	7	安心院哲也
8	標準服・もんぺ	2	浅見友子
9	ペン水彩画	11	小島喜八郎
10	第一小学校昭和12年度卒業記念写真帖	1	白田昭一
11	「昭和13年4月現在飯能材木商組合員名簿」など	3	佐野敏夫
12	盃「登録商標興醸正宗 井上酒造」	2	大野哲夫
13	布目瓦・飯能焼(素焼き)・銅鍋・写真板「先史時代民族遺跡(高麗村)」	4	飯能第一小学校
14	郵便貯金通帳他文書類・ツノカクシ・手ぬぐい・鉢巻「神風」	16	梶田 隆
15	東吾野病院創立30周年記念写真	1	木下成子
16	古文書・台紙付写真など	6	小林正夫



No.	寄贈資料名	点数	寄贈者名
17	「昭和40年11月 第15回奥武蔵駅伝競走大会案内」	1	大野哲夫
18	看板「武州西川材木商同業組合」・「入間薪炭同業組合員」・刷込板	3	田島仙治
19	のぼり・「昭和十四年度飯能町防空業務書」など	4	森口彰徳
20	V T R 「平成19年度おはやしフェスティバル」	1	飯能市郷土芸能保存会
21	『御触書寛保集成』ほか	53	栗原 保
22	保険料領収証・相撲番付・飯能焼壺	50	匿名個人
23	丸中織物工場の寮の写真	26	中里和夫
24	半鐘	1	矢嵐・奥平組
25	ビデオテープ	1	飯能市役所秘書室
26	標準服・もんぺ・長着	3	大沢さだ
27	「国民新聞」明治42年2月23日付	1	石森雅之
28	D V D 「江戸天下祭 神武天皇江戸を歩く」	1	原町自治会
29	太子講関係資料	2	原市場建設業組合
30	林業用具類・森林組合関係文書	20	西川広域森林組合
31	諏訪八幡神社関係文書	3	諏訪八幡神社
32	D V D 「西川林業の昔を伝える”仕事唄”ライブ」など	3	石井英子
33	『記録写真集 沖繩戦』・『官報110年記念特集』	2	倉片 敬
34	古文書類（名栗村史編さん調査史料）	1397	平沼宏之
35	古文書類（名栗村史編さん調査史料）	68	石井恵一
36	古文書類（名栗村史編さん調査史料）	40	吉田彰宏
37	古文書類（名栗村史編さん調査史料）	1	田地幸助
38	テ・茶ぼうき・皮まわし・腰鉈・大鉈・間刈鎌・竹とびなど	11	須田洋一郎
39	古文書類（名栗村史編さん調査史料）	17	石井栄治
40	古文書類（名栗村史編さん調査史料）	1756	槇田む津み
41	古文書類（名栗村史編さん調査史料）	138	島田稔
42	井上太平（井上酒造）関係文書	1	山中雅文
43	加藤甚家文書	80	加藤 甚
44	天皇皇后両陛下下行幸書類	2	鳥村育男
45	西武鉄道の制服(上・下)・腕章「運転士見習」など	22	田中 清
46	古文書類(名栗村史編さん調査史料)	718	加藤 樹
47	『南高麗郷土史の会資料三 苺生関係資料集成』など	3	森田良久

## 購入資料

購入年度	資料名	点数	年代
平成17年度	河原町田中家文書	39点	近世・近代
平成17年度	飯能関係白黒写真6×6判ネガフィルム	665コマ	昭和26～31年
平成18年度	飯能市域撮影航空写真プリント・フィルム	14枚	昭和20年
平成18年度	古文書「武州高麗郡長沢村小前八拾三人より藤右衛門江相掛り候一件口書控」	1点	天保14年

## 整理

当館には市民からの寄贈等によって収集された飯能市の歴史や文化に関する様々な資料や地域に関する情報が集積されている。これらは、特別展や学習会などの館主催の事業に利用されるだけでなく、学校の教材、市のまちづくり計画作成資料、個人や機関の研究活動の資料として利用されている。資料や情報を活用できるように整備するには「整理」作業が不可欠である。この作業を経て、職員が必要な資料や情報を素早く的確に探し当てられるようになり、市民の利用に供することができるからである。

整理作業の流れは資料の性質によって若干違いはあるが、おおよそ以下のとおりである。

### ●資料整理の概要

#### ①民具

民具とは、一般的には人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具であるが、当館の場合、古文書・典籍、古写真、絵画、工芸、考古に属さない資料のすべてがこの範疇で整理されている。

民具が搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、その登録番号が資料番号となる。そして資料名・寄贈者氏名・住所、寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作したときの状況や使用した時期、使い方などの情報、民具そのものもつ大きさや材質などの情報を民具カードに記録する。

なお、収蔵している民具のうち、西川林業に関係する用具について平成15年度から重点的に調査・整理作業をすすめ、448点の資料が平成19年3月16日付で埼玉県有形民俗文化財に指定された。

#### ②古文書・典籍（文献資料）

紙に書かれた資料がこれに該当する。これらのほとんどは昭和49年から昭和62年まで行われた飯能市史編さんの過程で収集されたものである。

そして、平成7年2月より、中性紙封筒・保存箱への詰め替え作業を始めるとともに、再整理作業を開始した。これは、これまで内容により分類され配架されていたものを、群としての史料を重視する立場から、所蔵者別に通し番号をつけて1点1点カードをとり、所蔵者ごとの収蔵に切り替えるというものである。同時に所蔵者の概要を記した古文書所蔵者解題カードを作成し、史料の内容を確認したものについてはコンピュータへの入力をおこなっている。

#### ③古写真

当館で収蔵している写真資料は個人所蔵の写真を複写させていただいたものと、館で所蔵しているもの

の2種類に分けることができる。これらの資料はいずれも、所蔵者（旧所蔵者）を単位に整理をおこない、写真1点ずつ写真カードを作成し、所蔵者などから聞き取りの結果得られた情報を記録している。また、同時にコンピュータへの入力もすすめている。

#### ④絵画

軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、地元作家や郷土に関係のある作家の油彩、デッサンなどの近代絵画を収蔵している。これらについては作家ごとにカード化し、整理を行っている。

#### ⑤工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接客刀剣類を含む日本刀などがある。

#### ⑥考古資料

当館で収蔵している考古資料は、市民から寄贈を受けた飯能焼原窯表採資料や板碑などである。なお、教育委員会生涯学習課による発掘調査で得られた考古資料は、教育委員会山手分室の生涯学習課収蔵庫で保存している。

#### ⑦その他の資料

このほかに、他の博物館、市の機関などが発行した図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している。また、飯能に関係するビデオソフトや記録映像として価値があるもの、さらにはレコードやテープ、CDといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用できるようになっている。

### カード作成もしくは目録登録済資料点数一覧

民具	古文書	古写真	絵画	古美術	工芸	文学	考古	映像	レコード	テープ	図書	合計
4,764	25,061	4,632	421	1	272	26	1,764	192	725	84	12,698	50,640

## ●埼玉県指定有形民俗文化財

### 「飯能の西川材関係用具」

当館が所蔵する西川材関係用具448点が、平成19年3月16日付けで埼玉県から有形民俗文化財に指定された。

当市は、市域の7割以上が山林であり、その歴史や文化、産業などを語るに際して森林を活用した生活を抜きにはできない。特に、当地の林業は「西川林業」と呼ばれ、優良な材木である「西川材」の生産は、地域経済の屋台骨として、飯能の発展を支えてきた。

当館では、社会教育課から引き継いだ民具をベースとして、開館以来、西川林業に関する民具類の収集・整理を積極的に行ってきた。

特に、平成15年度からは、重点的に調査及び整理を実施した。それらを支える人材として新たに林業調査担当の市民学芸員を募集するとともに、従前からの市民学芸員も加わって様々な活動に従事していただいた。勉強会を重ねるなどして研鑽を積み、平成17年度からは本格的な整理作業を開始した。サビ落とし等のクリーニング、カードの整理、法量の計測など地道な作業を担ったのである。当コレクションが、県有形民俗文化財として指定され、広くその価値が認められたことは、市民学芸員をはじめ当館に関わる多くの人々が積み重ねた努力の賜物と言えるだろう。これらの調査・整理の成果は平成19年度に刊行した『収蔵資料目録3 飯能の西川材関係用具』にまとめた。

当コレクションを俯瞰することで、機械化以前の西川林業の姿が浮かび上がってくることと思う。それは当コレクションが体系的に分類・整理されているからである。分類は、植林から製材に至る西川材生産に関する作業工程に沿って9つの大分類と27の中分類に設定されている。その内訳は右表のとおりである。

森林文化都市である飯能市にとって、当コレクションは、いわば「森林文化の遺産」として格別な意味を持つ文化財であろう。また、当館にとっても、地域を支えた生業に関する用具類から成る本格的な民具コレクションを、自前の調査・整理により形作り、指定文化財へと結実させたことは大きな意義があることと言えるだろう。

飯能の西川材関係用具分類一覧表

大分類	中分類	点数
A. 育林用具	(1) 植林用具	5
	(2) 下刈用具	14
	(3) 枝打用具	14
	(4) その他	12
	小計	45
B. 伐採用具	(1) 伐採準備用具	18
	(2) 斧類	20
	(3) 鋸類	50
	(4) クサビ類	15
	(5) その他(定規・刻印)	12
小計	115	
C. 皮剥用具	(1) 杉皮製作用具	27
	(2) 杉皮結束用具	15
	(3) その他皮剥用具	14
小計	56	
D. 搬出用具	(1) トビ類	16
	(2) 搬出補助用具	44
	(3) ソリ	7
	(4) 荷車類	9
	小計	76
E. 流送用具	(1) 筏製作用具	7
	(2) その他	5
小計	12	
F. 製材用具	(1) 木挽用具	28
	(2) 削り用具	15
	(3) 製材補助用具	14
	(4) 名入れ用型	48
小計	105	
G. 衣類	(1) 仕事着	9
	(2) 雨具類	9
	(3) 履物	4
小計	22	
H. 信仰用具	(1) 奉納品	9
	小計	9
I. その他	(1) 看板類	6
	(2) その他	2
	小計	8
合計		448



「飯能の西川材関係用具」の一部

## 修復

### ① 接收刀剣類（通称「赤羽刀」）

終戦後、連合軍占領軍によって接收された刀剣類のうち、廃棄を免れたものが北区赤羽の米第八軍兵器補給廠に集められていた。この中から選別され東京国立博物館に保管されていた5,500本あまりの日本刀のことを接收刀剣類といい、その経緯から通称「赤羽刀」と呼ばれている。このうち旧所蔵者の判明したものと国が保管するものを除いた刀が全国の公立

博物館に無償譲与されることになり、当館でも申請をおこなった結果、平成11年12月14日に10振の譲与を受けた。

譲与された刀はすべて錆身であったので、それを保存し活用するために、平成12年度より研磨をおこない、平成17年度までにすべての刀が研ぎ上がった。これらの刀剣類は平成19年度に開催した「収蔵刀剣展」で広く市民に公開した(21ページ参照)。

### 接收刀剣研磨実績一覧

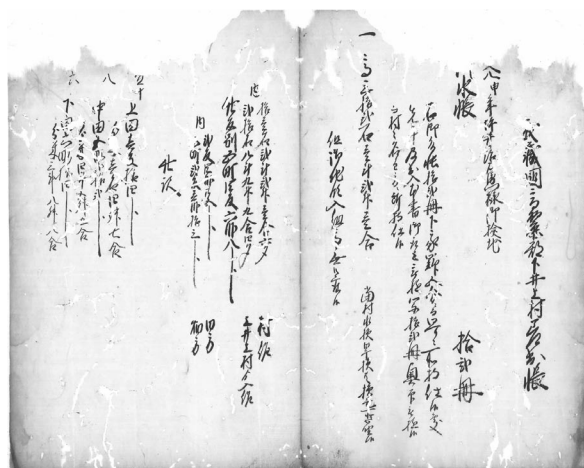
No.	年度	種別	刃長(cm)	反り(cm)	銘
1	12	短刀 (No. 8067)	27.4	0.3	関住兼 [ ]
2	12	脇指 (No. 2949)	51.8	0.9	(菊紋) 出羽守法橋源光平
3	12	脇指 (No. 946)	51.5	0.8	井上和泉守国貞 / (菊紋) 寛文二年月日
4	13	脇指 (No. 1012)	45.8	1.4	河内守藤原国助
5	13	刀 (No. 628)	71.8	1.6	兼景
6	14	脇指 (No. 4126)	58.6	1.4	無銘(切付銘) 一洞佛土壇入
7	14	刀 (No. 2497)	74.8	1.0	相模守(下) 原広重
8	15	刀 (No. 4278)	65.2	1.4	備州長船祐定
9	16	刀 (No. 3714)	71.2	2.0	(無銘)
10	17	刀 (No. 1533)	70.1	2.7	備州長船(祐) 定 / 永禄□年二月日

## ② 「下井上村明細書上帳」(天明5年6月)

この古文書は全9紙からなる冊子で、全体に虫損が著しく、天部分は大きく欠損し、また腐り等により紙同士が固着しており開くことができない状態だった。

古文書の劣化損傷を修復し、劣化を防止して長期保存できるようにするとともに、閲覧に供せるような状態にするため、平成17年度に有限会社東京修復センターに委託し保存措置を講じた。

作業は、こよりを解き1枚ずつ広げた後、虫損・破損箇所をリーフキャスト法により補修し、1枚ずつ本紙を写真撮影し、冊子状に仕立てた。



修復完了後の状況

## ③ 石臼

毎年、小学3年生社会科見学対応で、石臼を使って大豆や米を挽いて粉にする体験学習を行っている。しかし、長期間使用してきたことから目が摩耗して粉が挽きにくくなったため、平成18年度に市内の新井石材店に委託し、目立て等の調整を行った。

# 保 存

## ● 燻蒸

以前は、常設展示室・収蔵庫を対象に、それぞれの空間で3年に1度燻蒸をおこなってきたが、燻蒸に使用する臭化メチルがオゾン層破壊物質に認定され、使用禁止になる方針がうちだされたため、当館でも平成11年度からは燻蒸を実施していなかった。その代替措置として平成15年度からは、新規に収集した資料をビニールシートで覆う被覆燻蒸を実施し、燻蒸後に収蔵庫に保存することとし、毎年実施している。

また、同じく平成15年度からは、収蔵庫や展示室の虫菌類の有無を調べるための環境調査を毎年2回実施し、その存在が確認された場合には、必要な措置を講ずるようにしている。現在までのところ収蔵庫の保存環境は良好な状態で保たれている。



燻蒸ガスの充填作業

郷土に関する歴史や民俗、文化といった事項やその資料の調査・研究は当館の重要な業務である。特別展などの展示や学習会、レファレンスの対応、資料の貸出利用などは、調査、研究があってはじめて可能となるからである。しかし、現状では学芸員が調査・研究に割ける時間は十分とは言えず、毎年の特別展開催のための資料調査が主要な調査となっている。そのほか、平成17年度から19年度は古文書詳細調査、林業の道具調査を実施した。

## 特別展に関する調査

毎年秋に開催される特別展は、当館が最も力を入れている事業である。特別展開催のためにはそのテーマに関する市内外の資料の確認調査、聞き取り調査、文献調査などが不可欠であり、学芸員はこのために多くの時間を費やす。特別展図録はこの調査成果の集大成とも言えるが、ここに掲載されていないものも含め、すべての調査成果について、別にカード等をつくり、整理している。これは調査成果を今後の研究や利用に生かすためである。こうして、特別展開催ごとに地域に関する情報が蓄積されている。

平成17年度は特別展「飯能の水力発電」に関する調査を実施した。現地に残る水力発電遺構の踏査、測量調査をはじめとして、郷土館等で收藏している資料の調査、国会図書館、国立公文書館等での関連資料の調査などである。



吾野発電所跡の調査

平成18年度は特別展を開催しておらず、平成19年度に開催した特別展「西川林業の道具」は「飯能の西川材関係用具」の資料整理・調査での成果をもとに構成した。

## 古文書詳細調査

本市では、地域史料を対象とした調査としては、昭和49年に開始され昭和62年に終了した飯能市史編さん事業がある。しかしこの時の調査は悉皆調査ではないため、まだまだ地域には古文書や写真、典籍などの未見の史料が存在すると考えられた。そこで飯能市教育委員会では、それらを把握するため平成16年度より古文書所在確認調査を実施してきている。その結果、新たな史料群の存在が明らかとなってきたが、同時にこれをきっかけとして当館に史料を寄贈したり、寄託することを希望する家も多くなってきている。

当館としては、史料はあくまで現地で保存されることが望ましいと考えているものの、いろいろな事情からこのままでは散逸する可能性も捨てきれない場合はそれを受け入れることとしている。そのため、近年收藏するに至った史料群の数は増加しつつあるが、その分整理作業は滞りがちとなっている。

また、当館には飯能市史編さん事業終了後移管された文書、平成2年の開館後収集した文書を收藏しているが、これまでは展示会に関係するものを除けば、これらを対象とした調査を行い史料集を刊行するなど收藏資料の価値を高める活動はほとんど行うことができていない。

しかし一方でこれら地域の遺産は、本市において市民主体で積極的に取り組んでいるエコツーリズム事業において活用することが可能なものであり、少しでも早く市民が利用できたり、調査成果を還元できるようにすることが求められている。

こうした課題に向け、当館では平成19年度より当館で收藏している古文書を対象として、史料の翻刻や内容の調査を行っていくこととした。最初の年は、翌平成20年度に目録を刊行する予定の、矢風村中村正夫家文書の一部の史料の翻刻を行った。

## 林業の道具調査

当館で収蔵している民具のうち、平成15年度からは西川林業に関する資料の整理を積極的にすすめ、これらの資料が平成19年3月に「飯能の西川材関係用具」として埼玉県から有形民俗文化財に指定された（73ページ参照）。

これらの資料の整理は市民学芸員とともに実施したが、同時に聞き取り調査等もすすめた。



市民学芸員による調査風景

## 研究紀要の刊行

平成12年3月、当館が博物館法に基づく登録博物館になった際に、博物館の機能の充実を図るための一つとして研究紀要の刊行を計画し、平成12年度に第1号を刊行した。その後、原則として隔年で刊行しており、平成19年度には第4号を刊行した。

研究紀要は地域の歴史・民俗・考古に関する調査・研究の成果等をまとめたもので、執筆は当館学芸員だけでなく、教育委員会生涯学習課文化財担当職員や当館の収蔵資料の調査を行っている研究者などにも広く依頼している。

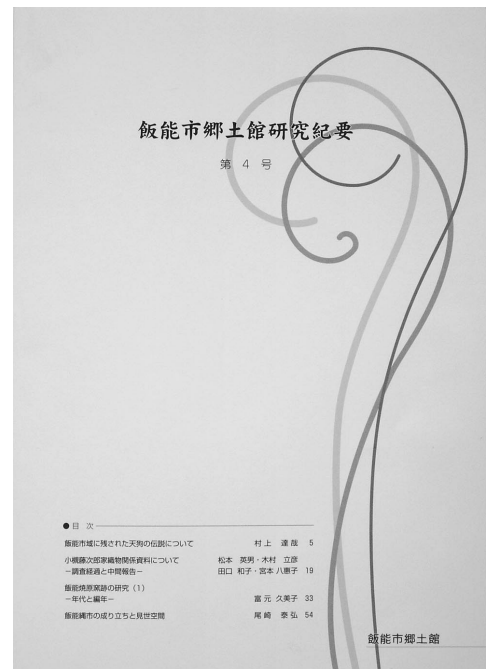
第4号の内容は次のとおりである。

### 飯能市郷土館研究紀要 第4号

発行日 平成20年3月31日

#### 内容

- 飯能市に残された天狗の伝説について  
村上達哉（当館学芸員）
- 小槻藤次郎家織物関係資料について  
—調査経過と中間報告—  
松本英男・木村立彦・  
田口和子・宮本八恵子
- 飯能焼原窯跡の研究（1）—年代と編年—  
富元久美子（飯能市教育委員会生涯学習課嘱託）
- 飯能縄市の成り立ちと見世空間  
尾崎泰弘（当館学芸員）



研究紀要第4号表紙

## 刊行図書（平成17年度～19年度）

### 平成17年度

- 特別展図録「飯能の水力発電—吾野・名栗に電気がひけた日—」 A4判46ページ（平成17年10月9日発行）  
 飯能市郷土館館報「郷土館のプロフィール」第4号 A4判90ページ（平成18年3月31日発行）

### 平成18年度

- 飯能市郷土館収蔵資料目録3「埼玉県指定有形民俗文化財 飯能の西川材関係用具」  
 A4判152ページ（平成19年3月31日発行）

### 平成19年度

- 特別展図録「西川林業の道具—森林文化の遺産—」 A4判46ページ（平成19年10月13日発行）  
 飯能市郷土館研究紀要第4号 A4判68ページ（平成20年3月31日発行）

（※名栗村史編さん関係刊行物は81ページ参照）

## 郷土館だより

「郷土館だより」は、郷土館の事業を知っていただくための広報誌で平成13年5月1日に創刊号を発行した。その後、年4回発行を目標とし、都合により回数が減った年もあるが、季節ごとに発行できるようにしている。全戸配布は、費用の点で無理のため、各戸回覧で見えていただくことにしており、配布にあたっては、自治会・町内会の皆様にご理解とご協力をいただいている。

### 「郷土館だより」発行経過

号数	発行日	内容
第14号（初夏号）	平成17年5月15日	早やどり農作業夏のようなす／収蔵品展2005開催中／名栗村史編さん調査協力員募集／記録に残す（定点撮影プロジェクト）／初夏の風物 燕／エコツーリズム事業紹介／ある日の窓口／平成16年度にご寄贈いただいた資料概要／郷土館の資料収集
第15号（秋号）	平成17年10月1日	民俗 秋の行事／特別展「飯能の水力発電」のご案内／林業調査／定点撮影プロジェクト写真展「名栗を撮る」終わる／飯能文芸の黎明期
第16号（冬号）	平成17年12月15日	民俗 お正月／平成17年度事業経過／季節のメモ／特別展「飯能の水力発電」終わる／林業調査とは／進行中です 林業調査
第17号（春号）	平成18年3月15日	民俗 ひなまつり・五月節句／平成17年度事業経過／平成18年にかけての事業経過／年度収蔵品展のご案内／コーナー展示／林業調査とは／電気学会研究会で発表／小学3年生社会科学習のようす
第18号（初夏号）	平成18年6月15日	これからの主な事業予定／館報「郷土館のプロフィール」第4号ができました／定点撮影プロジェクト写真展「続身辺奥武蔵写真風土記」のご案内／林業道具収集にご協力をお願いします／小中学校への出張授業／郷土館職員紹介／平成17年度にご寄贈いただいた資料
第19号（秋号）	平成18年10月1日	これからの主な事業予定／新刊案内／収蔵品展「郷土館は玉手箱」のご案内／やさしい古文書講座V参加者募集中／夏休み中の児童・生徒の活動と成果
第20号（冬号）	平成18年12月15日	これからの主な事業予定／新刊案内／「むかしのくらし民家の台所再現」のご案内／蘭玉づくり／中学生社会体験チャレンジ／小学3年生の社会科学見学
第21号（新緑号）	平成19年5月15日	これからの主な事業予定／飯能の西川材関係用具が埼玉県指定有形民俗文化財になりました／収蔵刀剣展のご案内／「マイ・コレ。」のご案内／ホームページを全面的に更新しました／入館者50万人達成記念式典
第22号（初秋号）	平成19年10月1日	これからの主な事業予定／新刊案内／特別展「西川林業の道具」のご案内／歴史講座「西川林業の歴史と民俗」のご案内／夏休み中の児童・生徒の活動と研究成果
第23号（冬号）	平成19年12月15日	今後の主な事業予定／新刊案内／「むかしのくらし民家の台所再現」のご案内／第2回「マイ・コレ。」のご案内／多数のご来観ありがとうございました／郷土館友の会事業／市民学芸員の活動



# ホームページ

インターネットの普及に伴い、情報提供の手段としてホームページの有効性が増してきた。当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始した。この際のホームページは交通案内、展示・催し物の開催の案内、刊行物の案内等を掲載した簡単なものであり、情報の更新については担当課に依頼して行う形であったため、どうしても遅れがちとなり不十分だった。

このため、ホームページをより有効に活用できるように内容を検討し、当館で更新できる体制を整え、平成19年4月8日から全面更新した。全面更新したホームページの内容や考え方は次のとおりである。

## 1. 基本的な考え方

ホームページ更新に際しては次の4点に留意した。

- ①郷土館に関する案内を充実させる。
- ②地域情報や歴史情報を掲載し、一般の人が調べられるホームページとする。
- ③飯能市のホームページの範囲内で構成する。
- ④更新しやすいようなページ構成にする。

## 2. ページ内容

○トップページ…メニュー、新着情報を掲載。

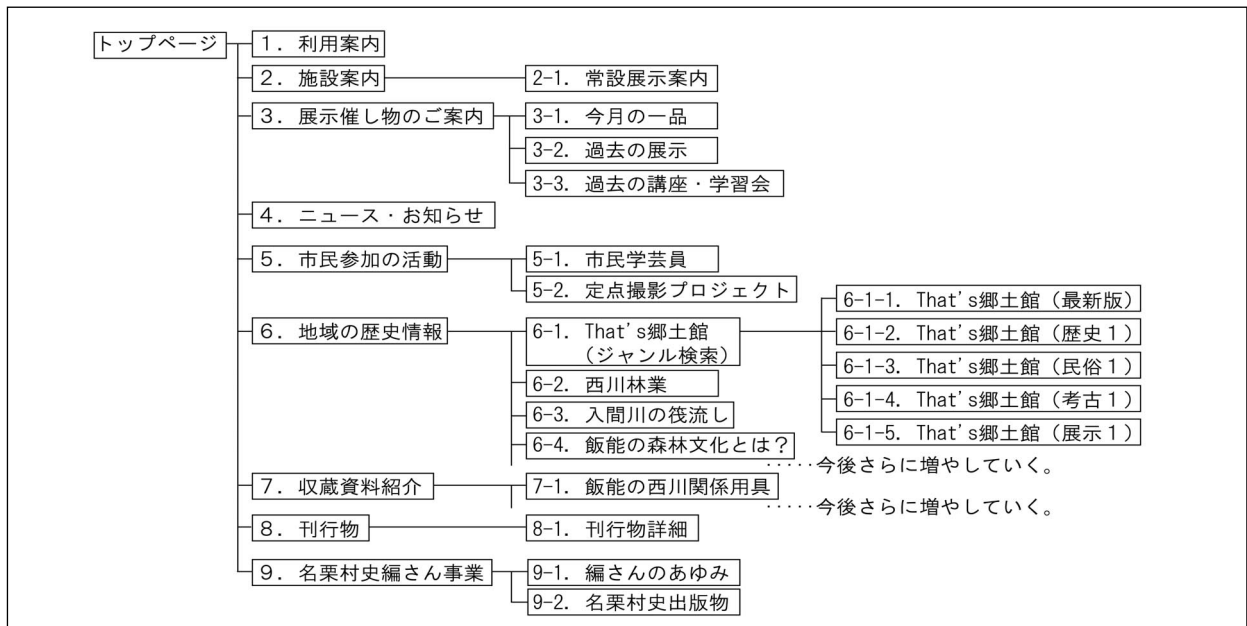
- ①利用案内…所在地、開館時間・休館日、アクセス、問い合わせ、資料閲覧等を掲載。
- ②施設案内…館内のご案内、常設展示のご案内、施設面積表、郷土館の沿革を掲載。
- ③展示・催し物案内…行事予定表、今月の一品、展示・学習会のお知らせ、過去の展示、過去の講座・学習会を掲載。
- ④ニュース・お知らせ…ニュースやお知らせを掲載。
- ⑤市民参加の活動…市民学芸員と定点撮影プロジェクトを紹介。
- ⑥地域の歴史情報…飯能市の歴史、民俗に関する情報を掲載。テレビ飯能の番組表に毎月連載している「That's 郷土館」の記事についてジャンル別に掲載。
- ⑦収蔵資料紹介…収蔵資料を種類毎に紹介。
- ⑧刊行物…郷土館刊行物、飯能市史、名栗村出版物を紹介。
- ⑨名栗村史編さん事業…編さんのあゆみ、名栗村史出版物を掲載。

郷土館ホームページアクセス件数

月	平成18年度	平成19年度
4月	225	683
5月	142	477
6月	255	612
7月	189	493
8月	337	559
9月	225	428
10月	248	498
11月	220	369
12月	233	285
1月	346	386
2月	355	461
3月	513	687
合計	3,288	5,938
1ヶ月平均	274.0	494.8

(平成17年度はデータ無し)

## ●ホームページ構成図



<http://www.city.hanno.saitama.jp/kyodo/>

# 名栗村史編さん事業

平成17年1月1日、飯能市は名栗村と合併した。

合併前に名栗村では、平成10年度から「名栗村史資料調査員」を委嘱して、村内の歴史資料の収集・整理、調査研究を始め、平成11年度からは名栗村史研究「那栗郷」、名栗村史料目録を刊行した。平成14年度に村史編さん委員会を設置、平成15年4月1日には村史編さん室を開設し、平成16年11月には編さん事業の成果として『名栗の民俗』（上巻）が名栗村教育委員会から刊行された。

飯能市と名栗村の合併に伴い、村史編さん事業は新飯能市が継承し、新たに飯能市名栗村史編さん委員会を設置して、郷土館がその事業を所掌することとなった。当初、事業は平成19年度に完了の予定ですすめていたが、『名栗の歴史』（下巻）の刊行ができず、翌年度まで事業を繰り越すこととなった。

## 組 織

編さん事業は次の組織により実施している。

- (1) 編さん委員 5人  
村史編さん及び刊行に関すること等、重要事項の審議にあたる。
- (2) 編集委員 4人  
名栗村史に関する調査研究、執筆及び編集にあたる。
- (3) 専門調査員 7人  
編集委員の要請に応じて、名栗村史に関する資料の収集、調査、研究、及び執筆にあたる。

(4) 調査協力員 6人

編集委員または専門調査員の要請に応じて、名栗村史に関する資料の収集、調査及び研究の協力にあたる。

編集委員及び専門調査員は担当分野ごとに①古代・中世史部会、②近世史部会、③近・現代史部会、④民俗部会の4つの部会に分かれ、資料の収集、調査、研究及び執筆にあっている。

また、編さん事務室に3人の臨時職員を配置し資料の整理等を行う。事務局は飯能市郷土館が所掌する。

委員名簿（平成20年3月31日現在）

### 名栗村史編さん委員

職名	氏名	所属等
委員長	有馬 壽雄	学識経験者
委員	町田 耕三	学識経験者
委員	島田 稔	文化財保護審議委員会委員
委員	加藤 衛拡	筑波大学
委員	浅見 徳男	文化財保護審議委員会委員

### 名栗村史編集委員

職名	氏名	部会	所属等
委員長	加藤 衛拡	近・現代史	筑波大学
委員	諸岡 勝	古代・中世史	埼玉県立文書館
委員	丸山 美季	近世史	学習院大学史料館
委員	大館 勝治	民俗	さいたま民俗文化財研究所

### 名栗村史専門調査員

氏名	部会	所属等
宮瀧 交二	古代・中世史	大東文化大学
野尻 泰弘	近世史	学習院大学史料館
安藤 耕己	近・現代史	吉備国際大学
加藤 衛拡	近・現代史	筑波大学
犬飼 大	近・現代史	
井上 かおり	近・現代史	埼玉県立歴史と民俗の博物館
丸山 美季	近世史	学習院大学史料館

### 名栗村史調査協力員

氏名
町田 廣作
岡部 敏
萩野 武男
石井 健一
町田 要一
島田 稔

## 事業経過

### 平成17年度

編さん委員会を4月9日と3月19日の2回開催し、編さん体制、事業経過、事業計画等について審議した。編集委員および専門調査員は部会ごとに資料調査および村史研究、史料目録等の執筆を行った。なお、民俗調査についてはさいたま民俗文化研究所に委託して実施した。

調査協力員は1月27日に委嘱状を交付し、その後原則として月に1回情報交換会を開催した。

調査及び史料整理の成果として名栗村史料目録第7集・第8集と名栗村史研究『那栗郷』5号を刊行した。

### 平成18年度

編さん委員会を10月28日と3月10日の2回開催し、事業経過、事業計画等について審議した。編集委員および専門調査員は、本編の原稿執筆と調整をすすめ、また、村史研究、史料目録等の調査・執筆を行った。

民俗調査については前年度に引き続き、さいたま民俗文化研究所に委託して実施した。

調査及び史料整理の成果として名栗村史料目録第9集と名栗村史研究『那栗郷』6号を刊行した。

### 平成19年度

当初は、平成19年度に本編である『名栗の民俗』下巻、『名栗の歴史』上・下巻を刊行して事業完了の予定だった。このため、当年度は、これら本編の執筆及び編集が事業の中心となった。この結果『名栗の民俗』下巻と『名栗の歴史』上巻を刊行することができたが、『名栗の歴史』下巻については年度内刊行の見通しが立たず、12月15日に開催された編さん委員会で次年度へ繰り越すこととした。

上記の本編2冊を刊行したほか、名栗村史料目録第10集を刊行した。

## 刊行物

### 平成17年度

名栗村史料目録第7集『名栗村関係埼玉県行政文書』

(B 5判130ページ) 平成17年11月30日発行

名栗村史料目録第8集『豊住三芳家(5区)文書』

(B 5判114ページ) 平成18年3月31日発行

名栗村史研究『那栗郷』5 名栗の中世石塔

(B 5判132ページ) 平成18年3月31日発行

### 平成18年度

名栗村史料目録第9集『加藤衛拡家(5区)・榎田む津み家(12区)文書』

(B 5判172ページ) 平成19年3月31日発行

名栗村史研究『那栗郷』6 名栗の近代史料

(B 5判220ページ) 平成19年3月31日発行

### 平成19年度

『名栗の民俗』(下)

(A 5判464ページ) 平成20年3月31日発行

『名栗の歴史』(上)

(A 5判462ページ) 平成20年3月31日発行

名栗村史料目録第10集『上名栗地区諸家文書』

(B 5判162ページ) 平成20年3月31日発行

## 飯能市名栗村史編さん委員会条例

平成16年12月24日 条例第51号

(設置)

第1条 編入の日前の名栗村の村史(以下「村史」という。)の編さん事業を行うため、飯能市名栗村史編さん委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、村史の編さん及び刊行に関する事項について調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験者のうちから教育委員会が任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長と

なる。

2 委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、飯能市郷土館において処理する。

(委任)

第8条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成17年1月1日から施行する。

## 飯能市名栗村史編集に関する規則

平成16年12月28日 教委規則第16号

(趣旨)

第1条 この規則は、名栗村史編集について必要な事項を定めるものとする。

(名栗村史編集委員等)

第2条 名栗村史を編集するため、名栗村史編集委員(以下「編集委員」という。)を置く。

2 必要に応じ、名栗村史専門調査員(以下「専門調査員」という。)及び名栗村史調査協力員(以下「調査協力員」という。)を置くことができる。

(任務)

第3条 編集委員、専門調査員及び調査協力員(以下「編集委員等」という。)の任務は、次のとおりとする。

(1) 編集委員は、担当分野の調査研究、執筆及び編集に当たる。

(2) 専門調査員は、専門的事項について編集委員に協力する。

(3) 調査協力員は、調査について編集委員及び専門調査員に協力する。

(委嘱)

第4条 編集委員等は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が委嘱する。

(任期)

第5条 編集委員の任期は、名栗村史編さん事業が完了した時をもって終了する。

2 専門調査員及び調査協力員の任期は、その専門的事項の調査が完了した時をもって終了する。

3 教育委員会は、特別な理由があると認められた場合は、編集委員、専門調査員及び調査協力員を解嘱することができる。

(編集委員長)

第6条 編集委員の互選により、編集委員長1人を定める。

2 編集委員長は、編集事務を統括し、編集会議の議長となる。編集委員長に事故があるときは、あらかじめ編集委員長が指名する編集委員が、その職務を代理する。

(編集会議)

第7条 編集会議は、編集委員長の要請により、教育長が招集する。

2 専門調査員及び調査協力員は、編集委員長の要請により編集会議に出席し、発言することができる。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この規則は、平成17年1月1日から施行する。

郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため郷土館協議会がおかれている（飯能市郷土館条例第10条）。協議会は市議会議員、学校教育の関係者、社会教育の関係者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期:平成16年7月1日～平成18年6月30日

## 【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	大野 邦弘	郷土館友の会会長	
副会長	村野みどり	おはなしの会代表	
委員	嶋田 順一	市議会議員	平成17年5月4日退任
委員	小見山 進	市議会議員	平成17年6月3日就任
委員	細野 一郎	富士見小学校校長	平成17年3月31日退任
委員	中村恵太郎	双柳小学校校長	平成17年4月1日就任
委員	加藤 親夫	飯能西中学校校長	平成17年3月31日退任
委員	杉田 正行	南高麗中学校校長	平成17年4月1日就任
委員	坂口 和子	飯能郷土史研究会会長	
委員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委員	田島 哲也	林業家	
委員	滝 錬太郎	彫刻家	
委員	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	

## 【開催状況】

### ●平成17年度

第1回 平成17年5月25日(水)午後2時～  
(議事)

- ・平成16年度事業報告について
- ・平成17年度事業計画について
- ・平成17年度収藏品展について

第2回 平成17年10月19日(水)午後2時～  
(議事)

- ・秋の特別展「飯能の水力発電」について
- ・平成17年度事業経過について
- ・平成18年度事業予定について

第3回 平成18年2月16日(木)午後2時～  
(議事)

- ・平成17年度事業経過について
- ・平成18年度事業予定について
- ・名栗村史編さん事業について

### ●平成18年度

第1回 平成18年5月30日(金)午後2時～  
(議事)

- ・平成17年度事業報告について
- ・平成18年度事業計画について
- ・年度収藏品展について
- ・美術品の収蔵について

任期:平成18年7月1日～平成20年6月30日

### 【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	大野 邦弘	郷土館友の会会長	
副会長	村野みどり	おはなしの会代表	
委員	小見山 進	市議会議員	
委員	中村恵太郎	双柳小学校校長	
委員	杉田 正行	南高麗中学校校長	平成19年3月31日退任
委員	黒澤 秀美	吾野中学校校長	平成19年4月1日就任
委員	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
委員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委員	田島 哲也	林業家	
委員	波多野宏之	駿河台大学教授	
委員	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	

### 【開催状況】

#### ● 平成18年度

第2回 平成18年7月21日(金)午後2時～

(議事)

- ・郷土館の現状について
- ・平成18年度事業の経過と今後の予定について

第3回 平成18年11月10日(金)午後2時～

(議事)

- ・収蔵品展について
- ・平成18年度事業経過について
- ・平成19年度事業予定について

第4回 平成19年2月23日(金)午後1時30分～

(議事)

- ・民家の台所再現、小学3年生見学対応について
- ・平成18年度事業経過について
- ・平成19年度事業予定について
- ・マイ・コレクション展について
- ・資料購入について

#### ● 平成19年度

第1回 平成19年6月1日(金)午後2時～

(議事)

- ・平成18年度事業報告について
- ・平成19年度事業予定について

第2回 平成19年11月9日(金)午後2時～

(議事)

- ・平成19年度事業経過について
- ・特別展「西川林業の道具」について
- ・平成20年度事業計画について

第3回 平成20年2月15日(木)午後2時～

(議事)

- ・民家の台所再現、小学3年生見学対応について
- ・平成19年度事業経過について
- ・平成20年度事業予定について

# 博物館実習

当館では、市民サービスの一環として大学の学芸員養成課程の博物館実習を受け入れている。  
原則として、市民とみなされる世帯に属する子弟で博物館学の単位を修得した学生がその対象となる。

## 平成17年度

実施期間 平成17年7月27日(水)～8月6日(土) 10日間  
実習生名 町田佳奈子(帝京大学)、須藤未央(立教大学)、浅野佳則(東洋大学)

回	実施日	曜日	午前	午後
1	7月27日	水	夏休み親子歴史教室運営(島崎)	夏休み親子歴史教室準備(島崎)
2	7月28日	木	夏休み親子歴史教室運営(島崎)	
3	7月29日	金	博物館の現状と課題(久下)	郷土館の施設について(引間)
4	7月30日	土	水力発電所模型製作(柳戸)	
5	7月31日	日	林業の道具調査1(引間)	
6	8月2日	火	絵画の梱包(引間)	
7	8月3日	水	民具及び収蔵庫整理(引間)	
8	8月4日	木	文化財の梱包(引間)	行政文書の整理(柳戸)
9	8月5日	金	考古資料の整理(生涯学習課文化財担当)	
10	8月6日	土	林業の道具調査2(引間)	実習のまとめ(久下)

( )は指導者名

## 平成18年度

実施期間 平成18年8月1日(火)～8月13日(日) 11日間  
実習生名 大野桂子(昭和女子大学)、梶田恭平(帝京大学)、村田良樹(駿河台大学)  
浅見友介(駿河台大学)、茂木美紗子(東京女子大学)

回	実施日	曜日	午前	午後
1	8月1日	火	オリエンテーション(柳戸・尾崎)	施設について(尾崎)
2	8月2日	水	有形民俗資料(山村道具)の調査(引間)	
3	8月3日	木	有形民俗資料(山村道具)の調査(引間)	
4	8月4日	金	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)	
5	8月5日	土	特別収蔵庫の整理(尾崎)	
6	8月6日	日	写真資料の整理(柳戸)	
7	8月8日	火	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)	
	(8月9日)	(水)	(台風10号の接近により中止)	
8	8月10日	木	夏休み子ども歴史教室運営(尾崎)	
9	8月11日	金	夏休み子ども歴史教室運営(尾崎)	夏休み子ども歴史教室反省会(尾崎)
10	8月12日	土	特別収蔵庫の整理(尾崎)	
11	8月13日	日	実習のまとめ(尾崎)	

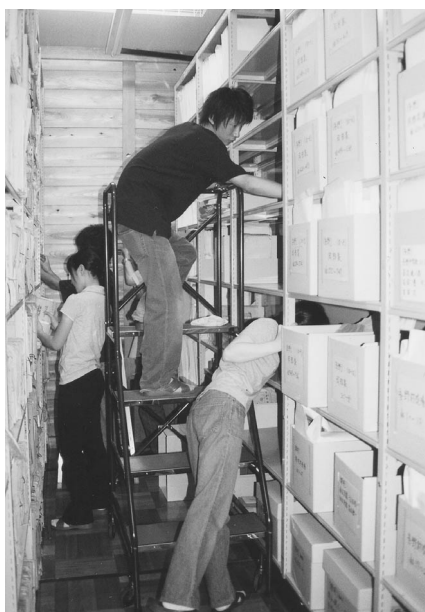
( )は指導者名

## 平成19年度

実施期間 平成19年7月31日(火)～8月12日(日) 12日間  
 実習生名 新山等(八洲学園大学)、豊田展子(日本女子大学)、町田俊久(駿河台大学)  
 豊田友也(目白大学)

回	実施日	曜日	午前	午後
1	7月31日	火	オリエンテーション(加藤・尾崎)	施設について(尾崎)
2	8月1日	水	特別収蔵庫の整理(尾崎)	
3	8月2日	木	定点撮影プロジェクト写真展子ども向け解説作成(柳戸)	
4	8月3日	金	定点撮影プロジェクト写真展子ども向け解説作成(柳戸)	
5	8月4日	土	地域情報の収集・整理(尾崎)	
6	8月5日	日	行政文書の整理(柳戸)	
7	8月7日	火	夏休み子ども歴史教室準備(村上)	
8	8月8日	水	夏休み子ども歴史教室準備(村上)	
9	8月9日	木	夏休み子ども歴史教室運営(村上)	夏休み子ども歴史教室反省(村上)
10	8月10日	金	夏休み子ども歴史教室運営(村上)	
11	8月11日	土	郷土館の運営について(柳戸)	写真資料の整理(柳戸)
12	8月12日	日	夏休み子ども歴史教室反省(村上)	実習のまとめ(尾崎)

( )は指導者名

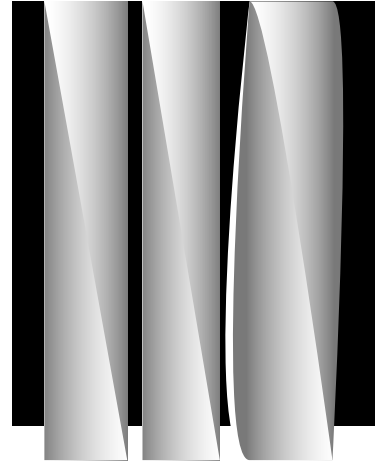


実習風景(特別収蔵庫の整理)



実習風景(夏休み子ども歴史教室準備)

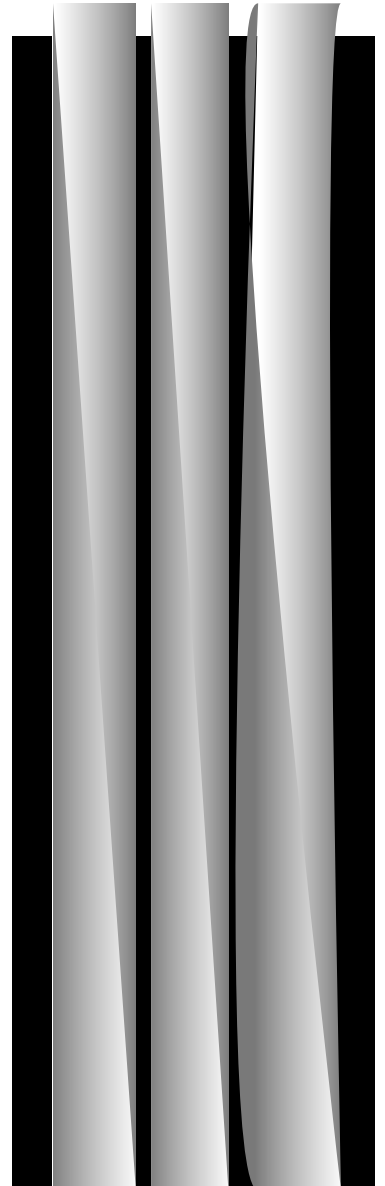




## 第 3 章

…… Chapter 3 ……

# 【各種データ】



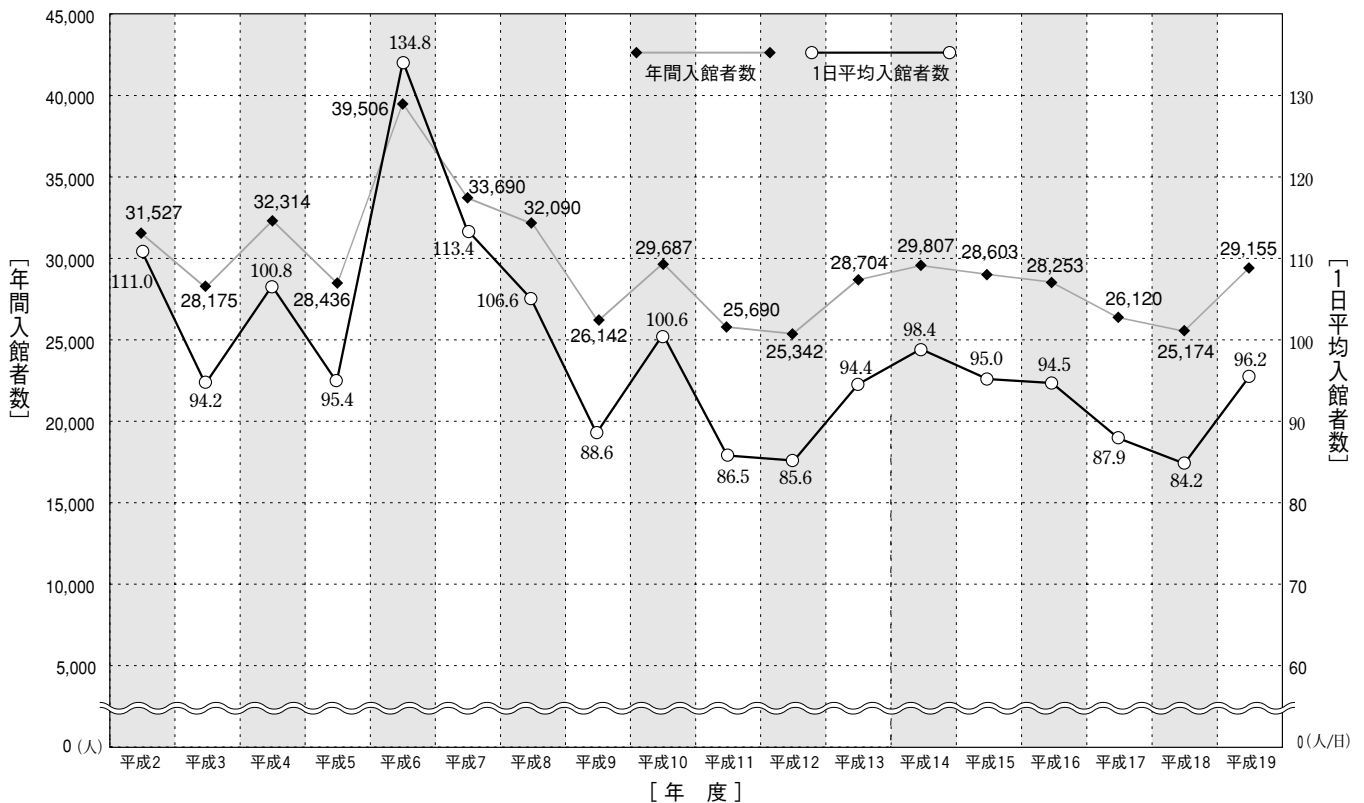
# 入館者数

月	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均
4	25	2,553	102.1	26	2,168	83.4	26	2,525	97.1
5	25	2,102	84.1	25	2,052	82.1	26	2,388	91.8
6	25	2,116	84.6	23	1,698	73.8	23	2,211	96.1
7	27	2,229	82.6	26	1,901	73.1	26	1,834	70.5
8	26	2,134	82.1	27	2,079	77.0	27	2,308	85.5
9	25	2,033	81.3	26	2,210	85.0	26	2,034	78.2
10	26	2,228	85.7	26	2,227	85.7	26	2,458	94.5
11	25	2,716	108.6	24	2,141	89.2	26	3,051	117.3
12	20	1,388	69.4	23	1,436	62.4	23	1,929	83.9
1	23	2,083	90.6	23	2,280	99.1	23	2,470	107.4
2	24	2,348	97.8	24	2,424	101.0	25	2,470	98.8
3	26	2,190	84.2	26	2,558	98.4	26	3,477	133.7
合計	297	26,120	87.9	299	25,174	84.2	303	29,155	96.2

開館(平成2年度)から平成19年度末までの

総入館者数	528,415	人
開館日数	5,358	日
1年平均入館者数	29,356.4	人/年
1日平均入館者数	98.6	人/日

## 〈入館者数の推移〉



# 歳出予算

(単位：明記したものの以外は千円)

事業名 年度	郷土館 事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・ 保存事業	調査・ 研究事業	郷土館 施設管理事業	郷土館事業費 小計	名栗村史 編さん事業費	郷土館費 合計	A (%)	B (円)	C (円)
17	2,216	5,306	3,583	426	8,314	19,845	7,645	27,490	0.09%	234.4円	759.8円
	11.2%	26.7%	18.1%	2.1%	41.9%						
18	1,678	1,427	4,579	254	7,899	15,837	7,968	23,805	0.07%	188.0円	629.1円
	10.6%	9.0%	28.9%	1.6%	49.9%						
19	1,655	3,672	2,618	576	7,633	16,154	17,424	33,578	0.07%	192.7円	554.1円
	10.2%	22.7%	16.2%	3.6%	47.3%						

郷土館事業費（人件費・名栗村史編さん事業費除く）の

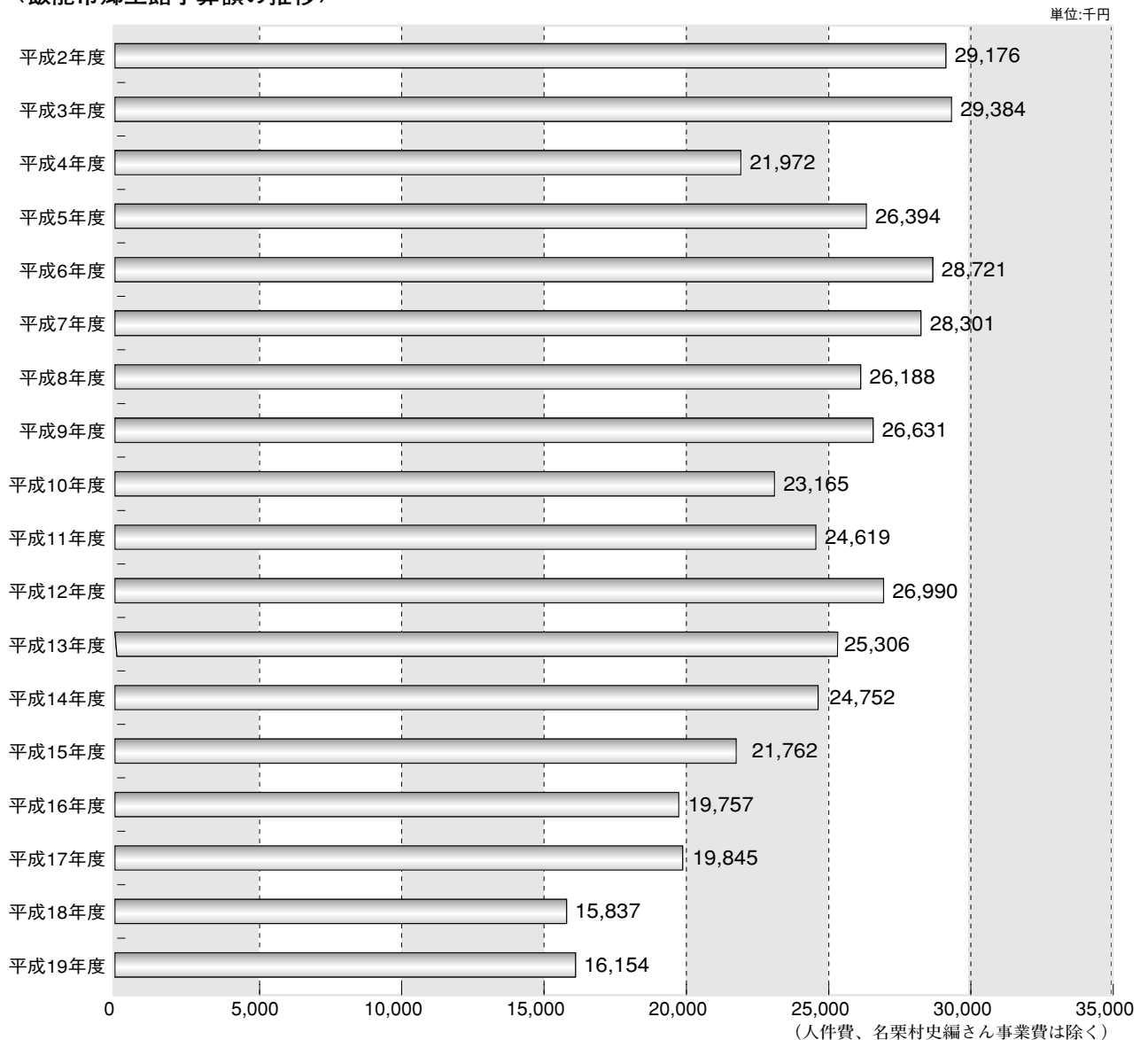
(当初予算。ただし人件費は除く)

A：飯能市一般会計当初予算に対する比率

B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額

C：入館者1人あたりの金額

## 〈飯能市郷土館予算額の推移〉



## 図書資料寄贈機関(平成17年度～19年度)

### 埼玉県

上尾市遺跡調査会	鴻巣市史編さん調査会
上尾市教育委員会	国税庁税務大学校租税資料館
朝霞市博物館	児玉町
跡見学園女子大学花蹊記念資料館	埼玉新聞社
伊奈町	さいたま文学館
伊奈町教育委員会	埼玉県
入間市教育委員会	埼玉県立さいたま川の博物館
入間市博物館	埼玉県教育委員会
入間地区社会教育協議会	(財)埼玉県教育公務員弘済会
岩槻市遺跡調査会	埼玉県郷土文化会
岩槻市教育委員会	埼玉県立さきたま資料館
浦和くらしの博物館民家園	埼玉県立さきたま史跡の博物館
大井町遺跡調査会	埼玉県立自然史博物館
大井町教育委員会	埼玉県立自然と川の博物館
大里町歴史研究会	埼玉県自治研究会
小川町	埼玉県立博物館
小川町教育委員会	埼玉県文化財保護協会
桶川市教育委員会	埼玉県平和資料館
春日部市遺跡調査会	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
春日部市教育委員会	埼玉県立埋蔵文化財センター
春日部市郷土資料館	埼玉県立民俗文化センター
神泉村教育委員会	埼玉県立文書館
上福岡市教育委員会	埼玉県立歴史資料館
川口市遺跡調査会	埼玉県立歴史と民俗の博物館
川口市立科学館	さいたま市
川口市教育委員会	さいたま市立浦和博物館
川越市遺跡調査会	さいたま市立博物館
川越市教育委員会	彩の国環境地図作品展実行委員会
川越市立中央図書館	彩の国生涯学習まちづくり市町村協議会
川越市立博物館	坂戸市教育委員会
川越市立美術館	幸手市教育委員会
川里町教育委員会	(財)サトエ記念館
川島町	狭山市遺跡調査会
騎西町教育委員会	学校法人 自由の森学園
北本市教育委員会	菖蒲町教育委員会
行田市	庄和町遺跡調査会
行田市教育委員会	庄和町教育委員会
行田市郷土博物館	杉戸町
熊谷市教育委員会	杉戸町教育委員会
熊谷市立図書館	駿河台大学
江南町	駿河台大学経済研究所
江南町教育委員会	駿河台大学資格課程
鴻巣市	西武バス(株)
鴻巣市遺跡調査会	玉川村教育委員会
	鶴ヶ島市遺跡調査会

ときがわ町教育委員会  
所沢市教育委員会  
所沢航空資料調査収集する会  
所沢古文書に親しむ会  
戸田市遺跡調査会  
戸田市立郷土博物館  
日本工業大学工業技術博物館  
蓮田市教育委員会  
鉢形城歴史館  
鳩ヶ谷町  
鳩山町教育委員会  
鳩山町史編集委員会  
飯能市教育委員会  
飯能市教育センター  
飯能市児童生徒体力向上推進委員会  
飯能市情報教育推進委員会  
飯能市スポーツ少年団  
飯能市総合政策部行政改革推進室  
飯能市福祉部子ども家庭課  
飯能市役所ホッケー部  
飯能市立図書館  
東秩父村  
深谷市教育委員会  
富士見市遺跡調査会  
富士見市立資料館  
富士見市立難波田城資料館  
富士見市立水子貝塚資料館  
ふじみ野市立大井郷土資料館  
ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館  
ふじみ野市教育委員会  
松伏町教育委員会  
三郷市  
三芳町教育委員会  
三芳町立歴史民俗資料館  
毛呂本郷囃子保存会  
毛呂山町教育委員会  
毛呂山町歴史民俗資料館  
八潮市教育委員会  
吉川市教育委員会  
吉見町教育委員会  
寄居町遺跡調査会  
寄居町教育委員会  
立正大学博物館  
蕨市立歴史民俗資料館

## 東京都

足立区教育委員会  
板橋区教育委員会  
板橋区立郷土資料館

青梅市教育委員会  
青梅市郷土博物館  
大田区立郷土博物館  
学習院大学史料館  
葛飾区郷土と天文の博物館  
加藤建設(株)埋蔵文化財調査部  
加藤建設(株)・並木不動産(株)  
上日出谷南遺跡群発掘調査会  
北区飛鳥山博物館  
北区教育委員会  
共和開発(株)  
清瀬市郷土博物館  
交友プランニングセンター  
国際基督教大学博物館  
国立科学博物館  
(財) 渋沢栄一記念財団  
渋沢史料館  
志村遺跡調査会  
(株)主婦の友社  
杉並区立郷土博物館  
住友不動産(株)  
全国歴史資料保存活用連絡協議会  
大正大学教育課学芸員課程  
大成エンジニアリング株式会社  
台東区文化財調査会  
高幡山 金剛寺  
(財)多摩市文化振興財団  
(財)たましん地域文化財団  
(財)地域創造  
調布市教育委員会  
調布市郷土博物館  
(財)伝統文化活性化国民協会  
(社)東京倶楽部  
(財)東京大学出版会  
東京都江戸東京博物館  
(財)東京都生涯学習文化財団  
東京都美術館  
東京都三多摩公立博物館協議会  
豊島区教育委員会  
豊島区立郷土資料館  
西東京市教育委員会  
(財)日本海事科学振興財団  
日本女子大学  
日本土地建物(株)  
(財)日本博物館協会  
(財)野村美術館  
八王子市教育委員会  
八王子市郷土資料館  
バルテノン多摩

東村山市  
東村山市ふるさと歴史館  
日野市立新撰組のふるさと歴史館  
府中市教育委員会  
府中市郷土の森博物館  
(財)府中文化振興財団  
福生市教育委員会  
福生市郷土資料室  
文化環境研究所  
文京ふるさと歴史館  
町田市立自由民権資料館  
瑞穂町教育委員会  
瑞穂町郷土資料館  
三鷹市教育委員会  
三井不動産(株)  
三菱地所(株)  
港区教育委員会  
港区立郷土資料館  
武蔵大学学芸員課程  
(株)武蔵文化財研究所  
武蔵村山市  
武蔵村山市教育委員会  
武蔵村山市立歴史民俗資料館  
明治大学学芸員養成課程  
明治大学博物館  
学校法人 目白学園  
森ビル(株)  
(株)山川出版社  
読売新聞東京本社  
歴史学と博物館のあり方を考える会  
早稲田大学会津八一記念博物館

### その他

(財)アイヌ文化振興研究推進機構  
赤穂市立歴史博物館  
渥美町  
稲敷市立歴史民俗資料館  
(財)犬山城白帝文庫  
愛媛大学文学部  
小笠町教育委員会  
小山市立博物館  
笠懸野岩宿文化資料館  
霞ヶ浦町郷土資料館  
神奈川大学日本常民文化研究所  
かみつけの里博物館  
各務原市歴史民俗資料館  
川崎市市民ミュージアム  
菊川市教育委員会  
菊川町教育委員会

(財)君津都市文化財センター  
群馬県立歴史博物館  
神戸新聞社  
国立歴史民俗博物館  
相模原市立博物館  
指田日記の会  
寒川町史編集委員会  
塩尻市教育委員会  
塩尻市立平出博物館  
下総町立歴史民俗資料館  
下関市立考古博物館  
社団法人 霞会館  
(財)高岡市民文化振興事業団・高岡市万葉歴史館  
棚倉町  
田原市教育委員会  
田原市博物館  
千葉県立中央博物館  
千葉県立文書館  
長久寺  
土浦市立博物館  
津山郷土博物館  
利根川中流域水文化研究所  
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館  
流山市教育委員会  
流山市立博物館  
奈良県立民俗博物館  
新潟県中越地域文化財救済委員会  
新治村教育委員会  
野田市郷土博物館  
秦野市  
秦野市立桜土手古墳展示館  
平塚市博物館  
北海道開拓記念館  
北海道女性医師史編纂刊行委員会  
北海道立北方民族博物館  
松代文化施設等管理事務所  
松戸市立博物館  
丸井図書出版株式会社  
美浦村  
美濃加茂市民ミュージアム  
茂原市立美術館・郷土資料館  
横浜開港資料館  
(財)横浜市ふるさと歴史財団  
立命館大学国際平和ミュージアム

# 職 員

## 平成17年度

館 長 久下 文男  
主 査 島崎 淳子  
主 査 塩野 智巳  
学芸員 柳戸 信吾  
学芸員 引間 隆文  
臨 時 (資料整理・展示準備)  
石田 朋子  
櫻井なを子  
臨 時 (清掃) 白石 敏之  
臨 時 (名栗村史編さん)  
島田 稔  
加藤 緑  
岡部 暢子

## 平成18年度

館 長 加藤 樹  
主 査 塩野 智巳  
学芸員 柳戸 信吾  
学芸員 尾崎 泰弘  
学芸員 引間 隆文  
臨 時 (資料整理・展示準備)  
石田 朋子  
櫻井なを子  
臨 時 (清掃) 白石 敏之  
臨 時 (名栗村史編さん)  
島田 稔  
加藤 緑  
岡部 暢子

## 平成19年度

館 長 加藤 樹  
主 幹 (学芸員) 柳戸 信吾  
学芸員 尾崎 泰弘  
学芸員 村上 達哉  
学芸員 引間 隆文  
臨 時 (資料整理・展示準備)  
石田 朋子  
入子美佐子  
臨 時 (清掃) 白石 敏之  
臨 時 (名栗村史編さん)  
島田 稔  
加藤 緑  
岡部 暢子

# 飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき

理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 学校教育の関係者
- (3) 社会教育の関係者
- (4) 学識経験者

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。  
(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略



# 飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取

り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号～第8号

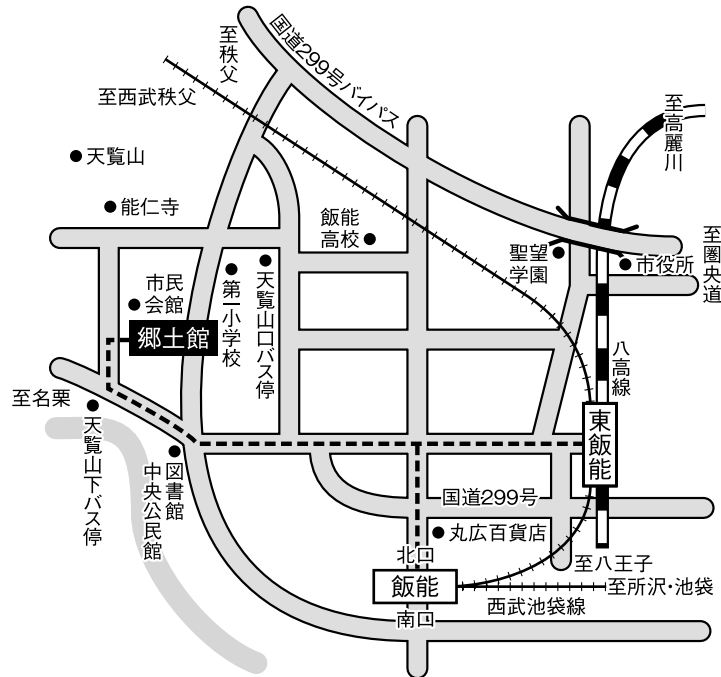
(省略)

## 利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）  
年末年始12月28日～1月4日
- 入館料：無料

## 交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：西武池袋線 飯能駅下車 北口より徒歩約20分  
または、国際興業バス 北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き、  
西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車

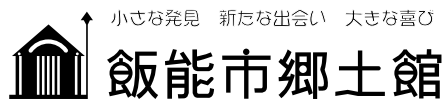


## 飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール 第5号

平成21年3月31日発行

発行 飯能市郷土館  
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1  
TEL (042) 972-1414  
FAX (042) 972-1431  
<http://www.city/hanno.saitama.jp/kyodo/>

印刷 (有)クレバラー・デザインスタジオ  
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4  
TEL (042) 974-5260



小さな発見 新たな出会い 大きな喜び

# 飯能市郷土館

埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL(0429)72-1414 FAX(0429)72-1431